

(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第165集

# 今井道上遺跡

一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

1994

建設省  
群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



寄贈

発行者(所)  
様

今井道上遺跡 正誤表 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

頁	行	誤	正
6	土層注記		(追加) 4 暗褐色土。ロームを 含む軟弱な層。
59	1・2	50号掘立	7号掘立
132	1	35号住居構築物	35号住居構築面

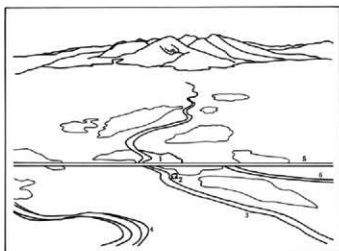
資料 No. 4518	群馬県埋蔵文化財 調査事業団保管 平成10年5月13日	01-353
		518
		1(7)







遺跡の南方より赤城山を望む



- 1：今井道上遺跡
- 2：今井神社古墳
- 3：荒砥川
- 4：桃木川
- 5：国道50号線
- 6：上武道路

#### 赤城山南麓の遺跡群

標高1,828mの黒檜山を最高峰とする赤城山は、半径15kmの範囲に緩やかな裾野を広げ、山麓には数多くの開析谷が台地を刻んでいる。特に、南麓の一部は樹枝状に伸びた沖積低地が発達し、ここはまた利根川の旧流路である広瀬川低地帯と境を接するところでもある。

今井道上遺跡が立地する荒砥川の流域では、沖積低地に沿った台地上で数多くの集落遺跡が発掘調査され、隣接する沖積低地では水田跡も検出されている。とりわけ、この遺跡で集落が出現する古墳時代中期後半以降から集落は急激に増加し、これらの集落は平安時代まで連続と営まれている。

この遺跡の周辺には、5世紀後半に築造された70m級の前方後円墳である今井神社古墳が近接し、今井道上遺跡では平安時代に構築された、方1町の溝が二重に巡る方形区画溝が検出されている。おそらくこれらの遺構は、こうした連続と継続する集落を背景にして成立したにちがいない。



▲奈良・平安時代の方形区画溝 (150、169頁参照)

▼奈良・平安時代の掘立柱建物 (147、169頁参照)





(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告第165集

IMA I MICHI UE  
今井道上遺跡

一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書 第2集

1994

建設省  
群馬県教育委員会  
(財)群馬県埋蔵文化財調査事業団



## 序

一般国道50号は、前橋市を起点として茨城県水戸市に至る延長152kmの主要幹線道路です。このうち前橋市天川大島町から今井町にかけての東前橋地域はかねてより交通渋滞が激しく、これを緩和するために、また道路交通の安全確保を図るために、今井町の上武道路と交差する地点から天川大島間の5.1kmの現道路拡幅工事が昭和63年度より始まりました。これに伴い、工事区域内に所在する埋蔵文化財の発掘調査も開始され、今井白山、今井道上、筑井八日市、野中天神の4遺跡の発掘調査を平成5年度まで行いました。

これら4遺跡のうち今井白山遺跡については、平成4年度に発掘調査報告書を刊行しましたが、本書に続き今井道上遺跡の報告書刊行のための整理作業が今回完了しましたので、ここに調査報告書を刊行することにしました。本報告書には、古墳時代中期から後期にかけての集落と奈良時代から平安時代にかけての居館と考えられる区画溝等が報告されています。いずれも、この時代の集落の動向を知る上で貴重な資料といえます。

発掘調査から報告書作成に至るまで、建設省関東地方建設局、同高崎工事事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、地元関係者等から種々、ご指導ご協力を賜りました。今回、報告書を上梓するに際し、これら関係者の皆様に衷心より感謝の意を表し、併せて、本報告書が群馬県の歴史を解明する上で、広く活用されることを願い序とします。

平成6年 3月

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 小寺弘之





## 例 言

- 1 本書は一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う、今井道上遺跡の発掘調査報告書である。上武道路と交差する部分のうち国道50号以南については、一般国道17号(上武道路)改築工事に伴う今井道上道下遺跡に含まれる。
- 2 本遺跡は群馬県前橋市今井町字道上932～956番地に所在する。
- 3 本遺跡の名称は、遺跡所在地の町名と字を併記して「今井道上遺跡」と呼称する。
- 4 事業主体 建設省関東地方建設局
- 5 調査主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 6 調査期間 昭和62年8月1日～昭和63年3月31日(昭和62年度)  
昭和63年4月1日～昭和63年7月18日(昭和63年度第1次)  
昭和63年10月20日～昭和63年11月18日(昭和63年度第2次)  
平成元年1月9日～平成元年1月23日(昭和63年度第3次)  
平成3年5月23日～平成3年6月28日(平成3年度)
- 7 調査組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
常務理事 白石保三郎(昭和62・63年度) 邊見長雄(平成3年度)  
事務局長 井上唯雄(昭和62年度) 松本浩一(昭和63・平成3年度)  
管理部長 田口紀雄(昭和62・63年度) 佐藤 勉(平成3年度)  
調査研究部長 上原啓巳(昭和62・63年度) 神保術史(平成3年度)  
庶務課長 定方隆史(昭和62年度) 住谷 進(昭和63年度) 岩丸大作(平成3年度)  
調査研究第2課長 桜場一寿(昭和62・63年度) 能登 健(平成3年度)  
事務担当 国定 均 笠原秀樹 須田朋子 吉田有光 柳岡良宏 船津 茂  
野島のふ江 今井もと子  
調査担当 昭和62年度 原 聖信(調査研究員) 神谷佳明(調査研究員)  
金井 武(調査研究員)  
昭和63年度 飯島義雄(主任調査研究員) 石北直樹(調査研究員)  
(第1次) 神谷佳明(調査研究員)  
昭和63年度 飯田陽一(主任調査研究員) 飯塚 誠(主任調査研究員)  
(第2次) 関根慎二(調査研究員) 樋口伸男(調査研究員)  
昭和63年度 飯田陽一(主任調査研究員) 飯塚 誠(主任調査研究員)  
(第3次) 関根慎二(調査研究員) 樋口伸男(調査研究員)  
平成3年度 坂口 一(主任調査研究員) 徳江秀夫(主任調査研究員)  
井上昌美(調査研究員)
- 8 整理主体 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
- 9 整理期間 平成4年4月1日～平成5年3月31日
- 10 整理組織 財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団  
常務理事 邊見長雄  
事務局長 近藤 功

管理部長 佐藤 勉  
調査研究部長 神保侑史  
庶務課長 斉藤俊一  
調査研究第2課長 能登 健  
事務担当 国定 均 笠原秀樹 須田朋子 柳岡良宏 船津 茂 高橋定義  
松下 登 今井もと子 角田みづほ 松井美智代 塩浦ひろみ  
整理担当 坂口 一(主任調査研究員)  
整理班員 阿部和子 狩野フミ子 神谷順子 五明志津江 島崎敏子 島村玲子  
橋爪美頼 福島和恵

11 本書作成の担当者は次のとおりである。

編集 坂口 一  
執筆 I章1節 原 雅信(群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員)  
IV章・V章・VI章2節 神谷佳明(群馬県埋蔵文化財調査事業団 主任調査研究員)  
上記以外 坂口 一  
遺構・遺物図面整理、図版作成等  
阿部和子 狩野フミ子 神谷順子 五明志津江 島崎敏子 島村玲子 橋爪美頼 福島和恵  
遺物写真 佐藤元彦  
保存科学 関 邦一 小村浩一 土橋まり子 樋口一之

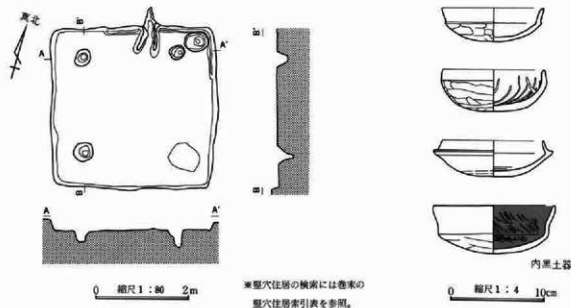
12 出土遺物と、今井道上遺跡に関する整理済み記録資料の一切は、群馬県埋蔵文化財調査センターで保管している。

13 本書の作成にあたっては、次の方々には有益な指導と助言を賜った。記して深甚なる感謝の意を表す次第である。

赤山容造 新井喜昭 飯島静男 飯島義雄 石本 弘 牛嶋 茂 江浦 洋 工業普通 小林正春  
佐藤明人 申 敬敬 須永光一 早田 勉 外尾常人 武末純一 田中清美 田辺昭三 趙 現鐘  
橋本澄朗 細野高伯 前原 豊 三浦京子 宮崎重雄 柳沼賢治 梁木 誠 柳沢一男 渡辺 一  
(敬称略)

## 凡 例

- 1 調査区域には、国家座標に基づいて4 m間隔のグリッドを設定した。グリッドの原点(Aa-00)は日本平面直角座標系第IX系のX=40.900km、Y=-61.000kmで、グリッドの国家座標上における位置は、付図1「周辺地形図」に示した。
- 2 住居の方位は、竈が付設された壁、あるいは竈が付設されていたと推定される壁に直行する軸線の、真北に対する傾きを示し、時計回りを+、反時計回りを-とした。
- 3 遺物観察表の記載方法は次のとおりである。
  - (1) 胎土中の砂粒の大きさによる分類は、土壌物理研究会による基準に従い、細砂粒( <0.5mm)、粗砂粒(0.5~2.0mm)、細礫(2.0~5.0mm)、中礫(5.0mm< )とした。
  - (2) 色調は農林省水産技術会議事務局監修、朝日本色彩研究所色標監修の新標準率土色帖に従った。
  - (3) 遺物の出土レベルは、遺構の床面から遺物までの垂直距離を示した。
- 4 竪穴住居の面積は、1/40図上でプランメーターによる3回の計測平均値を採り、住居確認面の掘り込みから内側を測定した。



### 竪穴住居外形分類基準

上 段：長軸長 (単位 m)  
下 段：長軸比 (長軸長/短軸長)

規模	形状	形状		
		正 方 形	縦 長 長 方 形	横 長 長 方 形
超 大 形		6.5m以上	6.5m以上	6.5m以上
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上
大 形		5.4~6.5m未満	5.4~6.5m未満	5.4~6.5m未満
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上
中 形		4.3~5.4m未満	4.3~5.4m未満	4.3~5.4m未満
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上
小 形		3.2~4.3m未満	3.2~4.3m未満	3.2~4.3m未満
		1.0~1.1未満	1.1以上	1.1以上

# 目 次

口絵	
序	i
例言	iii
凡例	v
報告書抄録	vii
I 発掘調査と遺跡の概要	
1 調査の経過	1
2 遺跡の位置と地形	2
3 周辺の遺跡	3
4 遺跡の標準土層	5
II 竪穴住居	6
III 竪穴状遺構	136
IV 柵列・掘立柱建物	142
V 溝・土塙・井戸・風倒木	150
VI 考 察	
1 今井道上遺跡の集落構成と変遷	161
2 今井道上遺跡の方形区画遺構について	169
竪穴住居索引表	175
竪穴状遺構・掘立柱建物索引表	176

## 別 冊

自然科学分析所見  
遺物観察表

## 付 図

- 1 遺跡位置図 (1/1,000)
- 2 遺構全体図 (1/600)
- 3 方形区画溝全体図 (1/200)

報 告 書 抄 録

フリガナ	イマイミチウエ
書 名	今井道上遺跡
副 書 名	一般国道50号（東前橋拡幅）改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻 次	第2集
シリーズ名	群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告
シリーズ番号	第165集
編 著 者 名	坂口 一
編 集 機 関	財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団
編集機関所在地	群馬県勢多郡北橋村大字下箱田784-2
発 行 年	西暦1994年3月25日

フリガナ 所収遺跡名	フリガナ 所在地	コ ー ド		北 緯 ° ' "	東 経 ° ' "	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
今井道上	前橋市今井町 字道上	102016		36°21'58"	139°9'25"	19870801	5,000㎡	道路建設
						19880331		
						19880401		
						19880718		
						19881020		
						19881118		
						19890109		
						19890123		
						19910523		
						19910628		
	2,400							
	650㎡							

所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物	特 記 事 項
今井道上	住居 方形区 画溝	古墳時代	竪穴住居	34軒	古墳時代中期～後期 土師器、須恵器、鉄器 奈良・平安時代 土師器、須恵器 中世陶器	方1町の区画溝
		平安時代	竪穴住居	1軒		
		奈良平安	掘立柱建物	7棟		
		中世	方形区画溝	1か所		
			竪穴状遺構	6棟		

# I 発掘調査と遺跡の概要

## 1 調査の経過

一般国道50号(東前橋拡幅)改築事に伴う今井道上遺跡の発掘調査は、昭和62年度から上武道路に接続する部分より着手し、平成3年度まで調査を実施した。調査対象地は上武道路を挟む東西約420m、幅は国道50号線の両側10m(一部30m)である。発掘調査にあたっては対象地内の家屋の移転および撤去、耕作物・構造物の除去などの工程上の経緯もあり、実施可能な部分から順次着手することとなった。以下、調査年次に沿って経過を報告する。

**昭和62年度(昭和62年8月～昭和63年3月)** 上武道路に接する国道北側部分を中心として調査に着手するとともに、調査区の東端にあたる区域など、部分的に実施が可能な範囲についても対象とした。このため、小範囲を多地点にわたって調査する結果となり、調査地点は合計9地点となった。

また、調査の実施にあたっては、調査区が民家や店舗に近接すること、および幹線道路である国道50号線の両側にあたるという点から、安全対策としてフェンスの設置などを行いながら進行した。調査は上武道路と交差する国道の北側部分から開始した。ここは幅が30mと通常の拡幅部より広い区域にあたり、さらに上武道路の建設に伴う今井道上道下遺跡に連続していることから、遺構が集中して分布していた。

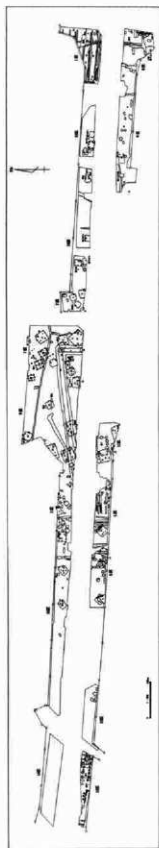
今回の調査で特に注目される点は、上武道路の調査時に確認していた平行する2条の溝が、ほぼ100mの範囲を方形に区画するものであろうとの所見が得られたことである。なお、遺構の分布は東側に向かって希薄となる傾向が認められた。調査面積は5,000㎡で、昭和63年3月31日に終了した。

**昭和63年度(昭和63年4月1日～7月18日・昭和63年10月20日～11月18日・平成元年1月9日～1月23日)** 前年度からの継続調査である。この年度についても用地買収、既存建物の移転・撤去などとの関係から一括して調査を実施することには至らず、やはり多地点にわたる分割調査となった。調査地点は国道の両側で合計6地点であり、これに伴い調査期間も三次に分割した。

遺構は前年度の調査部分に接する区域に集中的に分布し、西側に向かって分布が希薄となる傾向が認められた。さらに、この西側部分には開墾による攪乱もあり、遺存状態は良好ではなかった。

今回の調査で注目される点は、前年度に確認されていた二重の溝による方形区画遺構に接して、主軸方向を一致させる大型独立柱建物跡を1棟検出したことである。調査面積は2,400㎡で、平成元年1月23日に調査を終了した。

**平成3年度(平成3年5月23日～平成3年6月28日)** 昭和63年度の段階で未買収であった遺跡の中央部650㎡の調査を実施し、この遺跡の全調査を終了した。調査面積は8,050㎡で、調査開始以来延べ3年10ヶ月を要した。



挿図1 発掘調査区域図

## 2 遺跡の位置と地形

今井道上遺跡は群馬県前橋市今井町に所在し、前橋市街地の東方8kmに位置している。群馬県の地形図は鶴が空を舞う形に例えられるが、このうち鶴首にあたる前橋市、伊勢崎市、太田市、館林市など、県の南東部の地域には平坦地がひろがり、関東平野で最奥部の平野部を形成している。一方、県の中央部にはともに成層火山である榛名山と赤城山が利根川を挟んで対峙しているほか、鶴首を除く大半が山間部で、特に鶴の両翼と尻尾の部分は険しい山岳地帯である。

この遺跡を南麓の末端に載せる赤城山は、標高1,828mの黒檜山を最高峰として、半径15kmの範囲に緩やかな裾野をひろげている。山麓には数多くの開析谷が台地を刻み、特に南麓の一角は樹枝状に伸びた沖積低地が発達している。また、山麓の南西の末端部は利根川の旧流路である広瀬川低地帯と境を接し、この遺跡の周辺では変化に富んだ地形面を形成している。

この遺跡は、広瀬川低地帯と接する赤城山の南麓の末端部に位置し、宮川と荒砥川に挟まれたローム台地上に立地している。現地盤の標高は87～89mで、北東から南西にかけて緩い傾斜地形を示す。遺跡の西側400mには一級河川の荒砥川が南流し、荒砥川の西側は後期更新世に形成され、現在は水田化されている荒砥川の扇状地へと続いている。

遺跡の周囲は扇状地で台地化しているが、遺跡の西側には今井沼から南西の方向に流下する沖積低地が接し、遺跡の東側500mには宮川に伴う沖積低地が南の方向に伸びている。現在、周囲の台地上で畑が営まれているのとは対照的に、荒砥川を含めた沖積低地では水田が営まれ、こうした沖積低地に沿った台地上で数多くの古代遺跡が発掘調査されている。



挿図2 周辺の地形図

0 1:50000 1000m

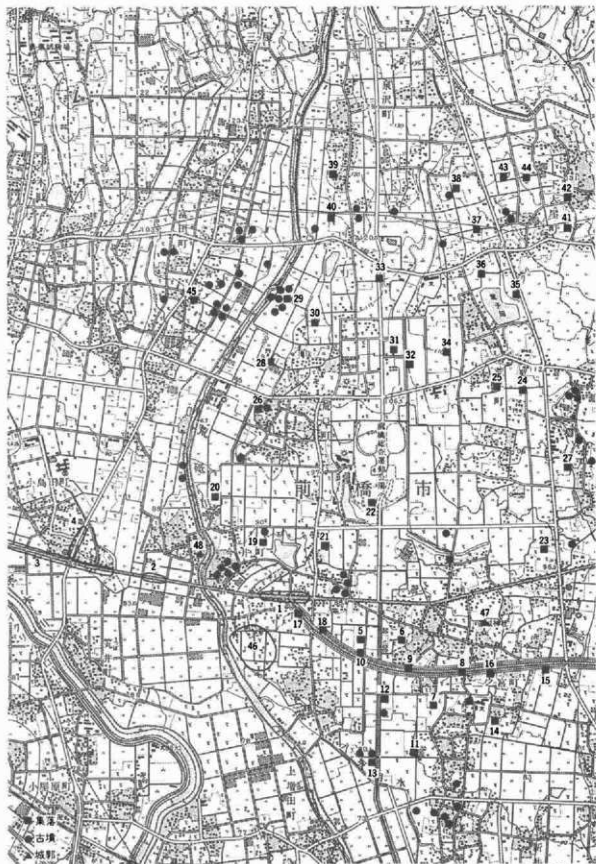
### 3 周辺の遺跡

今井道上遺跡が立地する赤城山の南麓の末端部では、数多くの遺跡が発掘調査されている。とりわけ、この遺跡で集落が出現する古墳時代中期後半以降から、集落は急激な増加をみる。近接する荒砥北三木堂遺跡、今井白山遺跡などがその代表的な遺跡で、これらは70m級の前方後円墳である今井神社古墳の成立と軌を一にしている。

一方、この遺跡では9世紀前半代の居館と推定される、二重の溝による方形区画遺構を検出している。この時期の集落は遺跡内に存在せず、隣接する今井道上道下遺跡にもない。今のところこの時期の集落が確認されているのは二之宮谷地遺跡、荒砥北三木堂遺跡で、近接した部分に同時期の集落が立地しないことは、この遺構の性格の一端を示唆しているのかも知れない。

番号	遺跡名	年代	遺構	文献
1	今井道上遺跡	古墳・奈良・平安	住居址・居館址	『今井白山遺跡』朝野理文 1992 『年報』9・10・11・12 朝野理文 1990・1991・1992・1993 『年報』12 朝野理文 1993 『荒砥北遺跡・荒砥宮古遺跡』朝野理文 1989 『荒砥北遺跡・荒砥宮古遺跡』朝野理文 1989 『荒砥天の宮遺跡』朝野理文 1987 『年報』6・7 朝野理文 1987・1988 『年報』6・7 朝野理文 1987・1988 『荒砥島原遺跡』朝野理文 1983 『宮川遺跡』群馬県教委 1980 『宮川遺跡』群馬県教委 1980 『荒砥北原遺跡ほか』朝野理文 1986 『年報』7 朝野理文 1986 『年報』6・7 朝野理文 1987・1988 『年報』6・7 朝野理文 1987・1988 『荒砥北三木堂遺跡』朝野理文 1982 『荒砥北原遺跡』朝野理文 1986 『年報』1 朝野理文 1982 『鶴ヶ谷遺跡群』『鶴ヶ谷遺跡群II』市教委 1981・1982 『年報』2 朝野理文 1983
2	今井白山遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	住居址・地置跡	
3	荒井八日市遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中近世	堀跡・遺跡状遺構 墳墓・墓址	
4	小島田八日市遺跡	縄文・古墳・中世	住居址・水田址	
5	荒砥洗橋遺跡	古墳・奈良・平安・近世	住居址	
6	荒砥宮西遺跡	古墳・奈良・平安	住居址	
7	荒砥天の宮遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	住居址・水田址	
8	二之宮宮下西遺跡	古墳・奈良・平安	住居址	
9	二之宮千足遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中世	住居址・水田址	
10	二之宮洗橋遺跡	古墳・奈良・平安	住居址	
11	荒砥島原遺跡	弥生・古墳・奈良・平安	住居址・墓址・水田址	
12	宮川遺跡	弥生・古墳・奈良・平安	住居址・墓址・水田址	
13	宮原3遺跡	古墳	住居址・墓址	
14	荒砥青柳遺跡	古墳・奈良・平安	住居址	
15	二之宮宮東遺跡	縄文・平安・中・近世	住居址・水田址	
16	二之宮宮下東遺跡	古墳・奈良・平安	住居址・水田址	
17	今井道上道下遺跡	先土器～近世	住居址	
18	二之宮谷地遺跡	先土器・縄文・古墳・奈良・平安	住居址・水田址	
19	荒砥北三木堂遺跡	先土器・縄文・古墳・奈良・平安	住居址・墓址	
20	荒砥北原遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	住居址・墓址	
21	荒砥大日輝遺跡	弥生・古墳・奈良・平安	住居址・水田址	
22	鶴ヶ谷遺跡群	弥生・古墳・奈良・平安	住居址	
23	荒砥上ノ坊遺跡	縄文・古墳・奈良・平安	住居址・墓址	
24	荒砥下押切Ⅰ・Ⅱ	古墳・奈良・平安	住居址・墓址	
25	荒砥中屋敷Ⅰ・Ⅱ	古墳・平安	住居址・水田址	
26	荒口前原遺跡	弥生・平安	住居址	
27	荒砥菓子遺跡	古墳・奈良・平安	住居址・水田址	
28	荒砥宮田遺跡	縄文・古墳・奈良・平安・中近世	住居址・墓址・水田址	
29	荒砥諏訪西遺跡	古墳・平安・中・近世	住居址・水田址・墓址	
30	荒砥諏訪東遺跡	古墳	墓址	
31	鶴久保遺跡群	先土器・縄文・古墳・奈良・平安	住居址・墓址	
32	鶴久保水田遺跡	平安	水田址	
33	久久保遺跡	古墳・奈良・平安	住居址	
34	須原遺跡	弥生・古墳・平安	住居址	
35	堤東遺跡	古墳・平安	住居址	
36	川電野戸遺跡	古墳・平安	住居址・墓址	
37	上高野遺跡	奈良・平安	住居址	
38	向原遺跡	古墳・奈良・平安	住居址・墓址	
39	丸山遺跡	古墳	住居址・墓址	
40	北原遺跡	古墳・平安	住居址・墓址	
41	北田下遺跡	古墳・平安	住居址	
42	中隈遺跡	平安	住居址	
43	村主遺跡	古墳・奈良・平安	住居址	
44	中山B遺跡	古墳・平安	住居址	
45	宮下遺跡	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	住居址・墓址	
46	今井神社古墳群	古墳・平安	住居址・墓址	
47	二之宮赤城神社	平安・中・近世		
48	今井城	中世	城跡址	『荒砥北原遺跡ほか』朝野理文 1986 『群馬県古墳域史の研究』上巻 山崎 一 1971





挿図3 周辺の遺跡分布図

0 1 : 25000 500m

#### 4 遺跡の標準土層

この遺跡は、広瀬川低地帯と接する赤城山の南麓の末端部に位置し、基盤層は後期更新世における扇状地堆積物である。しかし、現地表下2.7mの位置に4～4.4万年前と推定される榛名八崎軽石(Hr-HP)の純層堆積がみられることから、この時期には扇状地の形成が終了していたものと考えられる。この上部をローム層が覆い、ローム層中には浅間山起源のテフラが認められるほか、下部には部分的ではあるが始良Tn火山灰(AT)の堆積もみられる。

この遺跡はローム台地上に立地し、調査区域内に沖積低地は存在しない。したがって、全体にほぼ一様な土層の堆積状態が認められる。この遺跡で確認した標準層序は以下のとおりである。

**I層 耕作土層** 現在の畑耕作土層。

**II層 ローム漸移層** 縄文時代の遺物包含層。

**III層 ソフトローム層** ブロック状に固く締まったロームを含む。

**IV層 ハードローム層** 浅間一板鼻黄色軽石(As-YP)を含む。

**V層 ハードローム層** 浅間一板鼻褐色軽石群(As-BP)を含む。始良Tn火山灰(AT)

**VI層 暗褐色土層** 下部にAT含む。

**VII層 暗色帯層** 上部にAT含む。

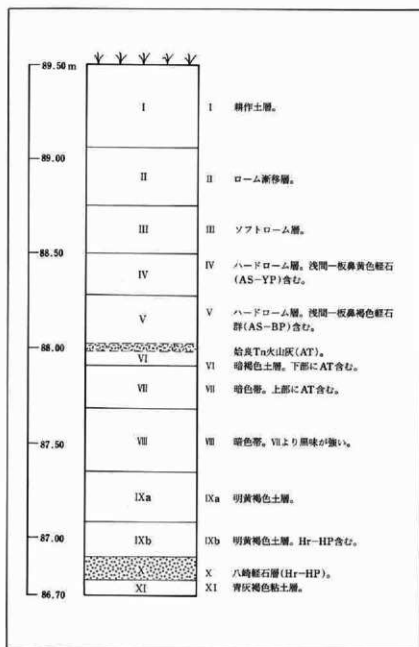
**VIII層 暗色帯層** VII層より黒味が強い。

**IXa層 明黄褐色土層**

**IXb層 明黄褐色土層** 榛名八崎軽石層(Hr-HP)を含む。

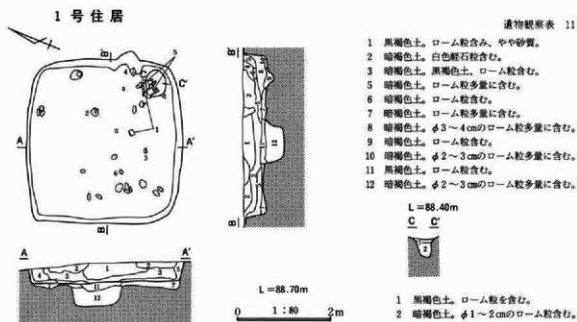
**X層 榛名八崎軽石層(Hr-HP)**

**XI層 青灰褐色粘土層**



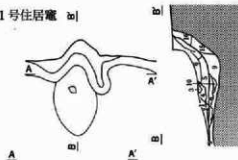
挿図4 標準層序図

## II 竪穴住居

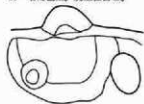


**形状** 短軸3.3m、長軸3.5mで、東西が僅かに長い小形正方形住居。9号住居に住居の規模、形状が比較的近似するが、年代は異なる。床面 基盤層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が直径1.1m、深さ40cmの円形に掘り込まれ、各壁に沿った部分が住居の中央部よりやや深く掘り込まれている。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡はない。竈跡 東壁の中央よりやや南側に設置する。残存状態が悪く全形を確認することはできないが燃焼部を壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は火床の底面から60°の傾きで立ち上がり、壁を20cm掘り込む。貯蔵穴 住居の南東隅に短軸40cm、長軸60cm、深さ40cmの楕円形プランで設置する。遺物 住居中央東側の床面に密着して土師器環、南東隅の床面に密着して土師器甕が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、土師器甕・小形粗製土器が出土する。重複 他の住居と重複することなく単独で占地する。方位 +69° 面積 10.74㎡

1号住居竪 Ⅱ



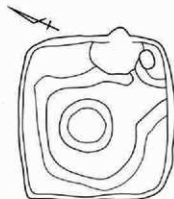
- 1 灰褐色土。灰白色粘質土、焼土ブロック含む。
- 2 暗褐色土。焼土含む。
- 3 黄褐色土。ローム、灰白色粘質土、焼土ブロックより構成。
- 4 灰褐色土。灰褐色粘質土、焼土ブロック含む。
- 5 黒褐色土。ローム粒、焼土を含む。
- 6 暗褐色土。焼土ブロック、灰白色粘質土含む。
- 7 暗褐色土。ローム粒、焼土を含む。
- 8 黒褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 9 暗褐色土。ローム粒含む。
- 10 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 11 黒褐色土。φ2~3cmのロームブロック含む。
- 12 褐色土。ローム主体。
- 13 褐色土。多量のローム含む。
- 14 暗褐色土。指頭大のロームブロック含む。
- 15 暗褐色土。多量のローム含む。
- 16 暗褐色土。焼土粒含む。



L=88.70m  
1:40  
0 1m

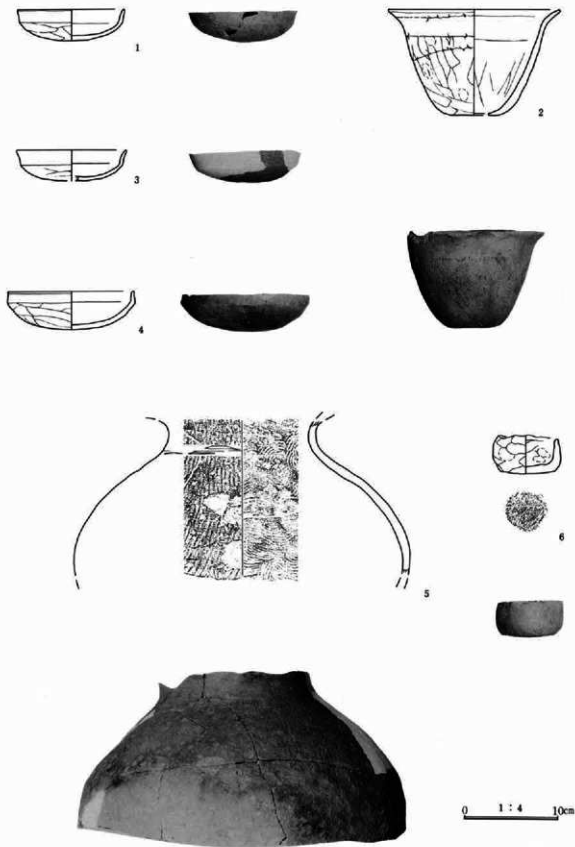


1号住居構築面



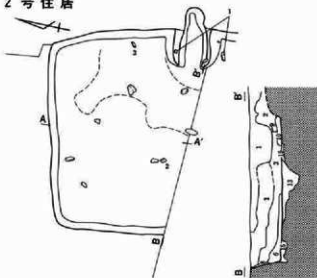
0 1:80 2m



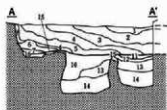


1号住居出土遺物

2号住居



- 遺物観察表 11
- 1 黒色土。ローム粒を含む。
  - 2 暗褐色土。ローム粒を含む。
  - 3 暗褐色土。指痕穴のロームブロック含む。
  - 4 黒褐色土。ローム粒含む。
  - 5 暗褐色土。ローム粒多量に含む。
  - 6 暗褐色土。ローム粒含む。
  - 7 暗褐色土。φ3～5cmのローム粒含む。
  - 8 褐色土。ロームを主体とする。
  - 9 暗褐色土。ロームを多く含む、ロームブロックも混入。
  - 10 暗褐色土。ローム混入。
  - 11 暗褐色土。ローム粒多く含む。
  - 12 暗褐色土。灰白色粘質土、ローム粒含む。
  - 13 暗褐色土。φ3～4cmのローム粒含む。
  - 14 暗褐色土。φ5cm前後のローム粒含む。
  - 15 褐色土。ロームを主体とする。
  - 16 黒褐色土。ローム粒、ロームブロックを多く含む。

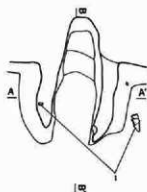
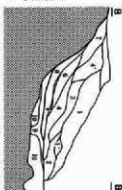


L=88.70m  
0 1:80 2m

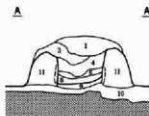
**形状** 住居の南側が調査区域外のため、全形を確認することができない。確認した東西軸の長さ4.4mは、16号住居と一致し、この住居は軸線の傾きと年代が比較的近似している。床面基盤層を60cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部に直径1.2m、深さ80cmの円形と、直径1.0m、深さ60cmの不整形円の2個のピットが掘り込まれる。また、壁に沿った部分は、住居の中央部より深く掘り込まれている。この面に厚さ10cmの粘床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡はない。竈 跡 東壁に設置する。壁内に造り付けた長さ70cmの袖部を検出した。燃烧部は幅40cm、奥行き70cmで、全てを壁内に造り付ける燃烧部壁内型を呈し、袖部の内側は強く焼けた痕跡を残す。煙道は火床の底面から45°の傾きで立ち上がり、壁外40cmまで伸びる。遺物 床面に密着した土器はなく、覆土内より土師器 坏・甕・須恵器蓋・長頸甕が出土する。須恵器 長頸甕を除いて型式差が認められないため、これらが住居の年代を示すと判断した。重複 他の住居と重複することなく単独で占地する。方位 +78° 面積 測定不可能。



2号住居竈

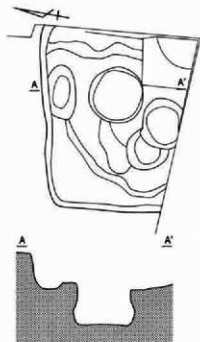


- 1 茶褐色土。ロームと暗褐色土の混土层。
- 1' 茶褐色土。ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。下位に焼土ブロック、灰、炭化物含む。
- 3 茶褐色土。下位に焼土ブロック含む。
- 4 茶褐色土。暗褐色土との混土层。
- 4' 下位に焼土ブロック含む。
- 5 焼土ブロックと炭化物の混土层。
- 6 茶褐色土。暗褐色土含む。
- 7 茶褐色土。暗褐色土含む。下位に焼土含む。
- 8 暗赤褐色土。焼土ブロック含む。
- 9 赤褐色土。焼土ブロック多量に含む。
- 10 茶褐色土。ロームと褐色土の混土层。
- 11 茶褐色土。ロームを主体とした凝縮築材。



L = 88.60m  
0 1 : 40 1 m

2号住居構築面



L = 88.70m  
0 1 : 80 2 m





1



2



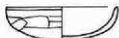
3



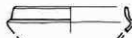
4



5



6



7



8



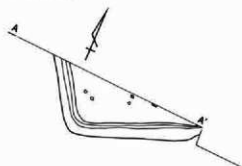
0 1 : 4 10cm

2号位層出土遺物



### 3号住居

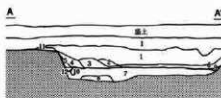
遺物観察表 11



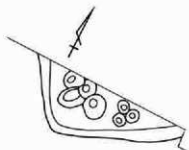
L=89.00m  
0 1:80 2m

**形状** 住居の北側が調査区域外のため全形を確認することができず、形状、規模とも不明である。床

**面** 基盤層を60cm掘り込んで構築面とする。構築面は壁際が住居の中央部より15cm程深く掘り込まれている。この面に厚さ20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で整っている。柱穴 確認した床面の範囲内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 確認した壁内に竈の痕跡はない。壁溝 幅15cm、深さ10cmで、確認した全壁下に巡る。遺物 床面に密着した土器はなく、覆土内より土師器環が出土する。住居の年代を判定する資料はこれ以外にない。重複 他の住居と重複することなく単独で占地する。方位 +69° 面積 測定不可能。



- 1 耕作土。
- 1 暗褐色土。灰褐色土含む。
- 2 褐色土。白色軽石粒含む。
- 3 褐色土。多量のロームブロック含む。
- 4 褐色土。
- 5 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 6 暗黄褐色土。白色軽石粒含む。
- 7 暗黄褐色土。ロームブロック、黒褐色土含む。
- 8 黄褐色土。ロームブロック含む。
- 9 黒褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 10 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 11 黄褐色土。ロームブロック。
- 12 暗黄褐色土。ロームブロック。



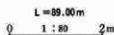
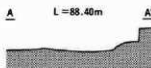
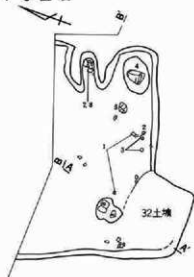
0 1:80 2m



0 1:4 10cm



## 4号住居

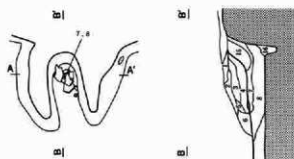


- 1 褐色土。灰褐色土含む。
- 2 黒褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 3 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 4 暗褐色土。ロームブロック、白色軽石粒含む。
- 5 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 6 暗褐色土。焼土粒含む。
- 7 暗褐色土。焼土粒多量に含む。
- 8 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 9 暗褐色土。焼土粒含む。
- 10 黄褐色土。黒色土含む。



**形状** 住居の北側が調査区域外のため全形を確認することができず、形状、規模ともに不明である。住居の西側を、重複する32号土壇が切る。床面 基盤層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は浅い小ピットがいくつか認められる他は、平坦で整っている。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で整っている。柱 穴 確認した床面の範囲内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡はない。竈 跡 東壁に設置する。壁内に造り付けた長さ70cmの袖部を検出した。燃燒部は幅30cm、奥行き70cmで、全てを壁内に造り付ける燃燒部壁内型を呈す。煙道は、確認した壁高の範囲では壁を掘り込んでいない。貯蔵穴 住居の南東隅に短軸60cm、長軸80cm、深さ20cmの楕円形プランで設置する。遺物 貯蔵穴の底面に密着して土師器甕、住居西側の床面に密着して土師器杯、南壁際中央部の床面直上より土師器甕が出土し、これらが住居の年代を示す。この他、覆土内より土師器甕が出土する。重複 他の住居と重複することなく単独で占地する。方位 +69° 面積 測定不可能。

4号住居跡



A A'

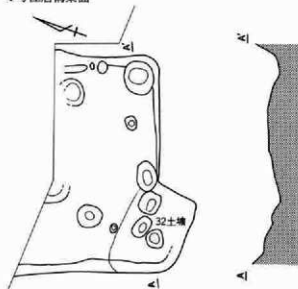


L=88.60m  
0 1:40 1m

- 1 暗褐色土。焼土粒。
- 2 褐色土。ローム粒、焼土粒、黄褐色粘土含む。
- 3 褐色土。多量の焼土粒含む。
- 4 赤褐色土。多量の焼土粒、白色粘土粒含む。
- 5 褐色土。焼土粒、白色粘土粒含む。
- 6 暗褐色土。焼土粒、白色粘土粒含む。
- 7 暗褐色土。灰、焼土粒、ローム粒含む。
- 8 暗黄褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 9 暗褐色土。粘質土、焼土粒含む。
- 10 暗褐色土。多量の焼土粒含む。
- 11 暗褐色土。焼土粒、黄色粘土粒、炭化物含む。
- 12 暗褐色土。焼土粒含む。
- 13 黄褐色粘土。焼土、灰、ロームブロック含む。
- 14 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 15 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 16 黄褐色土。ローム、褐色土含む。
- 17 黄褐色土。根痕。

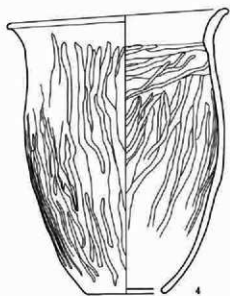
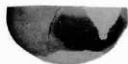
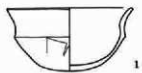


4号住居構築面



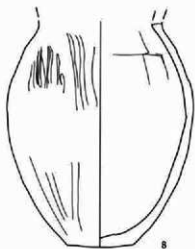
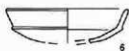
L=88.30m  
0 1:80 2m





0 1:4 10cm

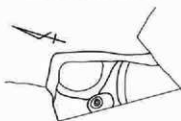
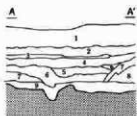
4号住居出土遺物



0 1 : 4 10cm

4号住居出土遺物

5号住居



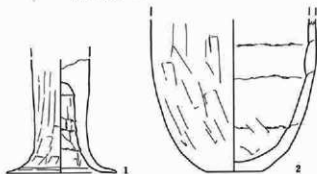
L=89.30m

0 1:80 2m



- 1 黒色土。耕作土。
- 2 黒色土。ローム含む砂質土。
- 3 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 4 黒褐色土。白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。
- 5 黒褐色土。ローム多量に含む。
- 6 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 7 黒褐色土。φ2cm前後のロームブロック含む。
- 8 暗褐色土。ローム粒、灰褐色粘質土含む。
- 9 暗褐色土。φ3~6cmのロームブロック含む。

遺物観察表 12



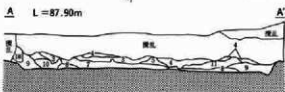
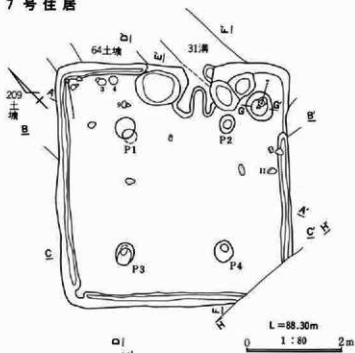
0 1:4 10cm

**形状** 住居の南・西側が調査区域外のため全形を確認することができず、形状、規模ともに不明である。床面 基盤層を60cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ20cmの貼床を施して、平坦な生活面を造る。

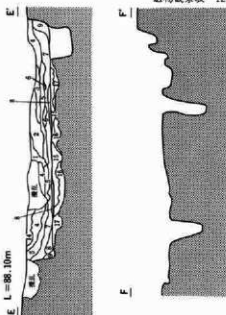
**柱穴** 確認した床面の範囲内に支柱穴は

なく、壁外にも柱穴の痕跡はない。**竈跡** 確認した壁内に竈の痕跡はない。**遺物** 東壁際の床面直上より土師器高坏・甕が出土し、これらが住居の年代を示すが、いずれも完形品ではなく詳細な年代を推定し難い。**重複** 他の住居と重複することなく単独で占地する。**方位** +80° **面積** 測定不可能。

7号住居



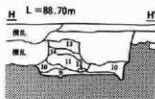
遺物観察表 12



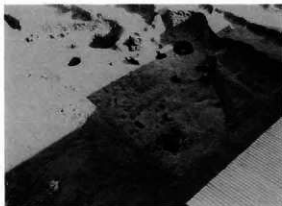
L=87.70m G G'



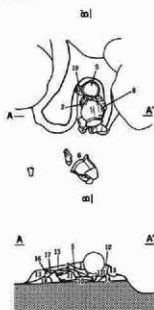
- 1 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 2 雑土。
- 3 暗褐色土。ロームブロック少量含む。
- 4 暗黄褐色土。ロームブロック含む。



- 1 暗褐色砂質土。φ3~4mmの白色軽石粒含む。
- 2 暗灰褐色砂層。
- 3 暗灰褐色砂質土。φ5~8mmの白色軽石粒含む。
- 4 暗褐色土。
- 5 黒褐色土。φ2~5mmの白色軽石粒含む。
- 6 ロームブロック。
- 7 黒褐色土。ロームブロック、黒褐色土含む。
- 8 黒褐色土。ローム粒含む。
- 9 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 10 暗黄褐色土。ローム粒、褐色土含む。
- 11 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 12 暗褐色土。焼土含む。
- 13 黒褐色土。ローム粒含む。
- 14 暗褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 15 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 16 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 17 黄褐色土。黒色土含む。
- 18 灰褐色土。



### 7号住居竈



L=88.00m  
0 1:40 1m



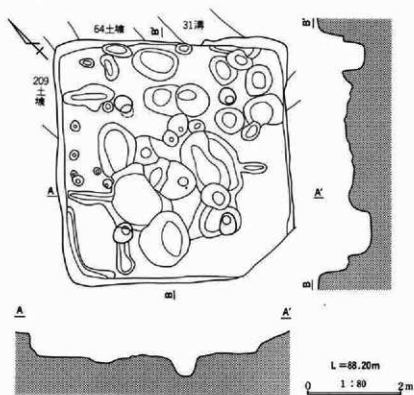
- 1 黒褐色土。ローム粒含む。
- 2 白色粘質土。焼土、ローム粒含む。
- 3 赤色粘質土。2層が焼土化。
- 4 黄褐色土。ローム、焼土粒含む。
- 5 暗褐色土。焼土、白色粘土。
- 6 黄褐色土。ロームブロック含む。
- 7 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 8 暗黄褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 9 暗褐色土。焼土粒、黄色粘土ブロック、灰含む。
- 10 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 11 暗黄褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 12 赤褐色土。焼土化したローム。
- 13 黄褐色土。ローム主体。
- 14 黒褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 15 褐色土。
- 16 黄褐色土。黒色土粒含む。
- 17 暗黄褐色土。ローム主体。
- 18 黄褐色土。
- 19 黒褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 20 黒褐色土。多量のローム粒含む。
- 21 黒色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 22 黄褐色土。黒色土粒含む。

**形状** 短軸4.9m、長軸5.1mの中形正方形住居。8号住居に住居の規模、形状、軸線の傾きが近似し、年代も近い。住居の南東隅は調査区域外のため確認できない。床 面 基盤層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に小さな起伏が多く、平坦な面はない。この面に厚さ20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱 穴 住居のほぼ対角線上に4個を配置する。柱穴の心々を結ぶ四角形は短軸2.1m、長軸2.6mで、住居の外形と相似形ではない長方形を示す。直径40cm、深さ70~90cmの円形掘り方を呈す。

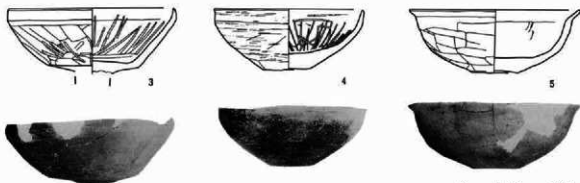
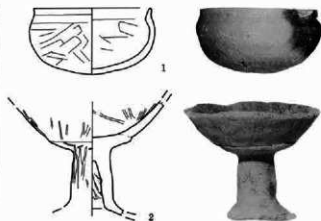
**竈 跡** 北壁の中央よりやや東側に設置する。壁内に造り付けた長さ80cmの袖部を検出した。燃焼部は幅30cm、奥行き80cmで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は重複する溝に切られて確認することができない。燃焼部の中央より、土師器臺が住居の内側に倒れた状態で出土する。貯蔵穴 住居の北東隅



7号住居構築面

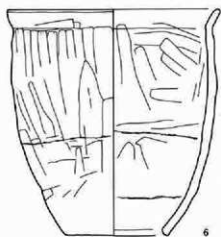


に直径60cm、深さ50cmの不  
 整円形プランで設置する。  
 壁溝幅15cm、深さ10cm  
 で、竈の部分と住居の北東  
 部を除いた壁下に巡る。遺  
 物 北壁際西側の床面に密  
 着して土師器高坏・坏・鉢、  
 竈内より土師器壺が出土  
 し、これらが住居の年代を  
 示す。その他、貯蔵穴内よ  
 り土師器高坏、北壁際西側  
 の床面直上より土師器短頸  
 壺が出土し、これらを含め  
 て伴出土器間に型式差は認  
 められない。重複 他の  
 住居と重複することなく単  
 独で占地する。方位 +  
 37° 面積 25.10㎡



7号住居出土遺物

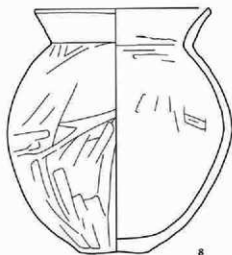
0 1:4 10cm



6



7



8



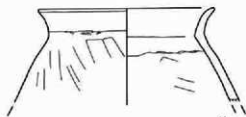
9



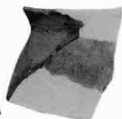
10



12



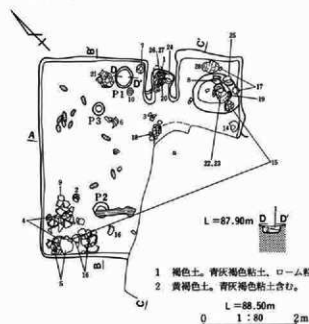
11



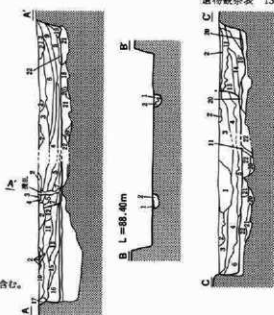
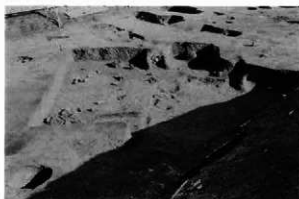
7号住居出土遺物

0 1:4 10cm

# 8号住居



- 1 褐色土。青灰褐色粘土。ローム粒含む。
- 2 黄褐色土。青灰褐色粘土含む。



- 1 褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。白色軽石粒含む。
- 3 褐色土。白色軽石粒、φ2cm前後のローム粒含む。
- 4 褐色土。φ3~4cmのローム粒含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 6 暗褐色土。φ2cm前後のローム粒含む。
- 7 褐色土。φ1~2cmのローム粒含む。
- 8 褐色土。多量の暗褐色土含む。
- 9 暗褐色土。φ1~2cmのローム粒含む。
- 10 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 11 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 12 褐色土。ローム粒含む。
- 13 褐色土。炭化物、ローム粒、白色軽石粒含む。
- 14 褐色土。炭化物、ローム粒、焼土含む。
- 15 暗褐色土。白色軽石粒含む。
- 16 褐色土。炭化物、焼土粒、ローム粒含む。
- 16' 褐色土。16より炭化物、焼土粒が多い。
- 17 褐色土。ロームブロック含む。
- 18 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 19 暗褐色土。φ1~2cmのローム粒含む。
- 20 黄褐色土。黒色土含む。
- 21 黒褐色土。多量のロームブロック含む。
- 22 暗黄褐色土。ロームブロック、黒色土粒含む。

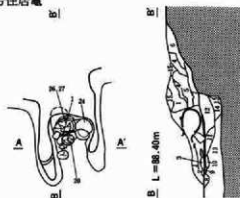
- P2・P3
- 1 褐色土。ローム粒、炭化物含む。
  - 2 黄褐色土。ローム主体。

**形状** 短軸4.2m、長軸4.3mの中形正方形住居。  
住居の南西部は重複する9号住居に切られて確認できない。7号住居に規模、形状、軸線の傾きが近似し、年代も近い。床面 基盤層を50cm掘り込んで

構築面とする。構築面は全体に小さな起伏が多く、平坦な面はない。この面に厚さ20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱穴 住居のほぼ対角線上に2個のピットを検出した。しかし、深さが20cmであることと、対応する2個のピットが検出できないことから主柱穴とは認め難く、壁外にも柱穴の痕跡はない。竈跡 北壁の中央よりやや東側に設置する。壁内に造り付けた長さ80cmの袖部を検

出した。燃焼部は幅30cm、奥行き70cmで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は火床の底面から20°の傾きで立ち上がり、壁外70cmまで伸びる。火床の中央左側に土製支脚を置き、燃焼部には並列した2個の堝が住居の内側に倒れた状態で出土する。この堝は原位置を留めていないが、竈の使用状態を示すと判断する。貯蔵穴 住居の北東隅に短軸80cm、長軸90cm、深さ30cmの方形プランで設置する。遺物 住居北西部の床面に密着して土師器環・堝・壺、竈西側の床面に密着して土師器堝・環、貯蔵穴周辺の床面に密着して土師器壺・堝が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、土師器高環・短頸壺が出土し、いずれも伴出土器間に型式差がない。重複 住居の南西部で9号住居と重複する。9号住居がこの住居を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 +42° 面積 18.45㎡

#### 8号住居竈

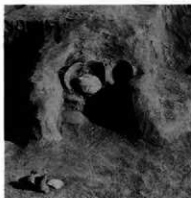


- 1 黄褐色粘土。焼土含む。
- 2 焼土。
- 3 褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 4 暗褐色土。焼土粒、黄褐色土含む。
- 5 暗褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 6 暗褐色土。軽石粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 7 黒褐色土。
- 8 暗褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 9 暗褐色土。焼土、灰含む。
- 10 褐色土。ロームを主体とし、焼土含む。
- 11 暗褐色土。酒造木のロームブロック含む。
- 12 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 13 褐色土。ローム主体。
- 14 暗褐色土。ローム含む。
- 15 黒色土。

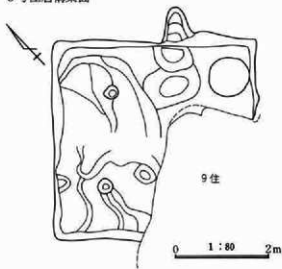
A L = 88.50m A'

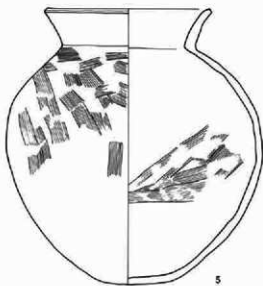
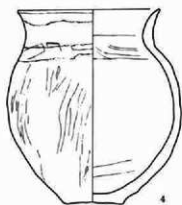


0 1 : 40 1m



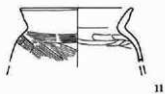
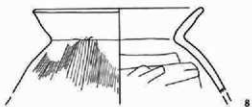
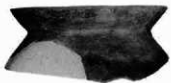
#### 8号住居構築面





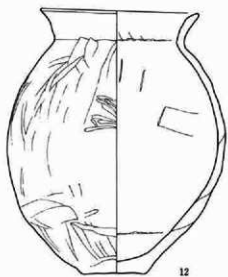
8号住層出土遺物

0 1 : 4 10cm

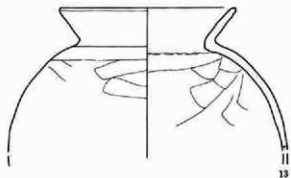


0 1 : 4 10cm

8号住居出土遺物



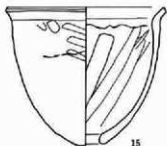
12



13



14

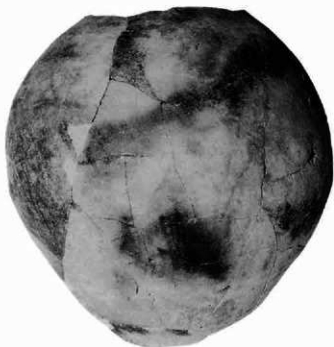
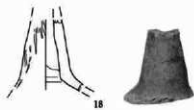
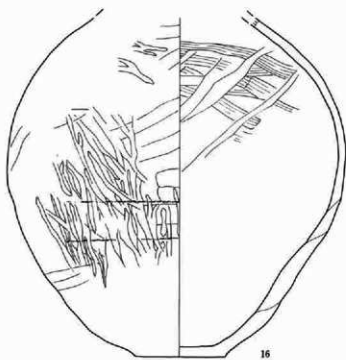


15



8号住居出土遺物

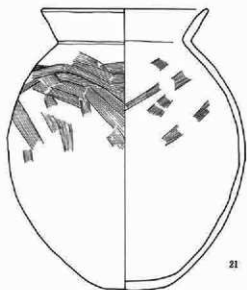
0 1 : 4 10cm



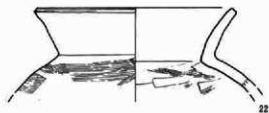
8号住居出土遺物

0 1 : 4 10cm





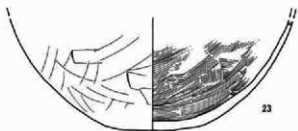
21



22



24

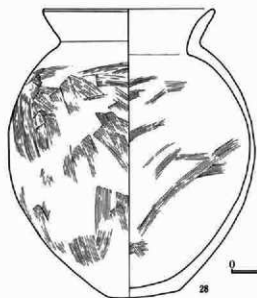
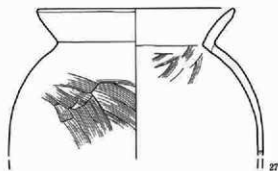
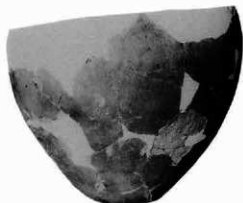
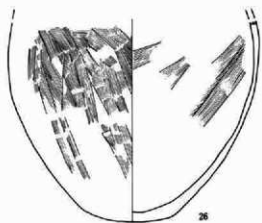


23



0 1 : 4 10cm

8号住居出土遺物

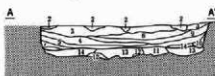
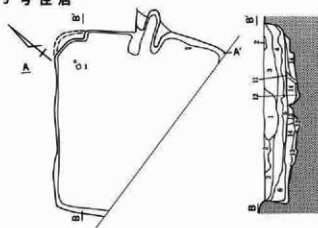


0 1 : 4 10cm

8号住居出土遺物

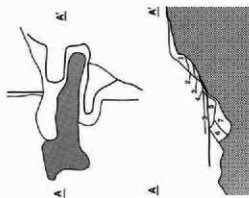
9号住居

遺物観察表 14

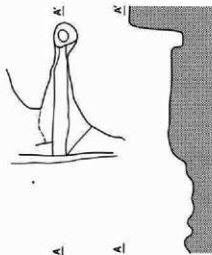


L = 88.50m  
0 1 : 80 2m

- 1 褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。白色軽石粒含む。
- 3 褐色土。白色軽石粒、 $\phi$ 2cm前後のローム粒含む。
- 4 褐色土。 $\phi$ 3~4cmのローム粒含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 6 暗褐色土。 $\phi$ 2cm前後のローム粒含む。
- 7 褐色土。 $\phi$ 1~2cmのローム粒含む。
- 8 褐色土、暗褐色土。 $\phi$ 1~2cmのローム粒含む。
- 9 暗褐色土。 $\phi$ 1~2cmのローム粒含む。
- 10 暗褐色土。 $\phi$ 1~2cmのロームブロック含む。
- 11 暗褐色土。 $\phi$ 4~5cmのロームブロック含む。
- 12 黄褐色土。黒色土含む。
- 13 黒褐色土。多量のロームブロック含む。
- 14 暗黄褐色土。ロームブロック、黒色土含む。



- 1 暗黄褐色土。ソフトローム主体。
- 2 褐色土。焼土粒含む。
- 3 褐色土。灰褐色粘質土、焼土粒含む。
- 4 暗黄褐色土。ローム。
- 5 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒。
- 6 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒。
- 7 暗黄褐色土。黒色土、ロームブロック。

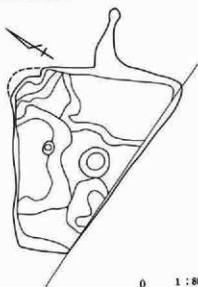


L = 88.40m 0 1 : 40 1m



**形状** 短軸3.5m、長軸4.0mで、東西に僅かに長い小形縦長方形住居。住居の南西部は調査区域外のため確認できない。床面 基盤層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部に直径60cm、深さ20cmのピットをもつ他、住居の中央部に比べて壁際が10cm程深く掘り込まれている。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 東壁の中央部に位置する。壁内に造り付けた長さ50cmの袖部を検出した。燃焼部は幅25cm、奥行き40cmで、壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は火床の底面から30°の傾きで立ち上がり、壁外50cmまで伸びる。遺物 住居北東部の床面に密着して土師器環、住居の構築面より土師器甕、覆土内より土師器壺が出土する。いずれも破片であるが型式差が認められないため、これらが住居の年代を示すものと判断した。重複 住居の北側で8号住居と重複する。9号住居が8号住居を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 +54° 面積 13.86㎡

9号住居構築面



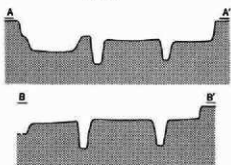
0 1:80 2m



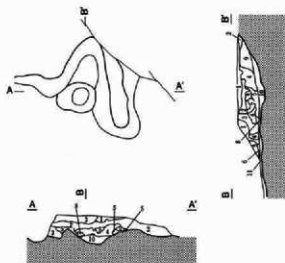
0 1:4 10cm

9号住居出土遺物

10号住居(上面)



L = 88.40m  
0 1 : 80 2m



L = 88.40m  
0 1 : 40 1m

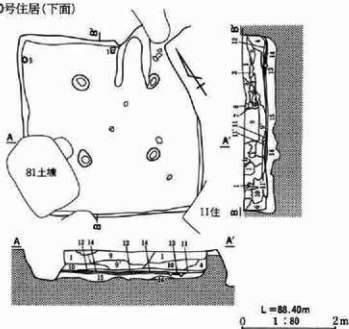


遺物観察表 15

- 1 黒色土。軽石粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。軽石粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 3 暗褐色土。指頭大のロームブロック、焼土粒含む。
- 4 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 5 暗褐色土。ローム含む。
- 6 黒褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 7 黒褐色土。焼土粒含む。
- 8 焼土ブロック。
- 9 暗褐色土。多量の焼土、ローム粒含む。
- 10 黒褐色土。多量の焼土含む。
- 11 黒褐色土。ローム粒、焼土粒含む。



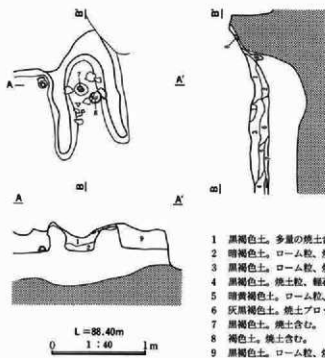
10号住居(下面)



- 1 黒色土、軽石粒含み、砂質。
- 2 黒色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 3 暗褐色土、ローム、焼土粒含む。
- 4 暗褐色土、ローム粒含む。
- 5 暗褐色土、ローム粒、軽石粒、焼土粒含む。
- 6 黒色土、ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。
- 8 暗褐色土、黒色土と暗褐色土の混土層。
- 9 黒褐色土、窪頭穴のローム粒、焼土粒含む。
- 9' 黒褐色土、黒色土、ローム粒含む。
- 10 暗褐色土、ロームを多く含む。
- 11 淡灰褐色土、焼土粒含む。
- 11' 淡灰褐色土、焼土粒含む。
- 12 黄褐色土。
- 13 暗灰白色粘質土。
- 14 暗褐色土。
- 15 暗黄褐色土。ロームを主体とし、黒色土含む。
- 16 黄褐色土。15に近似し、ロームブロック含む。

**形状** 短軸3.8m、長軸3.9mの小形正方形住居。住居の南西部を重複する土塊に、北東部を溝にそれぞれ切られる。床面 基盤層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が僅かに深く掘り込まれている他、全体に小さな起伏が多い。この面に厚さ20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。また、この面に厚さ5cmの貼床を施した、もう一面の生活面を検出した。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を配置する。柱穴の心々を結ぶ四角形は短軸1.5m、長軸1.6mで、住居の外形と相似形の整った四角形を示す。直径30cm、深さ50cmの単純円形掘り方を呈す。竈跡 北壁の中央よりやや東側に設置する。壁内に造り付けた長さ80cmの袖部を検出した。燃焼部は幅40cm、奥行き90cmで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は火床の底面より45°の傾きで立ち上がり、壁を30cm掘り込む。遺物 下面の床面では北壁際中央の床面に密着して土師器小形粗製土器、西壁際北側の床面直上より土師器小形粗製土器が出土する。上面の床面では住居北西部の床面に密着して土師器壺・甔、住居北東部の床面直上より土師器杯、竈内より土師器杯・高杯が出土する他、覆土内より土師器杯が出土する。

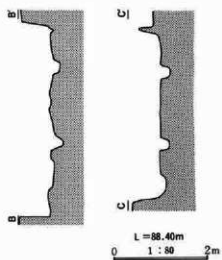
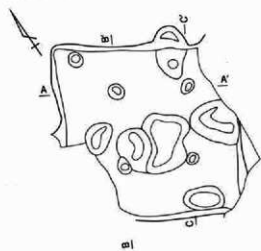
いずれも型式差が認められないため、これらが住居の年代を示すと判断した。



- 1 黒褐色土、多量の焼土含む。
- 2 暗褐色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 3 黒褐色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 4 黒褐色土、焼土粒、軽石粒含む。
- 5 暗褐色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 6 灰黒褐色土、焼土ブロック含む。
- 7 黒褐色土、焼土含む。
- 8 褐色土、焼土含む。
- 9 黒褐色土、ローム粒、焼土粒含む。

**重複** 住居の南東隅で11号住居と重複する。新旧関係を判定する実証的資料を欠くが、伴出する土器の型式は10住居→11住居の順を示す。  
**方位** +26° **面積** 14.03㎡

10号住居構築面



10号住居出土遺物

0 1:4 10cm

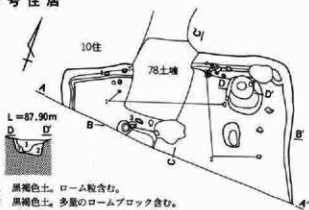


10号住居出土遺物

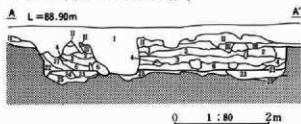
0 1 : 4 10cm



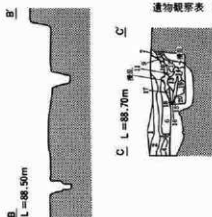
11号住居



- 1 黒褐色土。ローム粒含む。
- 2 黒褐色土。多量のロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。多量のロームブロック含む。



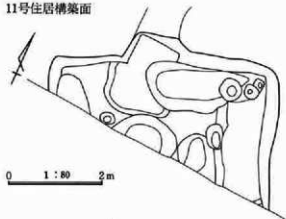
遺物観察表 15



- I 灰褐色土。灰褐色砂含む。
- II 暗褐色土。白色軽石粒含む。
- III 暗褐色土。IIより明るい。
- 1 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 2 暗褐色土。白色軽石粒含む。
- 3 暗褐色土。ローム粒含む。
- 4 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 5 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 6 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 7 暗黄褐色土。ローム粒、焼土。
- 8 暗黄褐色土。ローム粒、焼土。
- 9 焼土化したロームブロック。
- 10 暗黄褐色土。ロームブロック、焼土粒、灰。
- 11 黒褐色土。ロームブロック、灰。
- 12 黒褐色土。ロームブロック、焼土。
- 13 暗褐色土。ロームブロック、焼土。
- 14 黒褐色土。ロームブロック、焼土。
- 15 黒褐色土。焼土粒、炭化物。
- 16 暗褐色土。焼土粒、ローム粒、灰。
- 17 暗褐色土。焼土粒、灰、炭化物。
- 18 暗褐色土。焼土粒、炭化物。
- 19 暗黄褐色土。黒色土含む。
- 20 黄褐色土。
- 21 黒褐色土。ローム粒含む。
- 22 暗黄褐色土。ロームブロック。
- 23 暗黄褐色土。黒色土含む。
- 24 暗黄褐色土。少量の黒色土含む。
- 25 黄褐色土。黒色土含む。

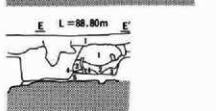
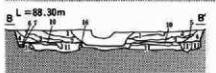
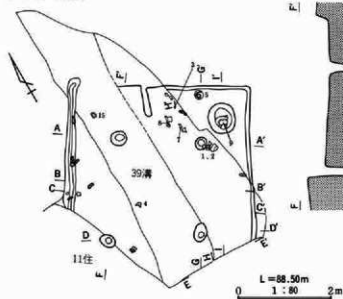
**形状** 住居の南半が調査区域外のため、全形を確認することができない。東西軸4.9m。床面 基礎層を80cm掘り込んで構築面とする。構築面は壁に沿った部分が住居の中央部より10cm程深く掘り込まれている。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で整っている。柱 穴 北壁にほぼ平行する列で2個のピットを検出した。心々を結ぶ長さは2.4mである。直径30cm、深さ45cmの単純円形掘り方を呈す。  
**電跡** 確認した壁に竈の痕跡はない。壁溝 幅15cm、深さ10cmで、北壁と西壁下に巡る。遺物 北壁際東側の床面に密着して土師器杯、北壁際西側の床面に密着して土師器高杯が出土し、これらが住居の年代を示す。この他、北壁際西側の床面直上より土師器皿形土器・小形粗製土器、覆土内より土師器杯・短頸壺が出土する。  
**重複** 住居の北西隅で10号住居と、住居の東側で12号住居とそれぞれ重複する。10号住居との新旧関係を判定する実証的資料を欠くが、11号住居が12号住居を切って構築する平面精査の所見を得た。伴出する土器の型式は、10住→11住、12住→11住の順を示し、12号住居との新旧関係については、平面精査の所見と矛盾がない。方位 +69° 面積 測定不可能。

11号住居構築面

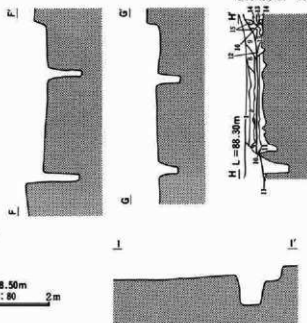


11号住居出土遺物

# 12号住居



- 1 灰褐色土。灰褐色砂含む。
- 2 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 3 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒、炭化物含む。
- 4 暗褐色土。指痕大のロームブロック含む。
- 5 暗灰褐色土。ローム粒、暗灰色粘性土含む。
- 6 暗褐色土。指痕大のロームブロック含む。



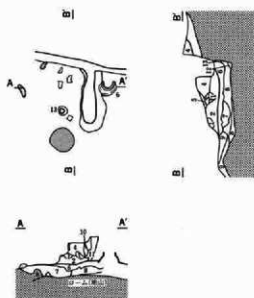
- 1 暗褐色土。ロームブロック、白色軽石粒含む。
- 2 暗褐色土。1より暗い。
- 3 暗褐色土。ローム粒、白色粘土ブロック含む。
- 4 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 5 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 6 暗黄褐色土。ロームを主体に黒色土含む。
- 7 黒褐色土。ローム粒含む。
- 8 暗褐色土。ロームブロック、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 9 暗褐色土。8より焼土粒が多い。
- 10 暗褐色土。ブロック状のローム。
- 11 暗褐色土。指痕大のロームブロック含む。
- 11' 11よりローム粒少ない。
- 12 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 13 灰黒褐色土。ローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 14 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 15 灰色粘質土ブロック。
- 16 暗褐色土。ローム主体。

**形状** 住居の南壁部が調査区域外のため全形を確認することはできないが、確認した東西軸と柱穴の配置から想定する外形は、短軸4.0m、長軸4.3mの小形正方形住居。住居の北西隅から南東部にかけて、1号溝が床面を切る。床面 基盤層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は比較的平坦である。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱 穴 4個を配置する。心々を結ぶ四角形は東西軸1.8m、南北軸2.0mの長方形を示す。直径30cm、深さ50~70cmの単純円形掘り方を呈す。竈 跡 北壁の西側に設置する。重複する溝に切られて全形は確認できないが、壁内に造り付けた長さ60cmの袖部を検出した。向って左側の袖部は確認できない。燃



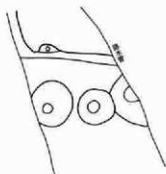
焼部は奥行き70cmで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は確認した壁高の範囲で、壁を掘り込んでいない。貯蔵穴 住居の北東隅に直径60cm、深さ50cmの円形プランで設置する。壁溝 幅15cm、深さ10cmで、西壁下に巡る。遺物 住居北東部の床面に密着して土師器環・高環、土製品、北壁際東側の床面直上より土師器甕、貯蔵穴内より土師器甕が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、覆土内より土師器環・小形粗製土器が出土する。重複 住居の南西部で11号住居と重複する。11号住居が12号住居を切って構築する平面精査の所見を得、この新旧関係は伴出する土器の型式が示す順序と矛盾しない。また、39号溝との新旧関係は、39号溝がこの住居を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 +31° 面積測定不可能。

12号住居竈

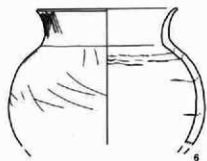
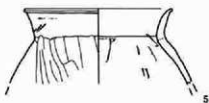
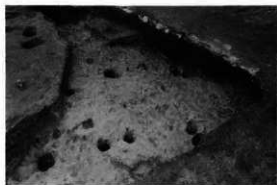
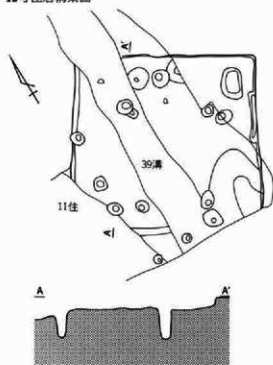


- 1 焼土ブロック。
- 2 暗灰褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 3 灰色粘質土。
- 4 暗褐色土。焼土粒、灰色粘質土含む。
- 5 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 6 暗灰褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 7 暗褐色土。指図大のロームブロック含む。
- 8 暗褐色土。多量のローム含む。
- 9 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 10 竈壁体。
- 11 褐色土。ロームを主体とし、焼土粒含む。
- 12 ロームブロック。
- 13 暗褐色土。多量のローム含む。

L=88.30m  
1 : 40 m

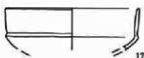
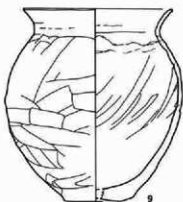
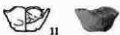
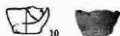
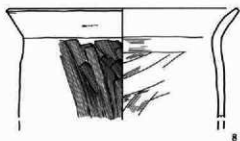


12号住居構築面



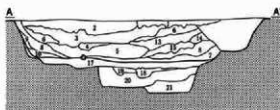
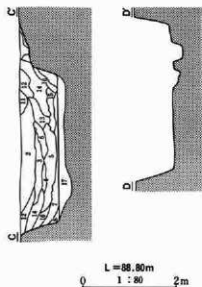
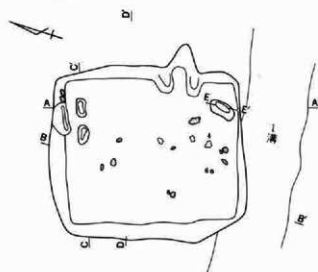
12号住居出土遺物

0 1:4 10cm



0 1 : 4 10cm

12号住居出土遺物



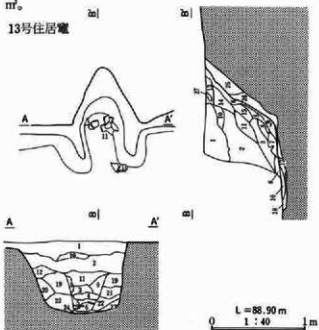
- 1 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。僅かなロームブロック含む。
- 3 暗黄褐色土。ローム主体。
- 4 黒褐色土。炭化物含む。
- 5 黒褐色土。黄白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。
- 6 黒褐色土。φ2~3mmの黄白色軽石粒含む。
- 7 黄褐色土。ローム、黒褐色土含む。
- 8 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 9 黄褐色土。ローム崩壊土。
- 10 黄褐色土。ローム、黒褐色土含む。
- 11 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒含む。
- 12 暗褐色土。2に類似。
- 13 暗褐色土。黄白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。
- 14 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 15 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 16 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 17 暗黄褐色土。ロームを主体とし、灰色砂含む。
- 18 暗黄褐色土。白色軽石粒含む。
- 19 暗黄褐色土。白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 20 暗黄褐色土。白色軽石粒、細かいロームブロック含む。
- 21 暗黄褐色土。粗いロームブロック含む。

**形状** 短軸3.7m、長軸4.1mで、南北に長軸をもつ小形横長方形住居。住居の南西部を重複する1号溝が切る。**床面** 基盤層を90cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部と南西部に直径1.2m、深さ50cm程の2個のピットが掘り込まれ、全体に起伏が多い。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。**柱穴** 壁内に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。**竈跡** 東壁の南側に設置する。壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。燃烧部は幅30cm、奥行き60cmで、その約半分を壁外に造り出す中間形態を呈す。煙道は火床



の底面から50°の傾きで立ち上がる。遺物 住居南側の床面直上より土師器環・砥石、竈内より土師器甕、覆土内より土師器環、住居の構築面より土師器環・石製模造品が出土する。伴出する土師器に型差が認められないため、これらが住居の年代を示すと判断した。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。1号溝との新旧関係は13住→1溝の順を示す土層断面の所見を得た。方位 +70° 面積 14.14 m<sup>2</sup>。

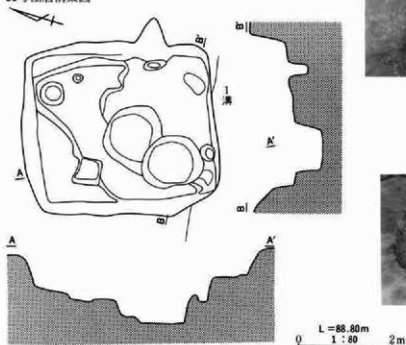
### 13号住居竈



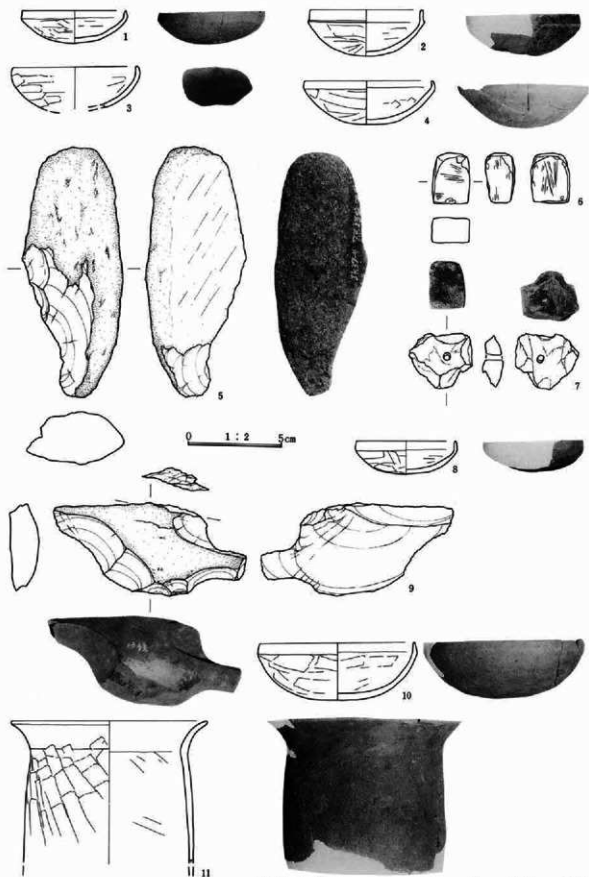
- 6 焼土。
- 7 白色粘土。焼土粒、炭化物、灰含む。
- 8 暗黄褐色土。焼土粒、炭化物、灰、ローム粒含む。
- 9 暗褐色土。ローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 10 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 11 暗褐色土。多量のローム粒、焼土粒含む。
- 12 暗褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 13 暗黄褐色土。4に類似。
- 14 暗褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 15 暗褐色土。焼土粒、黄褐色粘土ブロック含む。
- 16 黒褐色土。ロームブロック、炭化物含む。
- 17 黄褐色土。ロームブロック含む。
- 18 暗黄褐色土。ロームブロック、炭化物、焼土粒含む。
- 19 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 20 暗褐色土。ローム粒含む。
- 21 暗褐色土。多量の焼土粒、ローム粒含む。
- 22 暗褐色土。多量の焼土粒、灰、ロームブロック含む。
- 23 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 24 暗黄褐色土。ロームブロック、炭化物含む。
- 25 暗黄褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 26 暗黄褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 27 暗褐色土。

- 1 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。焼土粒、ローム粒、灰含む。
- 4 暗黄褐色土。やや粘質で、焼土粒、灰含む。
- 5 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。

### 13号住居構築図





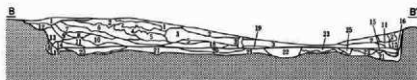
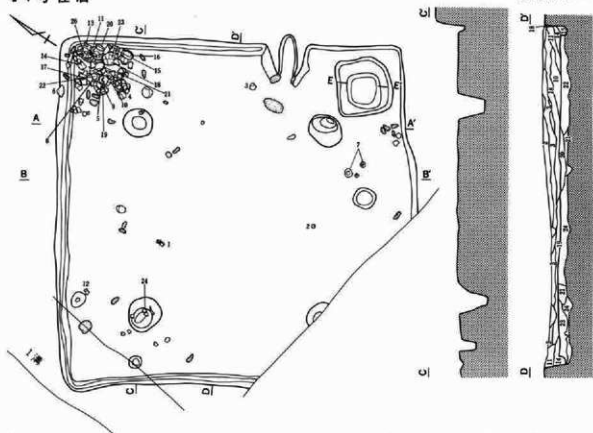


13号位层出土遗物

0 1:4 10cm

14号住居

遺物観察表 17



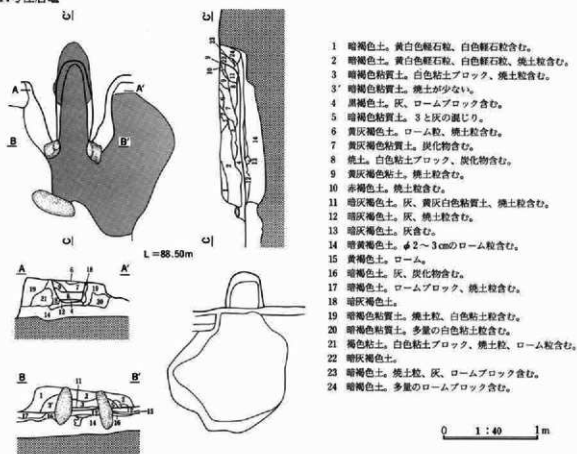
L=88.80m  
0 1:80 2m

- 1 暗褐色土。焼土、白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 2 暗黄褐色土。白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 3 暗黄褐色土。2よりやや暗い色調。
- 4 暗黄褐色土。2より黄色味が強い。
- 5 暗黄褐色土。黒色土ブロック含む。
- 6 黒褐色土。ロームブロック、白色軽石粒含む。
- 7 黒褐色土。多量の白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 8 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 9 黒褐色土。8よりやや黄色味が強い。
- 10 黒褐色土。7より淡い色調。
- 11 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 12 暗褐色土。白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 13 暗褐色土。12より多量の白色軽石粒、ロームブロック含む。

- 14 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 15 黄褐色土。ロームブロック、炭化物含む。
- 16 黄褐色土。ロームブロック、炭化物含む。
- 17 黄褐色土。ロームの崩壊土。
- 18 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 19 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 20 暗黄褐色土。ロームを主体とし、白色軽石粒含む。
- 21 暗黄褐色土。ロームを主体とする。
- 22 暗黄褐色土。φ2~5cmのローム粒含む。
- 23 暗黄褐色土。φ2~5cmのローム粒、白色軽石粒含む。
- 24 暗黄褐色土。ロームを主体とし、黒色土粒含む。
- 25 黒褐色土。φ3cm前後のローム粒含む。



14号住居電



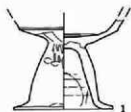
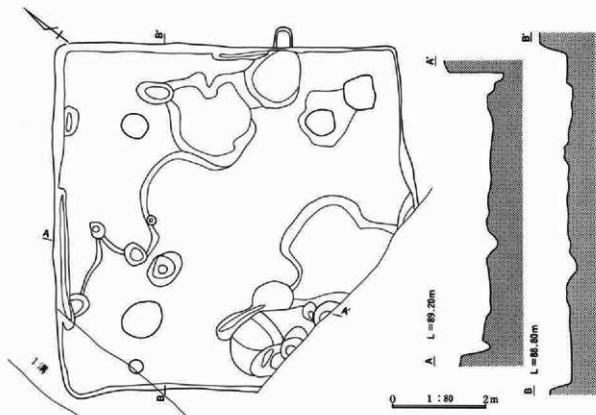
**形状** 短軸7.3m、長軸7.5mの超大形正方形住居。住居の南西隅は調査区域外のため確認できないが、この遺跡で最大の規模をもつ。床面 基盤層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部が僅かに深く掘り込まれるが、全体に平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を一律に施して、生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱 穴 住居の対角線上に4個の柱穴を配置する。心々を結ぶ四角形は一辺4.0mで、住居の外形と相似形の整った正方形を示す。直径60cm、深さ60cmの単純円形掘り方を呈す。竈跡 東壁の中央よりやや南側に設置する。壁内に造り付けた長さ70cmの袖部を検出した。燃焼部は幅30cm、奥行き80cmで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。焚口部の両側に河原石を据えて補強材とする。電手前の床面に密着して出土する同質の河原石は、焚口部の両側に据えられた石材の上に横架されていたも

のと考えられる。煙道は火床の底面から水平に壁外20cmまで伸びて、垂直に近い状態で立ち上がる。貯蔵穴住居の南東隅に一边1.3m、深さ65cmの正方形プランで設置する。壁溝幅15cm、深さ15cmで、住居の南東

14号住居構築面

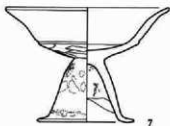
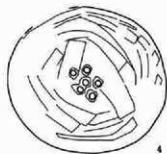
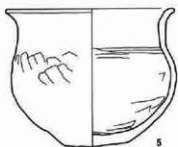
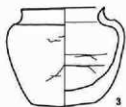


隅を除く壁下に巡る。遺物 住居北東隅の床面直上から25cmの高さの範囲に、土師器坏・壺・甗・甗、住居南東部と住居中央北側の床面直上より土師器高坏が出土し、これらが住居の年代を示すものと判断した。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。住居の北西隅で重複する1号溝との新旧関係は、14住→1溝の順を示す平面精査、土層断面の所見を得た。方位 +50° 面積 54.99㎡ (推定)



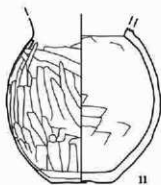
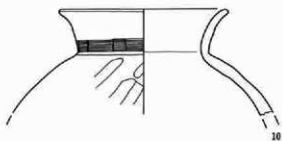
14号住居出土遺物

0 1 : 4 10cm

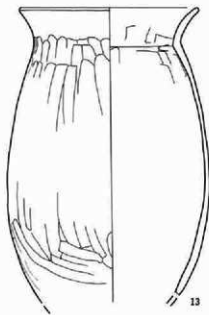


14号住居出土遺物

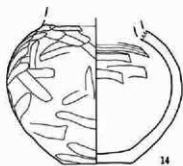
0 1 : 4 10cm



0 1:4 10cm



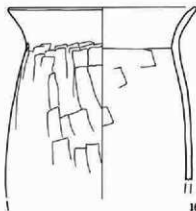
14号住居出土遺物



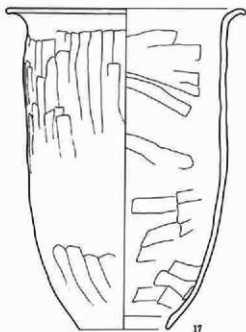
14



15



16



17

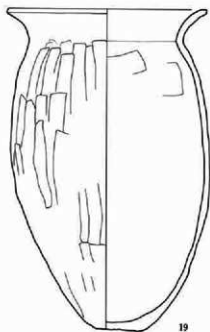


14号住居出土遺物

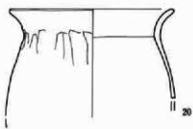
0 1 : 4 10cm



18



19



20



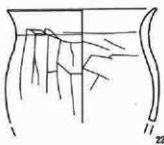
14号住居出土遺物

0 1:4 10cm





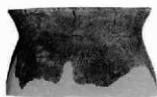
21



22



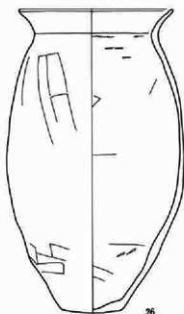
23



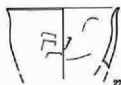
24



25



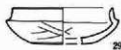
26



27



28



29



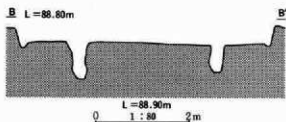
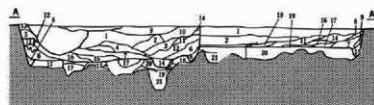
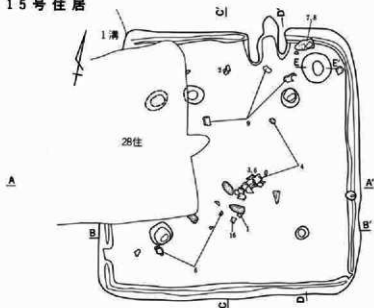
30



14号位層出土遺物

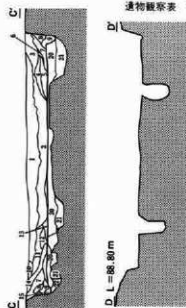
0 1 : 4 10cm

15号住居



- 1 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。1より淡い色調。
- 3 暗褐色土。1より多量のローム粒含む。
- 4 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 5 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、 $\phi 0.5 \sim 2$ cmのローム粒含む。
- 6 黒褐色土。多量のローム粒含む。
- 7 暗黄褐色土。 $\phi 0.5 \sim 2$ cmのローム粒含む。
- 8 暗黄褐色土。7よりやや暗い色調。
- 9 暗黄褐色土。 $\phi 1$ cm前後のローム粒含む。
- 10 暗褐色土。
- 11 暗褐色土。 $\phi 1 \sim 2$ cmのローム粒含む。
- 12 暗褐色土。少量の白色軽石粒含む。
- 13 暗褐色土。12よりやや黄色味が強い。
- 14 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、 $\phi 0.5 \sim 2$ cmのローム粒含む。
- 15 黄褐色土。ローム、黒色土含む。
- 16 暗褐色土。14より暗い色調。
- 17 暗褐色土。多量のロームブロック含む。
- 18 暗褐色土。
- 19 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒、炭化物含む。
- 20 黒褐色土。 $\phi 2 \sim 5$ cmのロームブロック含む。
- 21 暗黄褐色土。 $\phi 2 \sim 5$ cmのロームブロック含む。
- 22 暗黄褐色土。 $\phi 1 \sim 2$ cmのロームブロック含む。

遺物観察表 19

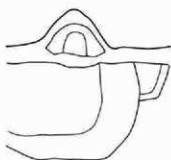
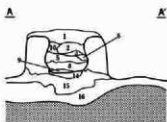
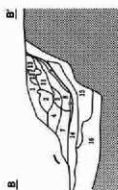
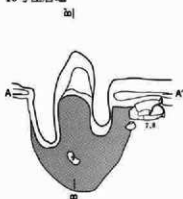


- 1 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。1より多量のローム粒含む。
- 3 暗褐色土。ローム粒含む。
- 4 暗黄褐色土。ロームブロック、焼土粒、炭化物含む。

28号住居土層説明

- 1 暗褐色土。 $\phi 1 \sim 5$ cmのロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。白色軽石粒、 $\phi 2$ cmのロームブロック含む。
- 4 黒褐色土。 $\phi 3$ cm大のロームブロック含む。
- 5 暗黒褐色土。ローム粒含む。
- 6 黒褐色土。ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。ローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 8 黒褐色土。ローム粒含む。
- 9 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、炭化物含む。
- 10 暗黄褐色土。 $\phi 3$ cm大のロームブロック、焼土粒含む。
- 11 暗黄褐色土。
- 12 暗黄褐色土。
- 13 暗黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 14 黒褐色土。
- 15 暗黄褐色土。 $\phi 2$ cm大のローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 16 暗黄褐色土。
- 17 暗黄褐色土。ロームと褐色土の混土。
- 18 暗黄褐色土。ロームと褐色土の混土。
- 19 暗黄褐色土。ロームと褐色土の混土。
- 20 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 21 暗褐色土。ローム主体で、褐色土含む。

15号住居電



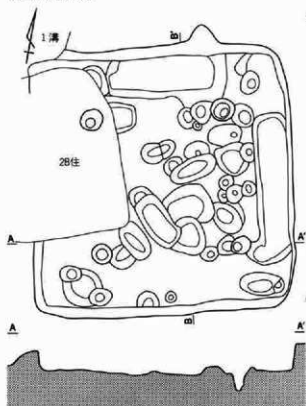
L=89.90m  
1:40 1m

- 1 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、黄褐色粘土ブロック含む。
- 2 黄褐色粘質土。白色軽石粒、焼土粒、炭化物含む天井の崩落土。
- 3 黒褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 4 褐色土。φ1cm次のロームブロック、焼土粒、黄褐色粘土粒含む。
- 5 黒褐色土。φ1cm次のロームブロック、焼土粒、黄褐色粘土粒含む。
- 6 赤褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 7 褐色土。焼土粒含む。
- 8 褐色土。多量の焼土粒、炭化物、灰含む。
- 9 黒色土。灰含む。
- 10 暗褐色土。黄褐色粘土ブロック、焼土粒、ローム粒含む。
- 11 黄褐色粘質土。多量の焼土粒含む。
- 12 暗黄褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 13 暗黄褐色土。多量の焼土粒含む。
- 14 黒褐色土。焼土粒含む。
- 15 黒褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 16 暗黄褐色土。ローム主体で、暗褐色土含む。

**形状** 短軸5.3m、長軸5.7mで南北に僅かに長い大形正方形住居。近接する17号住居に形状、規模、軸線の傾きが近似し、住居の年代も近い。  
**床面** 基盤層を60cm掘り込んで構築面とする。構築面は北壁際と東壁際が住居の中央部より深く掘り込まれる他、全体に小さなビット状の掘り込みをもつ。この面に15cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。  
**柱穴** 住居のほぼ対角線上に4個を配置する。心々を結ぶ四角形は一辺2.8mで、住居の外形とほぼ相似形の整った正方形を示す。直径40cm、深さ60～85cmの単純円形掘り方を呈す。

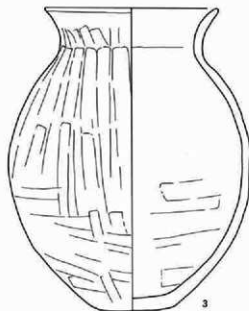
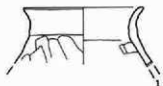
**電跡** 北壁の中央よりやや東側に設置する。壁内に造り付けた長さ50cmの袖部を検出した。燃烧部は幅30cm、奥行き50cmで、全てを壁内に造り付ける燃烧部壁内型を呈す。煙道は火床の底面から50°の傾きで立ち上がり、壁外40cmまで伸びる。  
**貯蔵穴** 住居の北東隅に直径60cm、深さ40cmの円形プランで設置する。  
**盤溝** 幅15cm、深さ15cmで、電の部分を除く

15号住居構築面



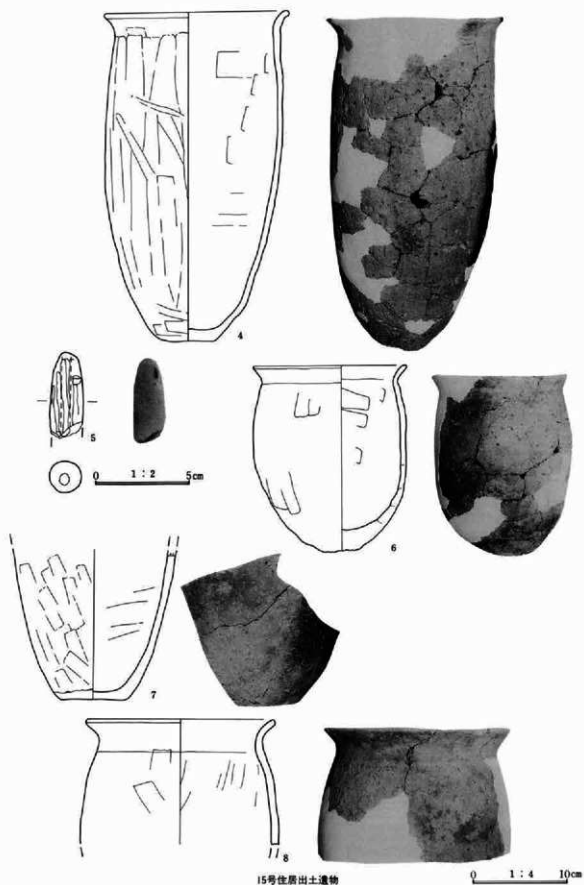
全壁下に巡る。遺物 電周辺部と住居中央南側の床面に密着して土師器壺が出土し、これらが住居の年代を示す。この他、覆土内より土師器杯・須恵器壺の破片が出土する。重複 住居の西側で28号住居と重複する。15号住居を28号住居が切って構築する平面精査、土層断面の所見を得、これは伴出する土器の型式が示す順序と矛盾しない。また、住居の西壁部で重複する1号溝との新旧関係は、15住→1号溝の順を示す土層断面の所見を得た。方位 -10° 面積 29.82m<sup>2</sup> (推定)

L=88.90m  
1:80 2m

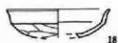
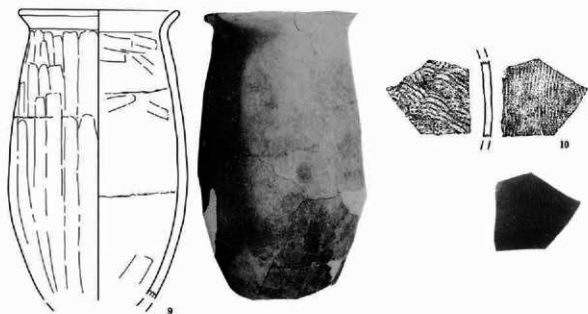


15号住居出土遺物

0 1:4 10cm



15号住居出土遺物

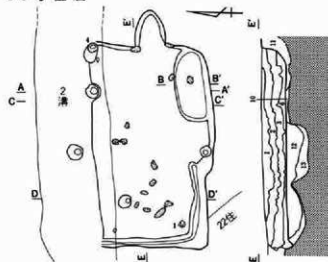


0 1:4 10cm

15号住居出土遺物

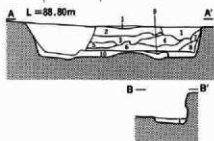
16号住居

遺物観察表 20

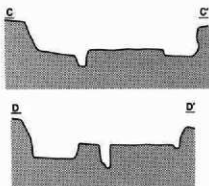


- 1 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 3 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 4 暗褐色土。ローム粒含む。
- 5 暗褐色土。4より黄色味が強い。
- 6 暗褐色土。多量のローム、焼土粒含む。
- 7 黄色土。黒土粒含む。
- 8 黄色土。7より暗い色調。
- 9 暗褐色土。
- 10 暗褐色土。ローム主体。
- 11 暗褐色土。多量のロームブロック含む。
- 12 暗黄褐色土。ローム主体。
- 13 暗黄褐色土。ローム主体。

L=88.70m  
0 1:80 2m



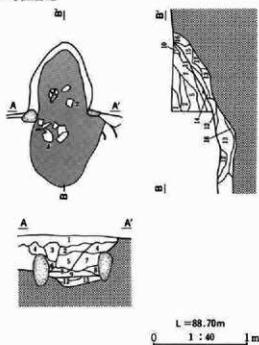
- 1 暗褐色粘質土。ロームブロック、焼土ブロック含む。



**形状** 住居北半部を重複する2号溝に切られて、全形を確認することはできない。東西軸は4.3mである。  
**床面** 基盤層を60cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の西半部に長軸1.2m程、深さ30cm程の4個のピットが掘り込まれる。この面に厚さ10cmの粘床を施して生活面とする。生活面は住居の南東部が10cm程低い他は平坦で整っている。**柱穴** 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴うような柱穴の痕跡はない。**竈跡** 東壁の南側に設置する。燃焼部は幅50cm、奥行50cmで、全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。焚口部の両側に河原石を据えて補強材とする。煙道は壁の中段から40°の傾きで立ち上がる。**壁溝** 幅10cm、深さ10cmで、住居南西部の壁下に巡る。**遺物** 竈内より土師器坏、住居南西隅の床面直上より土師器坏が出土する他、覆土内より土師器壺・坏・甗が出土する。いずれも大きな年代差が認められないため、これらが住居の年代を示すものと判断した。**重複** 住居の南西隅で22号住居と、住居の

南東隅で50号掘立と、住居の北半で2号溝と重複する。16号住居が22号住居を切って構築する平面精査の所見を得、これは伴出する土器の型式が示す順序と矛盾しない。50号掘立との新旧関係を判定する資料はない。また、16号住居を2号溝が切って構築する土層断面の所見を得た。方位 +85° 面積測定不可能。

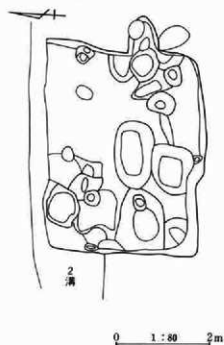
#### 16号住居竈



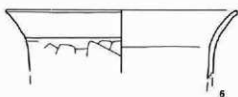
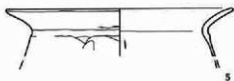
- 1 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 2 暗褐色土。
- 3 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 4 暗黄褐色土。白色軽石粒、ローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 5 暗褐色土。
- 6 黄褐色土。ロームブロック含む。
- 7 暗黄褐色土。焼土粒、ローム粒、白色軽石粒含む。
- 8 暗黄褐色土。焼土粒、ロームブロック、黄色粘土ブロック含む。
- 9 黒褐色土。焼土粒、ロームブロック、炭化物含む。
- 10 暗黄褐色土。多量の焼土粒含む。
- 11 暗黄褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 12 暗褐色土。焼土粒、ロームブロック、炭化物含む。
- 13 暗褐色土。焼土粒、 $\phi 0.5\text{m}$ 大のロームブロック含む。
- 14 暗褐色土。焼土ブロック含む。
- 15 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 16 暗灰褐色砂質土。焼土粒、ローム粒含む。
- 17 暗黄褐色土。焼土粒、ローム粒、炭化物含む。
- 18 黄褐色土。ロームブロック。



#### 16号住居構築面

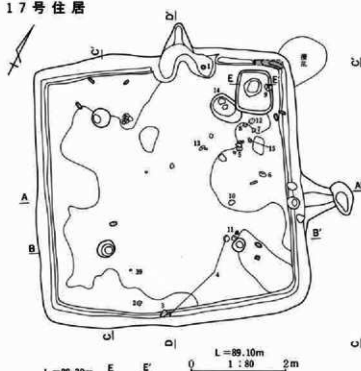






16号住居出土遺物

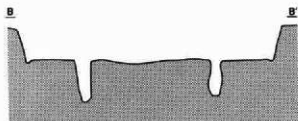
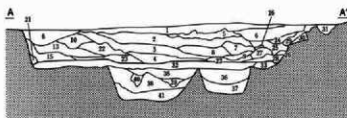
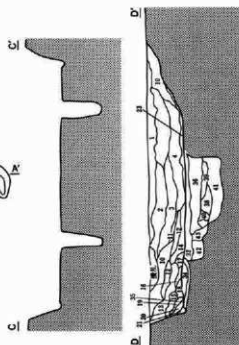
0 1:4 10cm



L=88.30m

L=89.10m  
1:80

- 1 黒褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。
- 2 暗黄褐色土、ロームブロック主体。



- 17 暗褐色土、ロームブロック、焼土粒含む。
- 18 暗褐色土。
- 19 黒褐色土、ロームブロック含む。
- 20 暗黄褐色土、ロームブロック含む。
- 21 暗黄褐色土、ロームブロック含む。
- 22 暗褐色土、ロームブロック含む。
- 23 暗褐色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 24 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 25 暗褐色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 26 黒褐色土、白色軽石粒含む。
- 27 暗褐色土、白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。
- 28 暗褐色土。
- 29 暗褐色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 30 暗黄褐色土、ロームブロック主体。

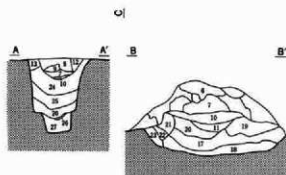
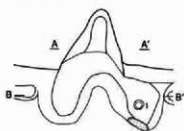
- 1 黒褐色土、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土、白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土、2より暗い色調。
- 4 暗褐色土、ローム粒含む。
- 5 暗褐色土、ロームブロック、白色軽石粒含む。
- 6 暗褐色土、ローム粒含む。
- 7 暗褐色土、白色軽石粒、ロームブロック、炭化物含む。
- 8 暗褐色土。
- 9 暗褐色土、灰、炭化物含む。
- 10 暗褐色土、白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 11 暗褐色土、ロームブロック含む。
- 12 黒褐色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 13 暗褐色土、ローム粒、焼土粒含む。
- 14 暗褐色土、ロームブロック、黒褐色土ブロック含む。
- 15 黒褐色土、白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 16 黒褐色土。

- 31 褐色砂。
- 32 黄褐色土、φ1~2cmのロームブロック含む。
- 33 暗褐色土、φ1~2cmのロームブロック、焼土粒含む。
- 34 暗褐色土、φ2~4cmのロームブロック、焼土粒、炭化物含む。
- 35 暗黄褐色土、φ2~4cmのロームブロック含む。
- 36 暗黄褐色土、φ3~5cmのロームブロック含む。
- 37 暗黄褐色土。
- 38 暗黄褐色土、φ3~5cmのロームブロック含む。
- 39 暗黄褐色土、φ2~4cmのロームブロック含む。
- 40 暗黄褐色土、φ2~4cmのロームブロック含む。
- 41 暗黄褐色土、φ1cm大のロームブロック含む。
- 42 暗黄褐色土、φ0.5cm大のロームブロック含む。
- 43 暗黄褐色土。



**形状** 短軸5.6m、長軸5.8mで、南北に僅かに長い大形正方形住居。近接する15号住居と形状、規模、軸線の傾きが近似し、住居の年代も近い。床面 基盤層を80cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部に深さ70cm程の3個のピットが掘り込まれる他は、比較的平坦である。この面に厚さ20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱 穴 住居のほぼ対角線上に4個を配置する。

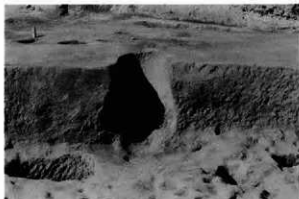
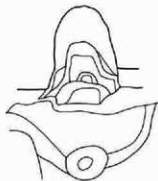
17号住居北壁



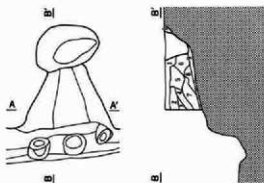
- 1 暗黄褐色土、焼土粒、炭化物含む。
- 2 暗黄褐色土、焼土粒、ローム粒、灰含む。
- 3 黄褐色粘土、白色軽石粒含む。
- 4 暗褐色土、焼土粒含む。
- 5 暗黄褐色土、焼土粒、灰含む。
- 6 暗黄褐色土、黄褐色粘土ブロック、焼土粒、灰含む。
- 7 暗褐色土、黄褐色粘土ブロック、焼土粒、灰含む。
- 8 暗褐色土、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 9 暗褐色土、8より暗い色調。
- 10 暗黄褐色土、粘質土、焼土粒、黄褐色粘土粒含む。
- 11 焼土・灰。
- 12 黒褐色土、白色軽石粒、粘土粒、ローム粒含む。
- 13 黒褐色土、焼土粒含む。
- 14 焼土化した黄褐色粘土。
- 15 暗褐色土、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 16 暗褐色土、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 17 暗褐色土、ロームブロック、焼土粒含む。
- 18 暗黄褐色土、多量のロームブロック含む。
- 19 暗黄褐色土、ロームブロック、灰含む。
- 20 暗黄褐色土、多量のロームブロック、焼土粒含む。
- 21 暗黄褐色土、ロームブロック含む。
- 22 黄褐色土、ロームブロック含む。
- 23 暗黄褐色土、ロームブロック、炭化物含む。
- 24 暗褐色土、粘質土、焼土粒、黄褐色粘土ブロック含む。
- 25 暗褐色土、焼土粒、黄褐色粘土ブロック含む。
- 26 黒色土、灰、焼土粒含む。
- 27 黒褐色土、焼土粒、ロームブロック含む。

L=89.00m  
1:40

心々を結ぶ四角形は短軸2.7m、長軸2.8mで、住居の外形と相似形の整った方形を示す。直径40cm、深さ70～90cmの単純円形掘り方を呈す。**竈跡** 東壁の中央よりやや南側から、北壁の中央よりやや東側へ造り替える。東壁竈は主体部が撤去され、壁外に掘り込まれた煙道部のみを検出した。煙道は壁の中段から15°の傾きで立ち上がり壁外1.1mまで伸びる。壁に燃焼部の掘り込みがないことから、燃焼部壁内型と考えられる。北壁竈は壁内に造り付けた長さ30cmの袖部を検出した。残存状態が悪く主体部の全形を確認することはできないが、燃焼部が壁外に掘り込まれていないことから、燃焼部壁内型と考えられる。煙道は火床の底面から50°の傾きで立ち上がり、壁外50cmまで伸びる。**貯蔵穴** 住居の北東隅に設置する。短軸70cm、長軸90cm、深さ10cmの方形プランの中央部に、直径40cm、深さ40cmの不整形円形ピットを掘り込んでいる。壁溝 幅15cm、深さ10cmで、北壁竈の部分を除く全壁下に巡る。**遺物** 南壁際中央部の床面直上より土師器坏・甕、住居北東部の覆土内より須恵器坏・土師器甕が出土する。いずれも大きな型式差が認められないため、これらが住居の年代を示すものと判断した。**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 -31°  
面積 31.63㎡

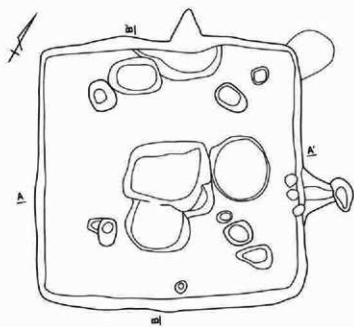


17号住居東竈



- 1 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 4 暗褐色土。ローム粒含む。
- 5 暗褐色土。焼土粒、ロームブロック、白色軽石粒含む。
- 6 暗褐色土。5よりロームが少ない。
- 7 黄褐色土。暗褐色土、焼土粒含む。
- 8 黄褐色土。7よりロームが多い。
- 9 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 10 黄褐色土。暗褐色土含む。

17号住居構築面

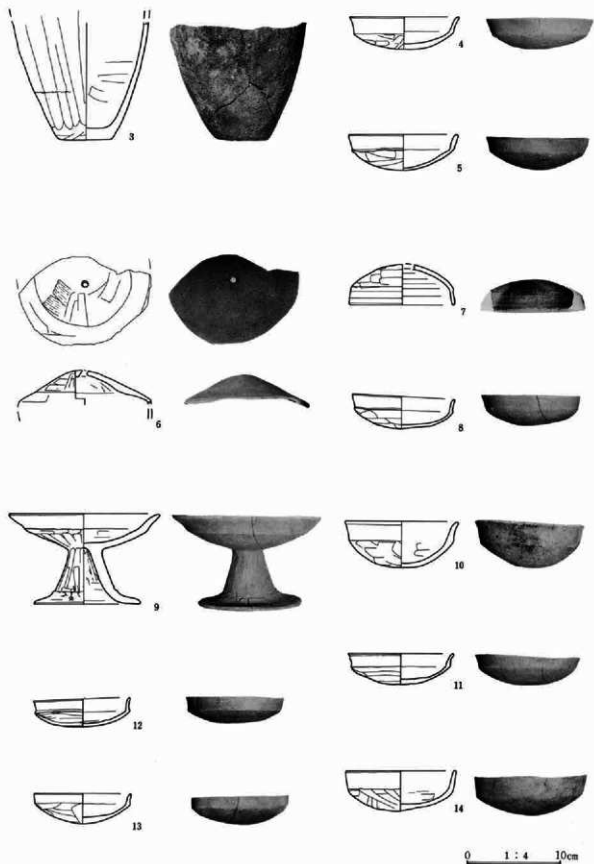


L=89.00m  
0 1:80 2m



0 1:4 10cm

17号住居出土遺物



17号住居出土遺物



15



16



17



18



19



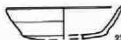
20



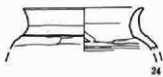
21



22



23



24



25



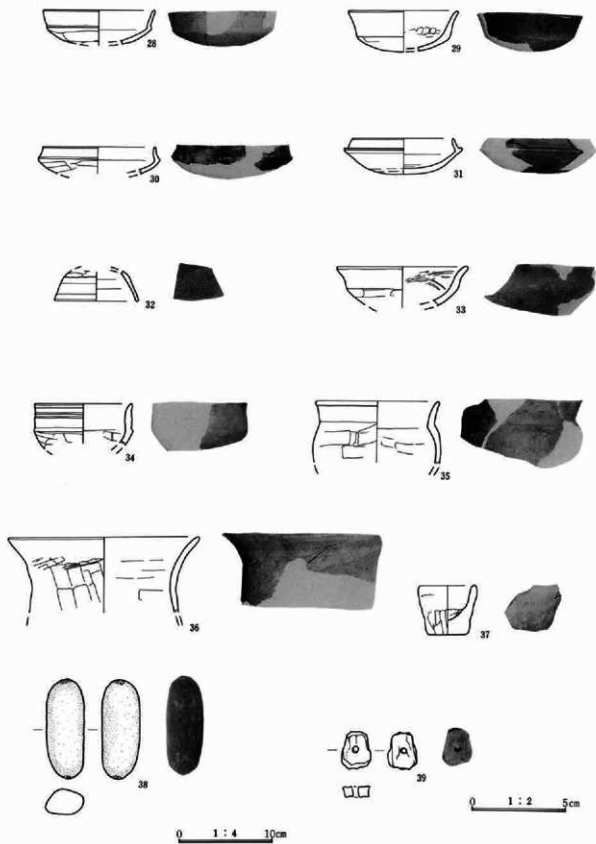
26



27



0 1 : 4 10cm

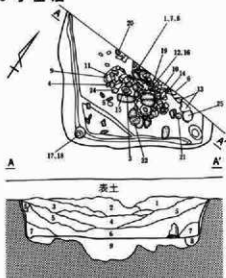


17号住層出土遺物



# 18号住居

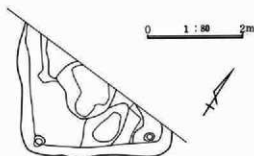
遺物観察表 23

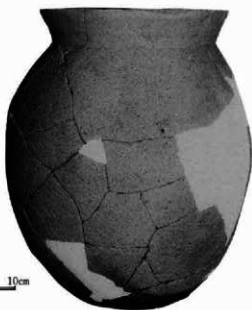
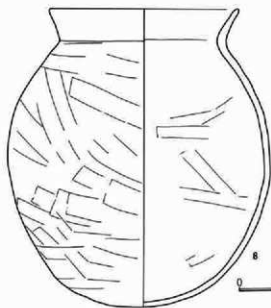
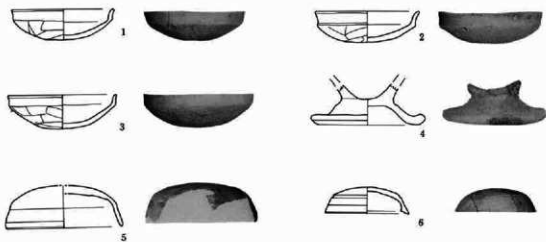


- 1 褐色砂質土。φ1~2mmの白色軽石粒含む。
- 2 黒褐色土。φ2~3mmの白色軽石粒含む。
- 3 黒褐色土。φ2~3mmの白色軽石粒、ローム粒含む。
- 4 黒褐色土。3より暗い色調。
- 5 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 6 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 7 暗黄褐色土。
- 8 暗黄褐色土。ロームブロック、黒色土ブロック含む。
- 9 黄褐色土。ローム主体で、黒色土粒含む。

L=99.10m  
1:80 2m

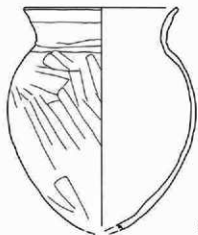
**形状** 住居の北半部が調査区域外のため、全形を確定することはできない。東西軸は3.2m。床面 基盤層を80cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の南西隅が平坦な他は、深さ30cmのピット状に掘り込まれている。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で整っている。柱 穴 確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡はない。住居の南西隅と南東隅に直径20cm、深さ40cmの柱穴様ピット2個が認められるが、対応する北壁下が調査区域外のため、現状では柱穴と認め難い。竈 跡 確認した壁の範囲に竈の痕跡はない。壁 溝 幅10cm、深さ5cmで、西壁下と南壁下に巡る。遺物 住居中央部の床面に密着して土師器坏・甕・須恵器蓋・短頸壺が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +59° 面積 測定不可能。



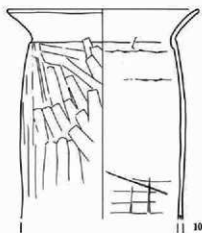


0 1 : 4 10cm

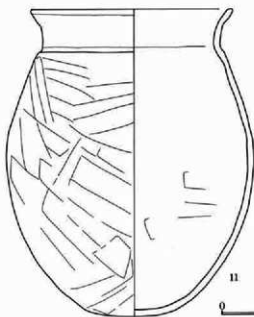
18号住居出土遺物



9



10

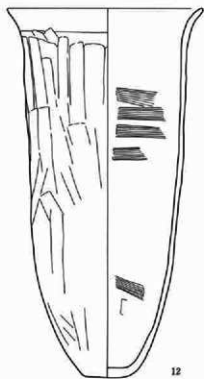


11

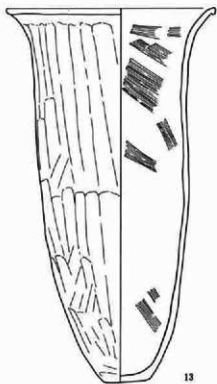
0 1 : 4 10cm



18号住居出土遺物



12

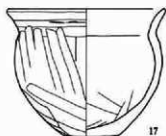
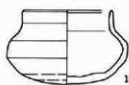
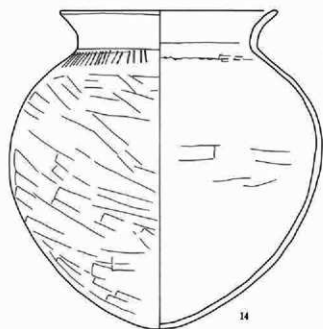


13



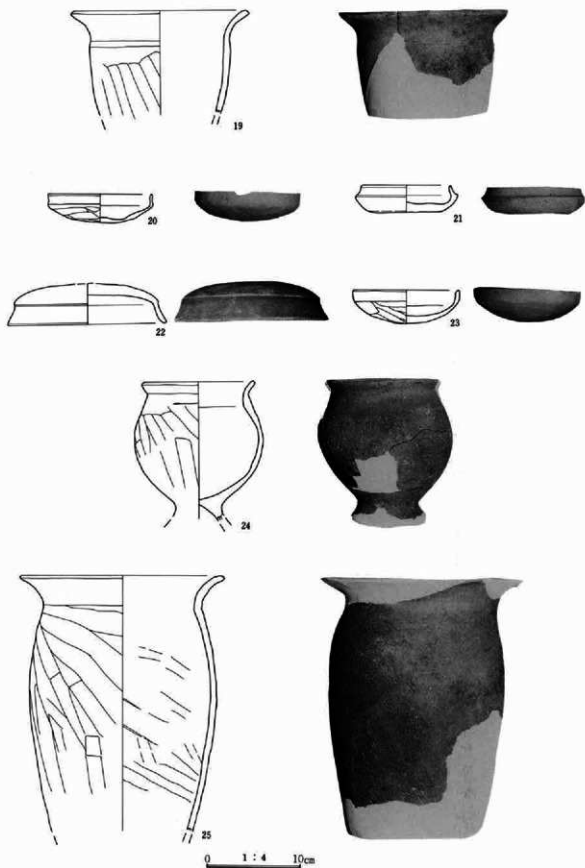
0 1 : 4 10cm

18号住居出土遺物



0 1 : 4 10cm

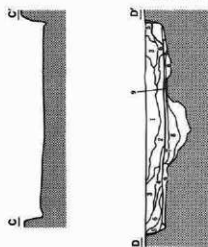
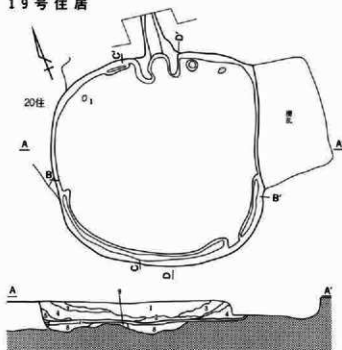
18号住居出土遺物



18号住居出土遺物

19号住居

遺物観察表 24

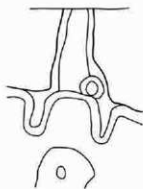
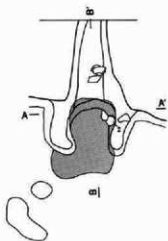


- 1 暗褐色土。指頭大のロームブロック、白色軽石粒含む。
- 2 黒褐色土。指頭大のロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 4 暗褐色土。指頭大のロームブロック含む。
- 5 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 6 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。ロームブロック主体。
- 8 黒褐色土。指頭大のロームブロック含む。
- 9 暗褐色土。ローム粒含む。



**形状** 短軸4.4m、長軸4.5mで、四隅が丸味をもつ中形正方形住居。この遺跡で四隅が丸味をもつ住居はこの住居以外になく、軸線の傾きとともに特異である。床面基盤層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部に短軸1.0m、長軸1.5m、深さ50cmのピットが掘り込まれる他、南西部には直径1.0m、深さ1.3mで、下端が袋状に掘り込まれたピットをもつ。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 北壁の中央部に位置する。壁内に造り付けた長さ50cmの袖部を検出した。燃焼部は幅40cm、奥行き50cmで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は壁の中段からほぼ水平に80cm伸びる。壁溝 幅15cm、深さ5cmで、住居南半の壁下に巡る。遺物 住居北西部の床面に密着して土師器環・覆土内より土師器環・甕が出土し、これらに大きな型式差が認められないため、これらが住居の年代を示すものと判断した。重複 住居の北西部で20号住居と重複する。19号住居が20号住居を切って構築する平面精査の所見を得、これは伴出する土器の型式が示す順序と矛盾しない。方位 +18° 面積 17.54m<sup>2</sup>

19号住居竈



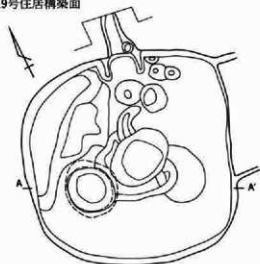
L=89.50m  
1:40  
0 1 m

- 1 暗褐色土。ローム粒、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 2 黒褐色土。ロームブロック、炭化物、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 3 黒褐色土。ローム粒、焼土粒、黄褐色粘土ブロック含む。
- 4 黒褐色土。ローム粒、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 5 黒褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 6 黒褐色土。焼土粒、灰含む。
- 7 黒褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 8 暗黄褐色土。焼土含む天井部の崩落土。
- 9 暗黄褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 10 暗褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 11 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 12 暗黄褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 13 暗黄褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 14 黄褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 15 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒、灰含む。
- 16 黄褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 17 黄褐色土。

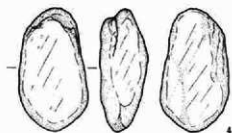
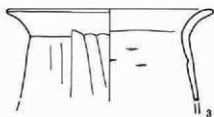




19号住居構築面



L=88.40m  
0 1:80 2m

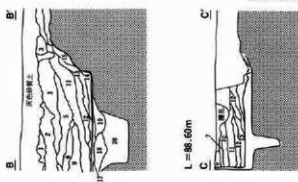
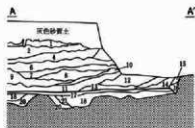
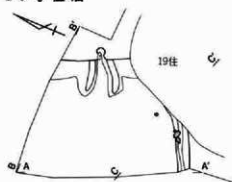


0 1:4 10cm

19号住居出土遺物

## 20号住居

遺物観察表 24



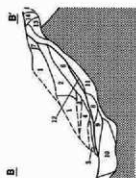
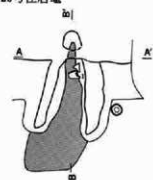
L=89.40m  
0 1:80 2m

**形状** 住居の北半部と西半部が調査区域外のため、全形を確認することができない。床面基礎層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面には深さ40~70cmのピットが5個掘り込まれる。この面に厚さ20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で整っている。柱穴確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にも柱穴の痕跡がない。竈跡 東壁に位置する。壁内に造り付けた長さ70cmの袖部を検出した。燃烧部は幅40cm、奥行き60cmで、全てを壁内に造り付ける燃烧部壁内型を呈す。煙道は火床の底面から50°の傾きで立ち上がり、壁外30cmまで伸びる。壁溝 幅10cm、深さ5cmで、南壁下に巡る。遺物 竈の火床に密着して土師器壺、住居の構築面と覆土内より土師器が出土する。伴出する土器間に大きな型式差が認められないため、これらが住居の年代を示すものと判断した。重複 住居の南東隅で19号住居と重複する。19号住居が20号住居を切って構築する平面精査の所見を得、これは伴出する土器の型式が示す順序と矛盾しない。方位 +68° 面積 測定不可能。

- 1 暗褐色土。白色軽石粒含む。
- 2 暗褐色土。ローム粒含む。
- 3 暗黄褐色土。φ1~3cmのロームブロック含む。
- 4 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 5 黒褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 6 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 7 暗茶褐色土。ローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 8 暗茶褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 9 黒褐色土。焼土粒、炭化物、ローム粒、白色軽石粒含む。
- 10 黒褐色土。多量のローム粒含む。
- 11 暗黄褐色土。φ2~4cmのロームブロック、焼土粒含む。
- 12 黒褐色土。φ1cm次のロームブロック、焼土粒含む。
- 13 暗黄褐色土。φ0.5~1cmのロームブロック、焼土粒含む。
- 14 暗黄褐色土。φ0.5~1cmのロームブロック、焼土粒含む。
- 15 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 16 暗褐色土。ローム粒含む。
- 17 暗黄褐色土。φ3~4cmのロームブロック、黒色土ブロック含む。
- 18 黄褐色土。多量のφ3~4cmのロームブロック含む。
- 19 黒褐色土。φ2~3cmのロームブロック、焼土粒含む。
- 20 暗黄褐色土。φ2~5cmのロームブロック含む。
- 21 暗黄褐色土。φ2~5cmのロームブロック、焼土粒含む。



20号住居竈

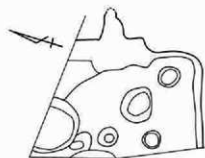


L=88.76m  
0 1:40 m



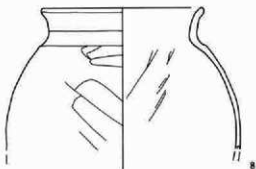
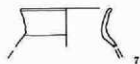
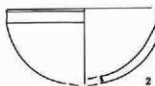
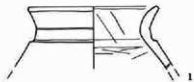
- 1 暗褐色土。焼土ブロック、ロームブロック含む。
- 2 暗茶褐色土。
- 3 暗茶褐色土。多量の焼土、黄色粘土ブロック含む。
- 4 暗茶褐色土。
- 5 褐色土。焼土ブロック、灰、炭化物含む。
- 6 暗褐色土。多量の灰、焼土含む。
- 7 暗黄褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 8 灰褐色土。多量の灰、焼土ブロック含む。
- 9 赤褐色土。焼土。
- 10 暗灰褐色土。灰、焼土粒、ローム粒含む。
- 11 暗褐色土。φ2~3cmのロームブロック、焼土粒含む。
- 12 暗灰褐色土。多量の灰含む。
- 13 暗黄褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 14 黒褐色土。ローム粒、焼土粒、白色軽石粒含む。

20号住居構築面



0 1:80 2m

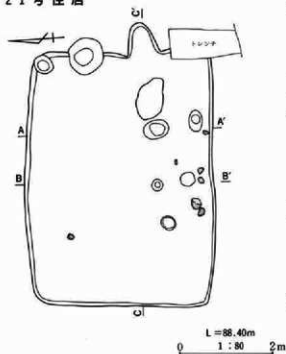




0 1:4 10cm

20号住居出土遺物

## 21号住居



- 1 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。指頭大のローム粒含む。
- 4 暗褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒、炭化物、焼土粒含む。
- 6 暗褐色土。暗褐色土とロームの混土层。
- 7 黒褐色土。焼土粒、ロームブロック、灰含む。
- 8 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 9 赤褐色土。焼土化した層。
- 10 暗黄褐色土。黒褐色土ブロック含む。
- 11 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 12 黄褐色土。ローム主体で黒褐色土ブロック含む。
- 13 黄褐色土。ローム主体で黒褐色土粒含む。
- 14 黒褐色土。ローム粒、軽石粒含む。

## 遺物観察表 25

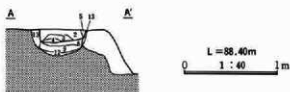
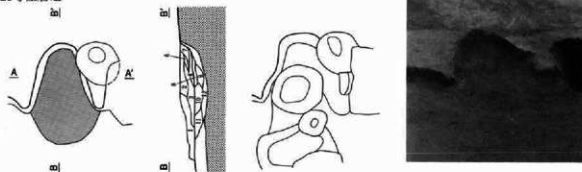
形状 短軸4.0m、長軸5.3mで、東西に長軸をもつ中形縦長方形住居。床面 基盤層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は西壁際に2個、住居北東隅に1個のピットが掘り込まれ、深さはいずれも15cmである。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱穴 壁内に支柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴うような柱穴の痕跡はない。竈 跡 東壁の中央よりやや南側に位置する。燃焼部は幅70cm、奥行き60cmで、全てを壁外に造り出す燃焼部壁外型を呈す。煙道は確認できない。遺物 床面に密着した土器はなく、住居の構築面より土器器



壺、覆土より土器器坏・須恵器蓋がそれぞれ出土する。これらはいずれも型式差が認められるが、住居の構築面より出土する土器器壺がこの住居の年代を示すものと判断した。重複 住居の南壁部で23号住居と重複する。21号住居が23号住居を切って構築する平面精査、土層断面の所見を得た。方位 +95° 面積 21.12㎡



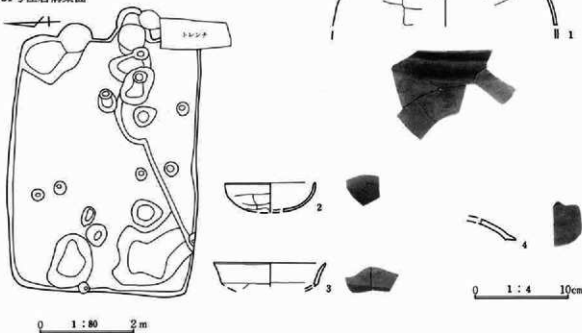
21号住居窟



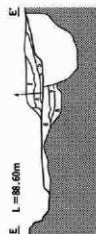
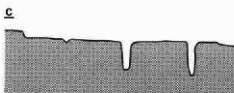
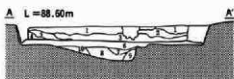
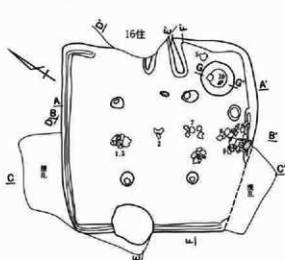
- 1 暗褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 2 暗褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。焼土粒、ロームブロック、黄褐色粘土ブロック含む。
- 4 黒褐色土。焼土粒、灰含む。
- 5 黄褐色土。
- 6 黒褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 7 暗黄褐色土。焼土粒、黄褐色粘土ブロック含む。
- 8 暗褐色土。焼土粒、灰、ローム粒含む。
- 9 暗褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 10 暗褐色土。少量の焼土粒、ローム粒含む。
- 11 暗褐色土。焼土粒、ローム粒、少量の炭化物含む。
- 12 暗黄褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 13 暗黄褐色土。ローム粒含む。



21号住居構築案内



21号住居出土遺物



L = 88.10m

L = 88.70m  
0 1 : 80 2m

- 1 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。
- 2 黒褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土、ロームブロック、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 4 暗褐色土、ローム粒、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 5 暗褐色土、多量のローム粒、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 6 暗黄褐色土、ローム主体で、暗褐色土含む。
- 7 黒褐色土、多量のロームブロック含む。
- 8 暗黄褐色土、ローム主体で、暗褐色土含む。
- 9 暗黄褐色土、ローム主体。
- 10 暗黄褐色土、ローム主体。

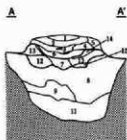
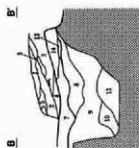
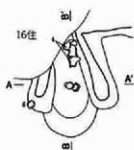
- 1 暗褐色土、多量のローム粒含む。
- 2 暗褐色土、多量のローム粒、炭化物含む。
- 3 暗黄褐色土。
- 4 黒褐色土。
- 5 暗黄褐色土。
- 6 黄色粘土。

**形状** 一辺4.1mの小形正方形住居。近接する24号住居に形状、規模、軸線の傾きが近似し、住居の年代も近い。住居の南西隅は擾乱を受けて確認

できない。床面 基礎層を40cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部から東壁にかけて、幅1.0m、深さ60cmの掘り込みをもつ。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を配置する。心々を結ぶ四角形は短軸1.4m、長軸1.7mで東西に長軸をもつ長方形を示し、住居の外形と相似形ではない。直径25cm、深さ60~70cmの単純円形掘り方を呈す。竈跡 東壁のほぼ中央に設置する。壁内に造り付けた長さ70cmの袖部を突出した。焼焼部は幅40cm、奥行き70cmで、全てを壁内に造り付ける焼焼部壁内型を呈す。煙道は重複する住居に切られて確認できない。貯蔵穴 住居の南東隅に直径60cm、深さ65cmの円形プランで設置する。壁溝 幅10cm、深さ5cmで、北壁と西壁下に巡る。遺物 住居中央部の床面に密着して土師器釜、南壁際中央部の床面直上より土師器甕・甗が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、竈内より土師器高坏、住居の覆土内より土師器坏が出土する。重複 住居の東壁部で16号住居と重複する。16号住居がこの住居を切って構築する平面精査の所見を得、これは伴出する土師の型式が示す順序と矛盾しない。方位 +59° 面積 16.22㎡ (推定)



22号住居跡



- 1 黒褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。焼土粒、白色軽石粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。灰、焼土粒、炭化物含む。
- 4 暗褐色土。焼土粒、ロームブロック、青灰白色粘質土含む。
- 5 暗褐色土。
- 6 暗褐色土。炭化物、黄褐色粘質土、焼土粒含む。
- 7 暗褐色土。焼土粒、灰含む。
- 8 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 9 暗褐色土。暗黄褐色土ブロック含む。
- 10 暗褐色土。
- 11 黒褐色土。
- 12 黒褐色土。少量の灰、焼土粒含む。
- 13 黄褐色土。電線基材。
- 14 暗赤褐色土。焼土化した13。

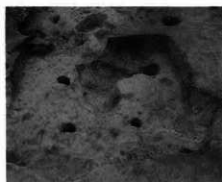
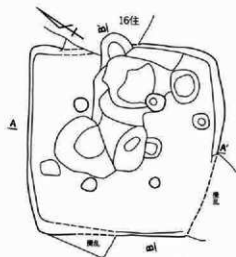


L = 88.50 m  
0 1 : 40 1 m

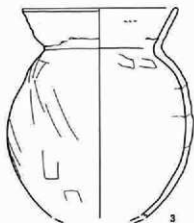
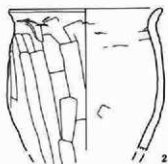




22号住居構築面

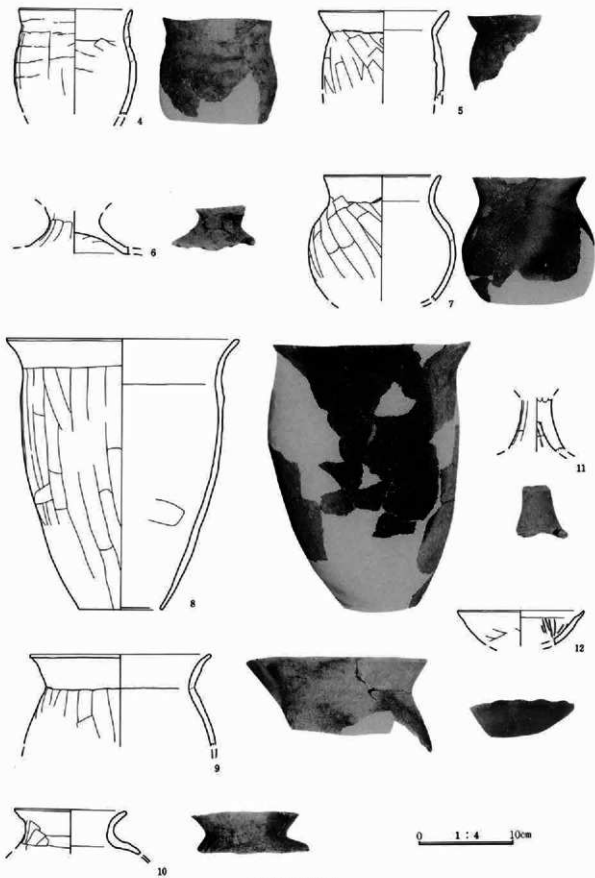


L = 88.50m  
0 1 : 80 2m



22号住居出土遺物

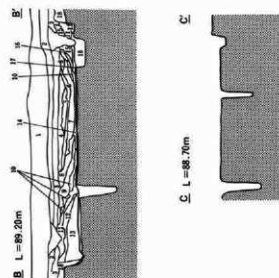
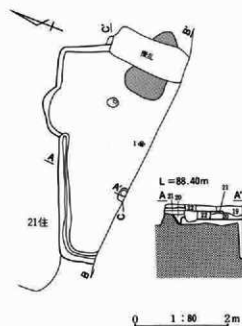
0 1 : 4 10cm



22号住居出土遺物

## 23号住居

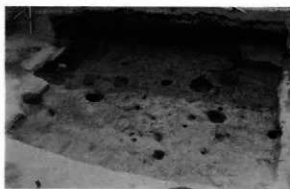
遺物観察表 26



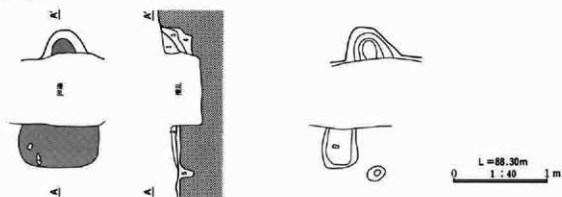
- 1 表土。
- 2 表土。
- 3 暗灰色土。ローム粒、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 4 暗褐色土。ローム粒、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 5 暗褐色土。指頭大のロームブロック、白色軽石粒含む。
- 6 黒褐色土。ローム粒、焼土粒、白色軽石粒、炭化物含む。
- 7 暗褐色土。ローム粒、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 8 暗褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 9 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 10 黒褐色土。多量のローム粒含む。
- 11 暗褐色土。ロームブロック含む。

- 12 黒褐色土。ローム粒含む。
- 13 暗褐色土。指頭大のロームブロック含む。
- 14 灰褐色土。ローム粒含む。
- 15 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 16 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 17 褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 18 黄色土。ローム。
- 19 暗褐色土。ローム粒、黒色土含む。
- 20 褐色土。多量のローム含む。
- 21 暗褐色土。暗褐色土とロームの混土层。
- 22 暗黄褐色土。ロームブロック、黒褐色土含む。

**形状** 住居の南半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は4.7mである。床面 基礎層を30cm掘り込んで構築面とする。構築面は北壁に沿った部分が、住居の中央部より10cm深く掘り込まれている。この面に厚さ5cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱穴 北壁に平行する2個の柱穴様ビットを検出した。直径20cm、深さ60~70cmの単純円形掘り方で、住居の外形に対して自然な位置を占めるが、対応する柱穴列が調査区域外のため、主柱穴として認定できない。竈跡 東壁に設置するが攪乱を受けているために、燃焼部の先端と考えられる部分を除いて確認できない。遺物 床面に密着した土器はなく、住居中央部の床面上21cmと覆土内より土師器の破片が出土し、これ以外に住居の年代を示す遺物はない。重複 住居の北半部で21号住居と重複する。21号住居が23号住居を切って構築する平面精査、土層断面の所見を得た。方位 +70° 面積 測定不可能。

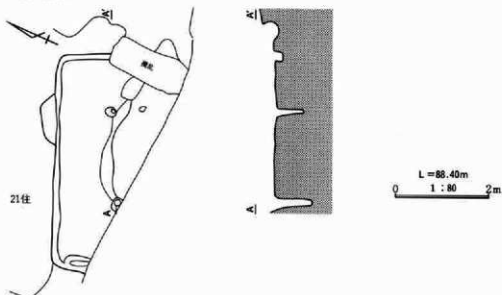


23号住居竈

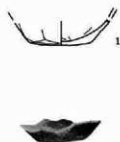
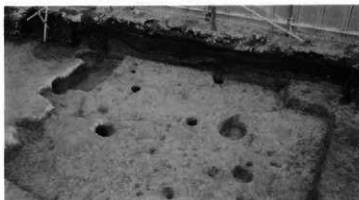


- 1 暗褐色土、焼土粒、炭化物含む。
- 2 暗褐色土、暗褐色粘土ブロック、焼土粒、炭化物含む。
- 3 暗褐色土、焼土粒、炭化物、灰、ローム粒含む。
- 4 暗褐色土、焼土粒、ローム粒含む。
- 5 暗茶褐色土、ロームを主体とし、焼土粒含む。

23号住居構築面



21住

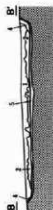
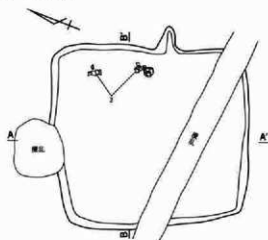


0 1 : 4 10cm

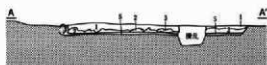
23号住居出土遺物

24号住居

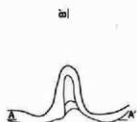
遺物観察表 26



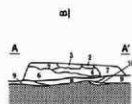
- 1 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 3 暗褐色土。焼土ブロック含む。
- 4 暗褐色土。ロームを主体とする壁の崩壊土。
- 5 黄褐色土。ローム主体。



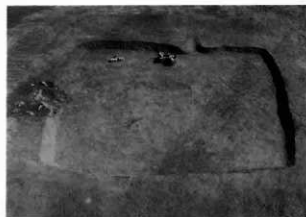
L=88.70m  
0 1:80 2m



- 1 黒褐色土。焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。焼土粒、白色軽石粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。焼土粒含む。
- 4 暗褐色土。焼土ブロック、白色軽石粒、ローム粒含む。
- 5 暗褐色土。ローム主体。
- 6 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 7 暗褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 8 黄褐色土。ロームを主体とし、焼土粒含む。
- 9 黄褐色土。ロームを主体とし、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 10 暗褐色土。ローム粒、焼土粒、炭化物、灰含む。

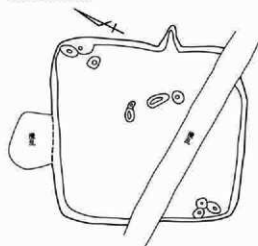


L=88.70m  
0 1:40 1m

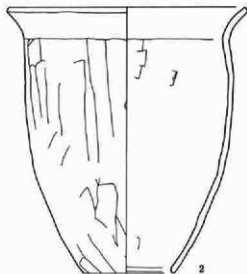
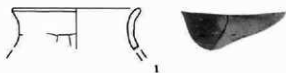
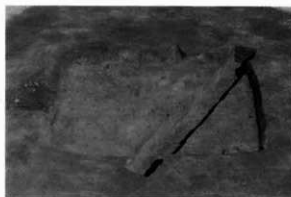


**形状** 短軸3.9m、長軸4.2mで、南北に僅かに長い小形正方形住居。近接する22号住居に形状、規模、軸線の傾きが近似し、住居の年代も近い。床面 基盤層を20cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に平坦で整っている。この面に厚さ5cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴う柱穴の痕跡はない。竈跡 東壁の中央よりやや南側に設置する。残存状態が悪く主体部は確認できないが、燃焼部が壁を掘り込んでいないことから、燃焼部壁内型と推定する。煙道は火床の底面から20°の傾きで立ち上がり、壁外40cmまで伸びる。遺物 東壁際北側の床面直上より土師器甕が出土し、これが住居の年代を示す。その他、覆土内より土師器甕が出土する。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +65° 面積 15.31㎡

24号住居構築面

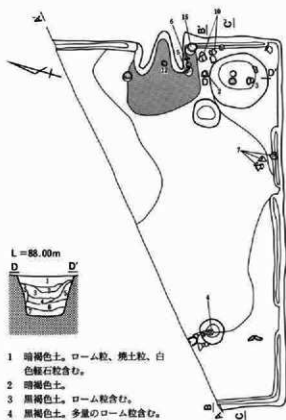


0 1:80 2m



0 1:4 10cm

24号住居出土遺物

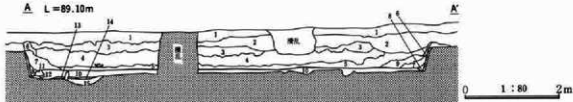


L=88.00m



- 1 暗褐色土。ローム粒、焼土粒、白色軽石粒含む。
- 2 暗褐色土。
- 3 黒褐色土。ローム粒含む。
- 4 黒褐色土。多量のローム粒含む。
- 5 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 6 黒褐色砂質土。ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。ローム粒、黒褐色砂含む。

A L=89.10m



- 1 表土。
- 2 表土。
- 3 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 4 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒含む。
- 6 暗褐色土。4と5の混土层。
- 7 暗褐色土。ローム粒、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 8 暗褐色土。ローム粒含む。
- 9 黒褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 10 黄褐色土。ロームブロック主体。
- 11 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 12 暗黄褐色土。φ2cm大のロームブロック、炭化物含む。
- 13 暗黄褐色土。φ2cm大のロームブロック、炭化物含む。
- 14 黒色土。ロームブロック、炭化物含む。
- 15 黄褐色土。ロームブロック主体。



**形状** 住居の北半が調査区域外のため、外形を確認することができない。確認した東西軸は7.9mである。

**床面** 基盤層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は西壁際が僅かに深く掘り込まれる他は、平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っており、竈の西側から西壁の東側にかけての範囲は踏み固められて堅固である。

**柱穴** 南壁に平行した2個の柱穴列を検出した。直径50cm、深さ70~80cmの単純円形掘り方で、住居の外形に対する配置が自然であることから、柱穴の可能性が高い。

**竈跡** 東壁に設置する。壁内に造り付けた長さ60cmの袖部を検出した。燃燒部は幅50cm、奥行き50cmで、全てを壁内に造り付ける燃燒部壁内型を呈す。煙道は火床の底面から50°の傾きで立ち上がるが、壁を20cm掘り込むにすぎない。

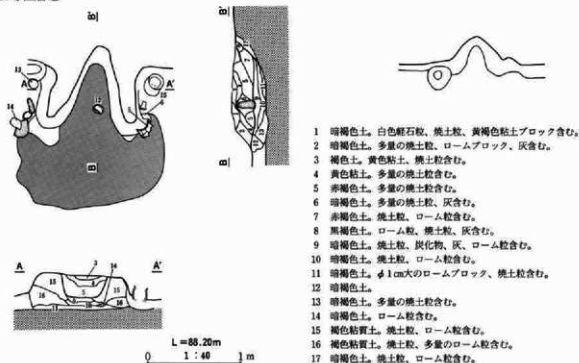
**貯蔵穴** 住居の南東隅に直径1.2m、深さ80cmの円形プランで設置する。壁溝幅10cm、深さ5cmで、南壁の一部を除く壁下に巡る。

**遺物** 竈南側の床面に密着して土師器壺・甕、住居西側の床面に密着して土師器甕、南壁際東側の床面直上より土師器壺が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、覆土内より土師器高坏・坏・須恵器平瓶が出土する。

**重複** 他の住居と重複することなく、単独で占地する。

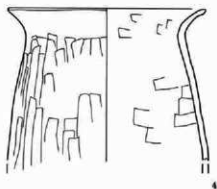
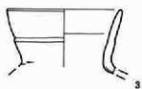
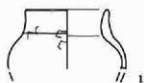
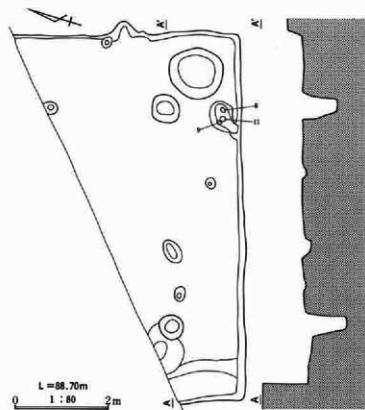
**方位** +72° **面積** 測定不可能。

#### 25号住居竈





25号住居構築面



25号住居出土遺物

0 1 : 4 10cm



5



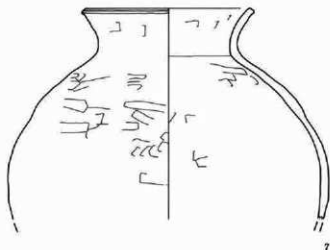
6



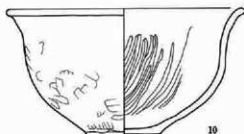
8



9



7



10



0 1 : 4 10cm

25号住居出土遺物



11



12



13



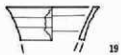
14



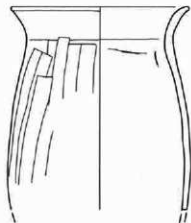
16



18



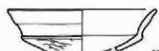
19



15



17



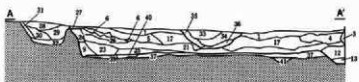
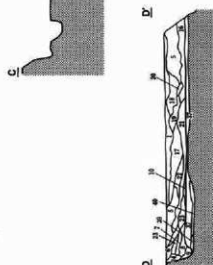
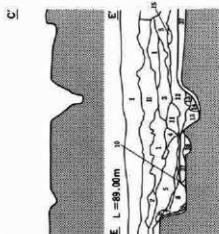
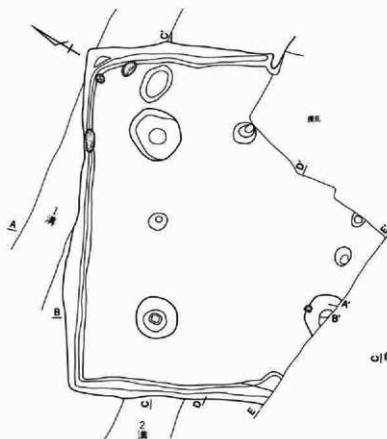
20



0 1 : 4 10cm

25号住居出土遺物

26号住居



- 1 灰褐色砂質土。
- 2 暗褐色土。
- 3 暗黄褐色土。φ3~5cmのロームブロック、褐色軽石含む。
- 4 暗褐色土。ロームブロック、白色軽石粒含む。
- 5 黒褐色土。ロームブロック、焼土粒、炭化物含む。
- 6 暗黄褐色土。1より暗い色調。
- 7 暗黄褐色土。φ3cm大のロームブロック、白色軽石粒含む。
- 8 黒褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 9 黒褐色土。ローム粒、白色軽石粒、焼土粒、炭化物含む。
- 10 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 11 暗黄褐色土。φ1~2cmのロームブロック含む。
- 12 暗黄褐色土。焼土ブロック、炭化物、φ1~2cmのロームブ

- 13 ロック含む。
- 14 暗黄褐色土。φ1~3cmのロームブロック含む。
- 15 暗黄褐色土。φ0.5~1.5cmのロームブロック、炭化物含む。
- 16 黒色土。ローム粒、炭化物、焼土粒含む。
- 17 黄褐色土。ローム。
- 18 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 19 暗黄褐色土。φ1~3cmのロームブロック、炭化物含む。
- 20 暗黄褐色土。φ1~4cmのロームブロック、炭化物含む。
- 21 暗黄褐色土。
- 22 暗褐色土。φ0.5~2cmのロームブロック、炭化物含む。
- 23 暗黄褐色土。φ1~2cmのロームブロック、焼土粒、白色粘土粒含む。

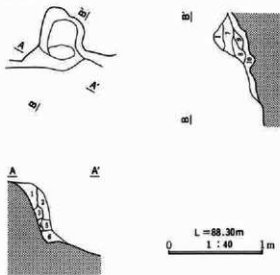
- 21 暗黄褐色土。φ1~2cmのロームブロック、黒色土ブロック含む。
- 22 暗黄褐色土。17より暗い色調。
- 23 暗黄褐色土。多量のローム粒含む。
- 24 暗黄褐色土。多量のローム粒含む。
- 25 黒褐色土。炭化物、焼土粒含む。
- 26 暗黄褐色土。φ3cm大のロームブロック含む。
- 27 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 28 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 29 暗褐色土。28より暗い色調。
- 30 暗褐色土。
- 31 暗黄褐色土。ローム粒含む。

- 32 黄褐色土。ロームの崩壊土。
- 33 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 34 暗褐色土。33より暗い色調。
- 35 暗褐色土。白色軽石粒。φ3cm大のロームブロック含む。
- 36 暗褐色土。35より黄色味が強い。
- 37 暗黄褐色土。φ0.5~3cmのロームブロック、黒色土ブロック含む。
- 38 暗黄褐色土。φ1~2cmのロームブロック含む。
- 39 黒褐色土。φ1~3cmのロームブロック含む。
- 40 黒色土。ローム粒含む。
- 41 黄褐色土。ローム。

**形状** 住居の南半が調査区域外のため全形を確認することはできないが、柱穴の配置から想定する住居の外形は一辺7.5mの超大形正方形住居。14号住居に形状、規模、柱穴の配置が極めて近似する。床面 基盤層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は柱穴を結んだ線の外側が、その内側より10cm程深く掘り込まれている。また、住居中央より北西側に直径90cm、深さ35cmの円形ピットが掘り込まれ、底面に密着して棒状の河原石9個が出土する。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱穴 3個を確認した。心々を結ぶと北辺3.9m、西辺3.8mで、直径90cm、深さ50~65cmの単純円形掘り方を呈す。南東に位置する1個は攪乱を受けている。竈跡 東壁の中央よりやや南側に設置するが、大半の部分が攪乱されて構造は不明である。壁溝 幅20cm、深さ5cmで、確認した全壁下に巡る。遺物 復原が可能な伴出土器はない。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。1号溝、2号溝との新旧関係は、両溝がこの住居を切って構築する平面精査、土層断面の所見を得た。方位 +65° 面積 54.75㎡ (推定)



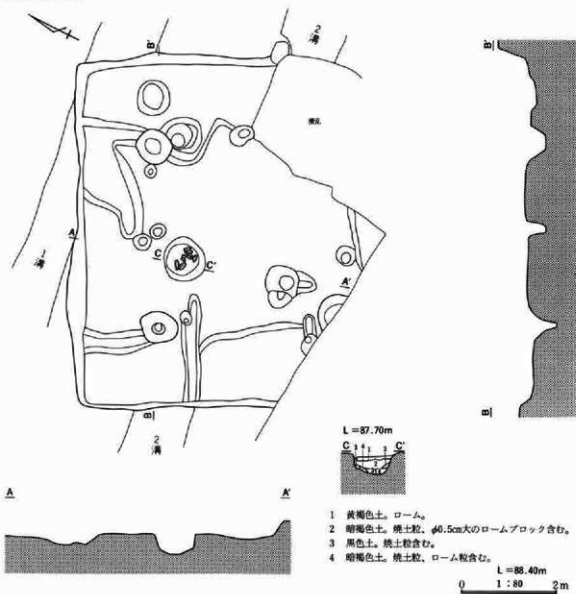
26号住居電

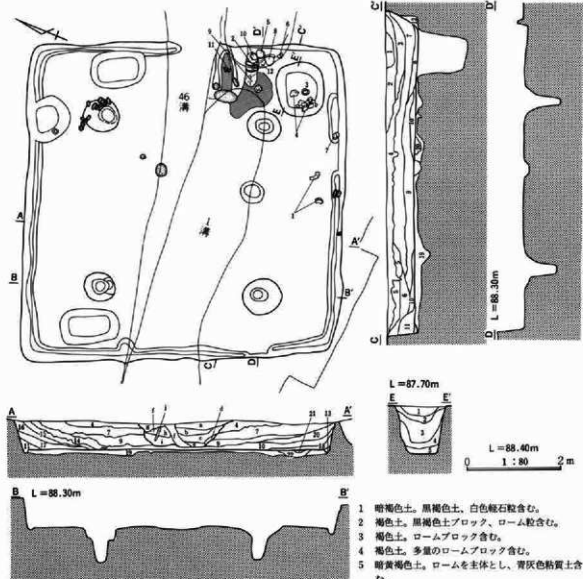


- 1 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、φ0.5cm大のロームブロック含む。
- 2 暗褐色粘土。焼土粒、ローム粒含む。
- 3 ロームブロック。

- 4 暗褐色粘土。
- 5 灰色土。焼土粒、灰含む。
- 6 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 7 暗褐色土。
- 8 暗褐色土。多量の焼土粒含む。
- 9 黒褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 10 黒褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。

26号住居構築面



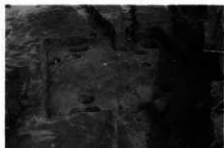


- a 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 b 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒、褐色土含む。  
 c 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒、黒褐色土含む。  
 d 褐色土、 $\phi$  1~2cmのロームブロック含む。  
 e 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 f 暗褐色土、黒褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 g 黒褐色土、白色軽石粒含む。  
 h 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 i 暗褐色土、 $\phi$  2~3cmのロームブロック、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 j 黒褐色土。

- 1 暗褐色土、黒褐色土、白色軽石粒含む。  
 2 褐色土、白色軽石粒、焼土粒、ロームブロック含む。  
 3 褐色土、白色軽石粒、焼土粒、ローム粒含む。  
 4 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 5 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 6 暗褐色土、白色軽石粒、ローム粒、黒褐色土含む。

- 1 暗褐色土。黒褐色土、白色軽石粒含む。  
 2 褐色土。黒褐色土ブロック、ローム粒含む。  
 3 褐色土。ロームブロック含む。  
 4 褐色土。多量のロームブロック含む。  
 5 暗黄褐色土。ロームを主体とし、青灰色粘質土含む。

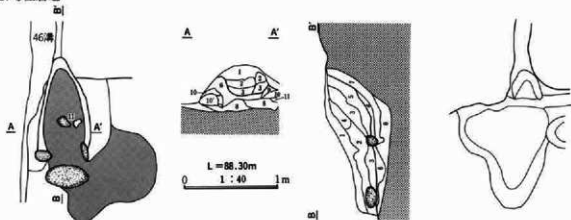
- 7 褐色土。白色軽石粒、 $\phi$  2~3cmのロームブロック含む。  
 8 褐色土。白色軽石粒、ローム粒、焼土粒含む。  
 9 褐色土。黒褐色土ブロック、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 10 暗褐色土。黒褐色土、炭化物、ローム粒、白色軽石粒含む。  
 11 褐色土。多量のローム含む。  
 12 褐色土。焼土粒、多量のローム含む。  
 13 褐色土。ロームブロック、黒褐色土含む。  
 14 暗褐色土。黒褐色土、 $\phi$  2~3cmのロームブロック含む。  
 15 褐色土。ローム粒、焼土粒、炭化物、白色軽石粒含む。  
 16 暗褐色土。黒褐色土ブロック、白色軽石粒、ローム粒含む。  
 17 褐色土。白色軽石粒、炭化物含む。  
 18 暗褐色土。ローム粒、焼土粒、炭化物含む。  
 19 黄褐色土。ローム主体。  
 20 黄褐色土。焼土粒、炭化物、暗褐色土含む。  
 21 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒、炭化物含む。  
 22 暗褐色土。ロームブロック、多量の焼土粒、炭化物含む。



**形状** 短軸6.7m、長軸6.8mの超大形正方形住居。近接する33号住居に形状、規模が近似し、住居の年代も近い。床面 基盤層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は4個の柱穴を結ぶ四角形の外側が、内側よりやや深く掘り込まれている他は、比較的平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を配置する。心々を結ぶ四角形は短軸3.3m、長軸3.6mで、東西に長い長方形を示す。直径60cm、深さ70~85cmの単純円形掘り方を呈す。竈跡 東壁の中央よりやや南側に設置する。壁内に造り付けた長さ90cmの袖部を検出した。燃烧部は幅40cm、奥行き90cmで、全てを壁内に造り付ける燃烧部壁内型を呈す。焚口部の両側に河原石を据えて袖部の補強材とする。焚口部手前の床面に密着して出土する同質の石は、焚口部の両側に据えられた石の上に横架されていたものと考えられる。火床の中央に石製支脚を置く。煙道は火床の底面から50°の傾きで立ち上がり、壁外30cmまで伸びる。貯蔵穴 住居の南東隅に一边1.0m、深さ1.0mの方形プランで設置する。壁溝 幅15cm、深さ5~10cmで、住居の南東隅を除く壁下に巡る。遺物 貯蔵穴の底面直上より土師器杯・甗、竈南側の床面直上より土師器甕・高坏・甗・杯が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、住居の覆土内より土師器杯・高坏・須恵器蓋が出土する。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。住居の中央部で重複する1号溝、46号溝との新旧関係は、27住→46溝→1溝の順を示す土層断面の所見を得た。方位 +69° 面積 45.04㎡

27号住居竈

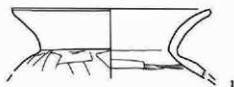
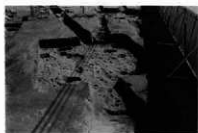
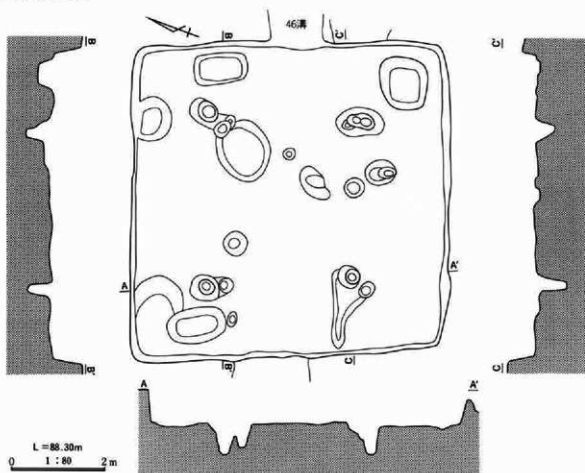
27号住居竈



- 1 暗褐色土。ローム粒、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒含む。
- 3 暗褐色土。焼土粒、灰含む。
- 4 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 5 暗褐色土。黒褐色土、焼土粒、灰含む。
- 6 赤褐色土。焼土粒、灰含む。
- 7 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 8 暗褐色土。暗褐色土とロームの混土層。
- 9 赤褐色土。焼土化した甗構築材。
- 10 茶褐色粘質土。焼土粒含む。
- 10' 茶褐色粘質土。少量の焼土粒含む。
- 11 暗褐色土。炭化物含む。



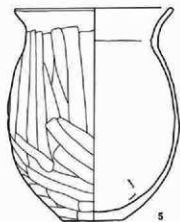
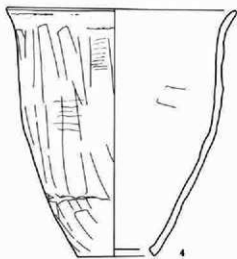
27号住居構築面



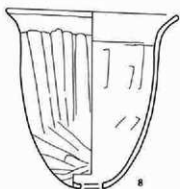
0 1 : 4 10cm



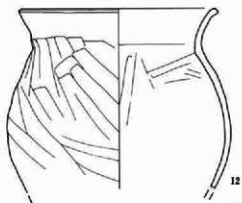
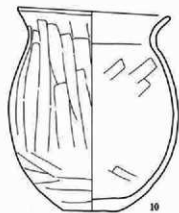
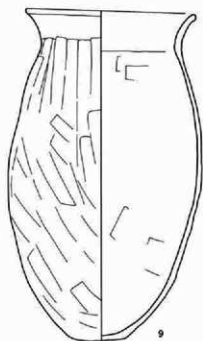
27号住居出土遺物



0 1:4 10cm



27号住居出土遺物

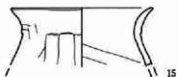


0 1 : 4 10cm

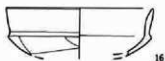
27号住層出土遺物



0 1 : 2 5cm



15



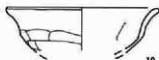
16



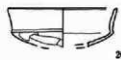
17



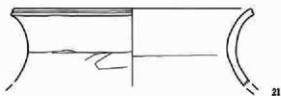
18



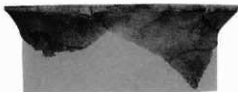
19



20

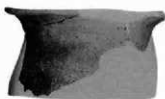
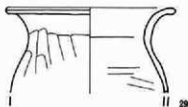
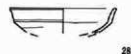
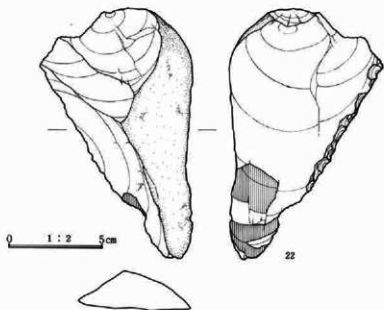


21



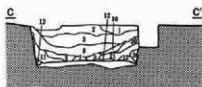
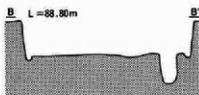
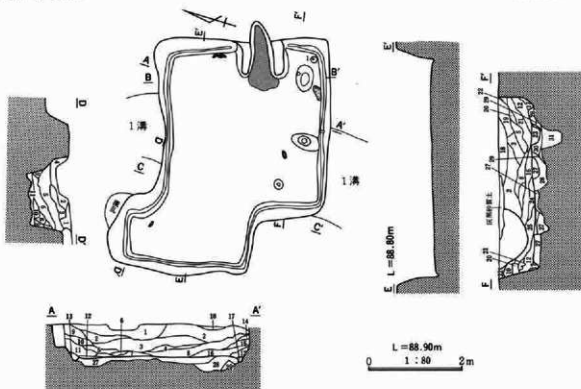
0 1 : 4 10cm

27号住居出土遺物



27号住居出土遺物

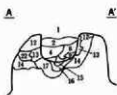
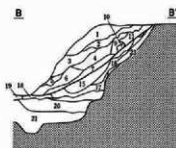
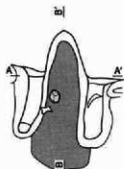
0 1:4 10cm



- 1 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。1より黄色味が強い。
- 3 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土。3より暗い色調。
- 5 暗褐色土。白色軽石粒、 $\phi$ 2cm大のロームブロック含む。
- 6 暗褐色土。多量のロームブロック含む。
- 7 暗褐色土。少量のロームブロック含む。
- 8 黒褐色土。 $\phi$ 3cm大のロームブロックを多量に含む。
- 9 暗褐色土。
- 10 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 11 暗褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 12 黒褐色土。ローム粒含む。
- 13 黄褐色土。ローム。
- 14 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 15 黒褐色土。 $\phi$ 2~3cmのロームブロック、焼土粒含む。
- 16 暗褐色土。ローム粒、焼土粒、炭化物含む。
- 17 黒褐色土。多量のロームブロック含む。
- 18 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、炭化物含む。
- 19 暗黄褐色土。 $\phi$ 3cm大のロームブロック、白色軽石粒、焼土粒含む。
- 20 黄褐色土。
- 21 黄褐色土。
- 22 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 23 黒褐色土。
- 24 暗黄褐色土。 $\phi$ 2cm大のロームブロック、焼土粒、炭化物含む。
- 25 暗黄褐色土。
- 26 暗黄褐色土。多量のローム粒含む。
- 27 暗黄褐色土。ロームと褐色土の混土层。
- 28 暗黄褐色土。ロームと黒褐色土の混土层。
- 29 暗黄褐色土。ロームと黒褐色土の混土层。
- 30 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 31 暗黒褐色土。

**形 状** 短軸3.5m、長軸3.8mで、東西に僅かに長い小形正方形住居。住居の北西部に東西軸1.7m、南北軸3.0mの張出し部をもつ。この遺跡で張出し部をもつ唯一の住居である。床 面 基盤層を90cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居中央南側が深さ35cm、張出し部が深さ10cm程掘り込まれ、住居の北半部を除いて平坦な面はない。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で、張出し部にも一切の段差はない。柱 穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴う柱穴の痕跡がない。竈 跡 東壁の中央よりやや南側に設置する。残存状態が良く、壁内に造り付けた長さ70cmの袖部を検出した。燃烧部は幅45cm、奥行き70cmで、全てを壁内に造り付ける燃烧部壁内型を呈す。煙道は壁の中段から50°の傾きで立ち上がり、壁外50cmまで伸びる。貯蔵穴 住居の南東隅に短軸40cm、長軸60cm、深さ60cmの楕円形プランで設置する。壁 溝 幅20cm、深さ5~10cmで、竈の部分を除く張出し部を含めた全壁下に巡る。遺 物 住居南東隅の床面に密着して須恵器短頸蓋が出土する他、覆土内より土師器杯・甕が出土する。いずれも大きな型式差が認められないため、これらが住居の年代を示すものと判断した。重 複 住居の東半部で15号住居と重複する。28号住居が15号住居を切って構築する平面精査、土層断面の所見を得、これは両住居に伴出する土器の型式が示す順序と矛盾がない。また、住居の中央部で重複する1号溝との新旧関係は28住→1溝の順を示す平面精査の所見を得た。したがって、これらの住居と溝は15住→28住→1溝の順を示す。方 位 + 74° 面積 17.33m<sup>2</sup> (張出し部含む)

#### 28号住居竈

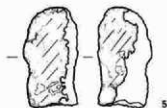
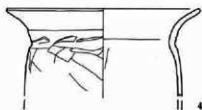
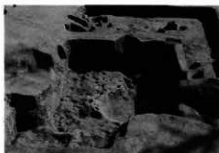
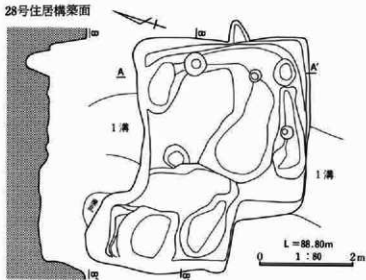


L=88.80m  
1 : 40

- 1 暗褐色土。白色軽石粒、焼土粒、φ2~4cmのロームブロック含む。
- 2 黄褐色土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。φ1cm大のロームブロック、焼土粒含む。
- 4 黄色粘質土。φ1cm大のロームブロック、焼土粒含む。
- 5 黄色粘質土。
- 6 暗褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 7 黒色土。灰、焼土粒含む。
- 8 暗黄褐色土。ロームブロック、黄色粘土ブロック、焼土粒含む。
- 9 赤褐色土。焼土。
- 10 赤褐色粘土ブロック。
- 11 暗褐色土。多量の焼土粒、ローム粒含む。
- 12 褐色土。ロームブロック、白色軽石粒含む。
- 13 黄褐色土。ロームを主体とする電機素材。
- 14 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 15 灰層。焼土粒含む。
- 16 暗褐色土。灰、焼土粒含む。
- 17 暗褐色土。多量の焼土粒含む。
- 18 黒褐色土。灰、ローム粒、焼土粒含む。
- 19 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 20 黒褐色土。多量のロームブロック含む。
- 21 暗褐色土。ローム主体。
- 22 黄褐色土。ローム主体で、黒色土含む。
- 23 黄褐色土。ローム。



28号住居構築面

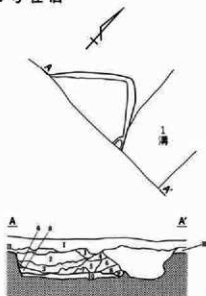


0 1:4 10cm

28号住居出土遺物

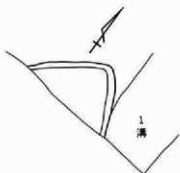


## 29号住居



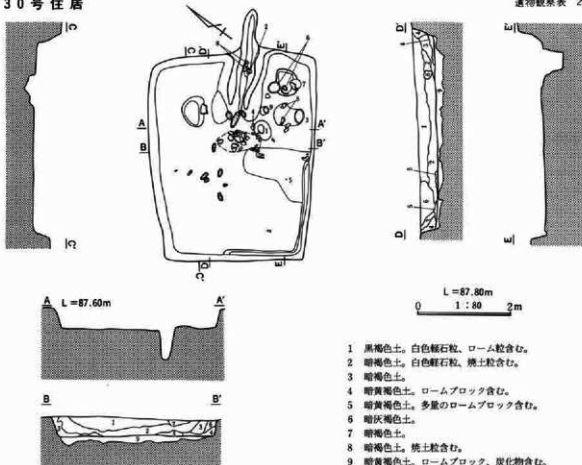
- I 暗灰褐色砂質土。
- II 暗褐色土。
- III 黄色土。
- 1 暗黄褐色土。φ2～5cmのロームブロックを多量に含む。
- 2 暗黄褐色土。φ2～5cmのロームブロック含む。
- 3 暗黄褐色土。φ2～5cmのロームブロックを多量に含む。
- 4 黒褐色土。φ1～3cmのロームブロック含む。
- 5 黒褐色土。φ1cm大のロームブロック含む。
- 6 黒色土。φ1～3cmのロームブロック、白色軽石粒含む。
- 7 黒色土。ローム粒含む。
- 8 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 9 暗黄褐色土。ローム粒含む。
- 10 暗黄褐色土。φ1～4cmのロームブロック。

**形状** 大半が調査区域外のため、住居の北東隅を検出するのみで、外形を確定することができない。床面基礎層を60cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ10cmの貼床を施して、平坦な生活面を造る。柱穴確認した床面の範囲に主柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴う柱穴の痕跡はない。竈跡確認した壁に竈の痕跡はない。遺物復原が可能な伴出土器はない。重複 他の住居との重複はない。東壁部で重複する1号溝との新旧関係は、29住→1溝の順序を示す土層断面の所見を得た。方位 +50°(推定) 面積測定不可能。



### 30号住居

遺物観察表 29



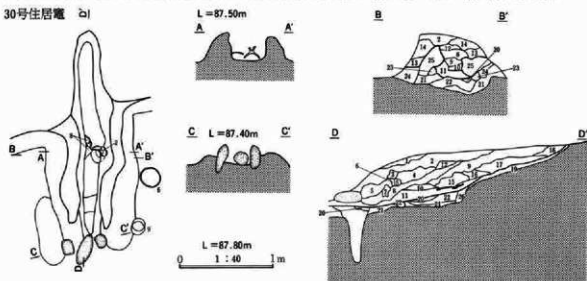
**形状** 短軸3.5m、長軸4.5mで、東西に長軸をもつ中形縦長長方形住居。近接する31号住居に形状、規模、軸線の傾きが近似し、住居の年代も近い。床面 基盤層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に平坦で整っている。この面に厚さ10cmの貼床を一様に施して生活面とする。生活面は南壁際中央に幅1m、長さ1.5m程で、壁から住居の中央部にかけて2cm程の高まりがある他は、平坦で良く整っている。**柱穴** 生活面では壁内に主柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴う柱穴の痕跡がない。しかし、構築面では住居の南北をほぼ二分する中軸線上に2個の柱穴を確認した。心々間の距離は1.9mで、直径30cm、深さ60cmの単純円形掘り方を呈す。2個の柱穴のうち東側に位置する1個は、竈の焚口部と位置的に重なる。したがって、この柱穴は少なくとも住居の最終使用面では機能していないことになり、この住居は2本主柱から無主柱へ造り替えている可能性がある。



**竈跡** 東壁の中央よりやや南側に設置する。壁内に造り付けた

長さ1.1mの袖部を検出した。燃焼部は幅30cm、奥行き1.3mで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。焚口部の両側に河原石を埋め込んで袖部の補強材とする。焚口部の床面に密着して出土する同質の石材は、焚口部両側の石の上に横架されていた可能性が高い。火床の壁から40cmの位置に土師器高環を伏せて支脚とする。煙道は火床の床面から20°の傾きで立ち上がり、壁外80cmまで伸びる。貯蔵穴 住居の南東隅に一辺45cm、深さ45cmの方形プランで設置する。壁溝 幅10cm、深さ5cmで、住居南東部の壁下に巡る。遺物 住居南東部の床面直上より土師器環・高環・甕が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、覆土内より土師器甕が出土する。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +55° 面積 14.78㎡

30号住居 ㉒



- 1 暗褐色土。白色輝石粒、焼土粒含む。
- 2 暗褐色土。白色輝石粒、焼土粒含む。
- 3 暗褐色土。黄色粘土ブロック含む。
- 4 暗褐色土。焼土粒、黄色粘土ブロック含む。
- 5 黄色粘土。焼土ブロック含む。
- 6 暗褐色土。焼土粒含む。
- 7 赤褐色土。焼土化した粘土。
- 8 黒褐色土。焼土粒含む。
- 9 黒褐色土。
- 10 黒褐色土。焼土粒含む。
- 11 黒色土。灰含む。
- 12 黒褐色土。
- 13 暗褐色土。ローム粒含む。

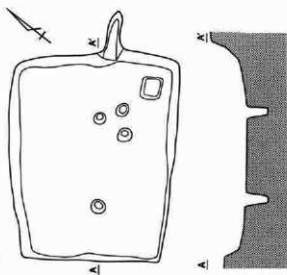
- 14 暗褐色土。焼土粒、ローム粒含む。
- 15 暗褐色土。粘質土、焼土ブロック、白色粘土ブロック含む。
- 16 暗褐色土。
- 17 暗褐色土。白色輝石粒、ロームブロック含む。
- 18 黒褐色土。白色輝石粒含む。
- 19 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 20 暗黄褐色土。焼土ブロック、ロームブロック含む。
- 21 黄褐色土。ロームブロック、黒褐色土ブロック含む。
- 22 黒褐色土。焼土粒含む。
- 23 黄褐色粘土。多量の焼土粒含む。
- 24 黄褐色粘土。焼土粒含む。
- 25 黄褐色粘質土。焼土粒、ロームブロック含む。
- 26 暗褐色土。ローム粒含む。



30号住居構築面



0 1:80 2m L=87.80m



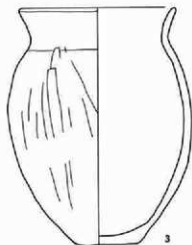
1



2



0 1:4 10cm



3



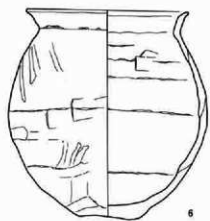
4



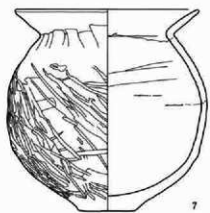
5

0 1:2 5cm

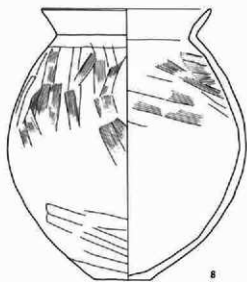
30号住居出土遺物



6



7



8

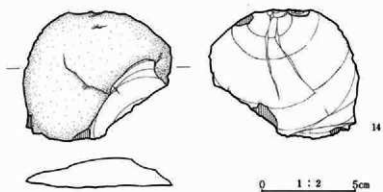
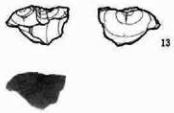
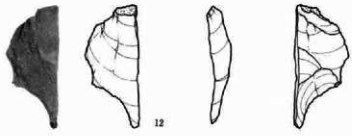
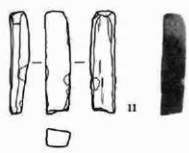
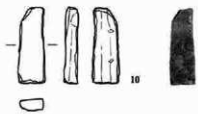


0 1 : 4 10cm

30号住居出土遺物

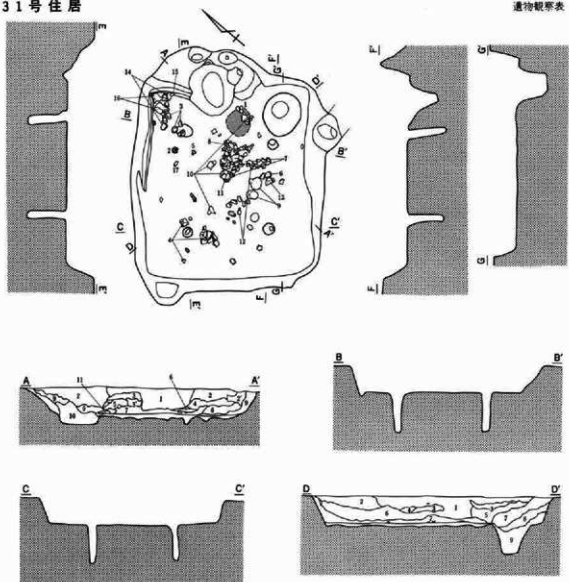


0 1 : 4 10cm



0 1 : 2 5cm

30号住居出土遺物



1 黒色土。FP粒含む。

2 黒色土。FP粒含む。

3 黒色土。

3' 黄褐色土。ローム含む。

3'' 黄褐色土。焼土粒含む。

4 黒褐色土。焼土粒含む。

5 褐色土。ローム、焼土粒含む。

6 黒色土。ローム、FP粒含む。

7 黄褐色土。ローム含む。

8 黒褐色土。FP粒含む。

9 黄褐色土。多量のローム粒含む。

10 明褐色土。焼土粒、ローム粒含む。

11 赤褐色土。多量の焼土粒含む。

L=87.60m

1:80

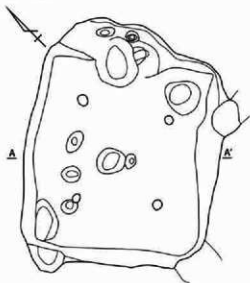
0 2m



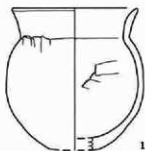
形状 短軸4.2m、長軸4.5mで、東西に長軸をもつ中形縦長方形住居。近接する30号住居に形状、規模、軸線の傾きが近似し、住居の年代も近い。床面基盤層を60cm掘り込んで構築面とする。構築面は全体に比較的平坦で、深く掘り込まれたピットはない。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱穴 住居のほぼ対角線上に4個を配置する。心々を結ぶ四角形は短軸1.8m、長軸2.0mで、東西に長軸をもつ長方形を示し、住居の外

形と相似形を示す。直径25cm、深さ80cmの単純円形掘り方を呈す。竈跡 東壁に設置するが、残存状態が悪く、壁際中央部の床面に焼土を検出するのみで、主体部、煙道ともに不明である。焼土の位置からみて燃焼部壁内型の可能性が高い。貯蔵穴 住居の南東隅に直径80cm、深さ60cmの円形プランで設置する。壁溝 幅10cm、深さ5cmで、住居北東隅の壁下に巡る。遺物 住居北東部の床面に密着して土師器坏・鉢、住居中央西側の床面に密着して土師器甕、竈の火床に密着して土師器甕、住居中央部の床面直上より土師器坏・鉢・甕・壺・甕・高坏が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 +57° 面積 17.68㎡

31号住居構築面



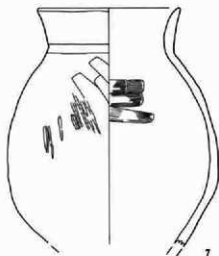
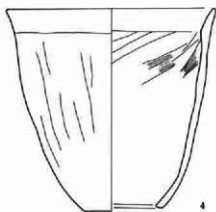
L = 87.70m  
0 1 : 80 2m



31号住居出土遺物

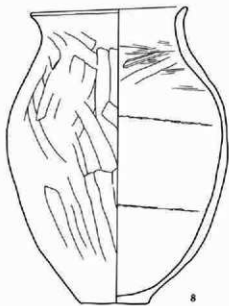
0 1 : 4 10cm



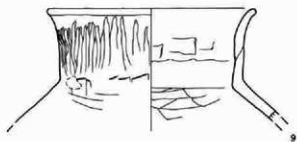


31号住居出土遺物

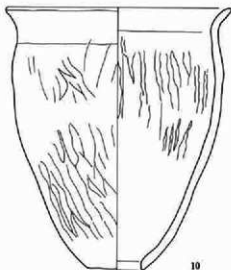
0 1:4 10cm



8



9



10

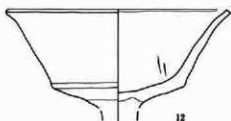


31号住居出土遺物

0 1:4 10cm



11



12



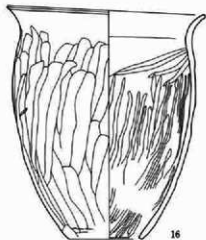
13



14



15

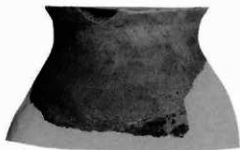
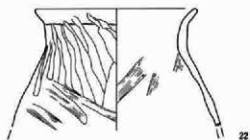
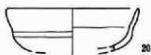
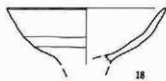
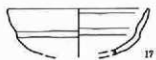


16



31号住居出土遺物

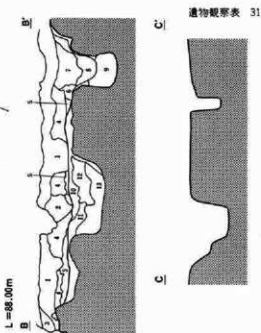
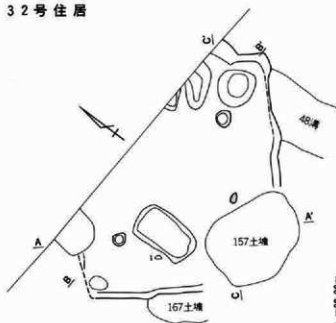
0 1 : 4 10cm



31号住居出土遺物

0 1 : 4 10cm

### 32号住居



遺物観察表 31

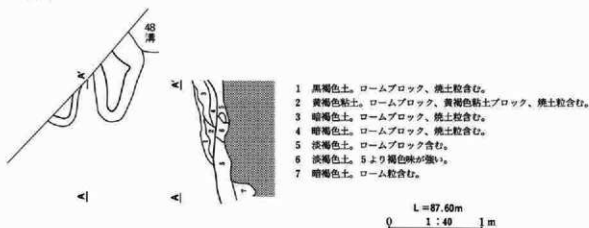


- 1 暗灰褐色土。
- 2 暗褐色土。ロームブロック、白色軽石粒含む。
- 3 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 4 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 5 暗黄褐色土。ロームブロック含む。
- 6 暗褐色土。ロームブロック、焼土粒含む。
- 7 暗褐色土。
- 8 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 9 暗褐色土。
- 10 黄褐色土。ローム主体。
- 11 淡褐色土。ロームブロック含む。
- 12 淡褐色土。多量のロームブロック含む。
- 13 淡褐色土。多量のロームブロック含む、褐色味が強い。

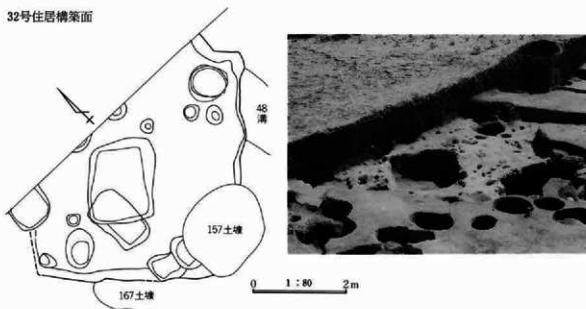
**形状** 短軸4.4m、長軸4.9mで、東西に長軸をもつ中形縦長長方形住居と推定する。住居の北東部は調査区域外のため、住居の南西部は重複する土壌に切られてそれぞれ確認できない。近接する31号住居に形状、規模、軸線の傾きが近似する。床面 基盤層を50cm掘り込んで構築面とする。構築面は住居の中央部に短軸1.4m、長軸1.7m、深さ70cmの方形のピットが、住居の外形と同じ軸線で彫り込まれる他は平坦である。この面に厚さ15cmの貼床を施して生活面とする。生活面は比較的平坦で整っている。柱 穴 住居の対角線上に2個を確認した。南西に位置する柱穴は重複する土壌に切れ、北東のそれは調査区域外のためそれぞれ

れ確認できない。直径30cm、深さ40~60cmの単純円形掘り方を呈す。電 跡 東壁の中央よりやや南側に設置するが、北半部が調査区域外で主体部の全形は確認できない。壁内に造り付けた長さ80cm程の袖部を検出した。燃焼部は幅30cmで、東壁との位置的な関係から燃焼部壁内型の可能性が高い。煙道は調査区域外のため確認できない。貯蔵穴 住居の南東隅に直径80cm、深さ90cmの不整形円形プランで設置する。遺 物 住居西側の床面上14cmの位置と覆土内より土師器焼の破片が出土する。重 複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方 位 +47° 面 積 21.06m<sup>2</sup> (推定)

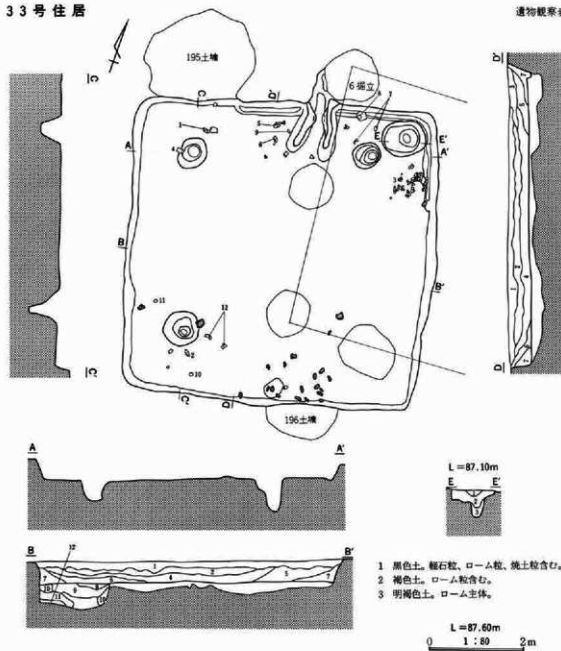
### 32号住居電



### 32号住居構築面



32号住居出土遺物

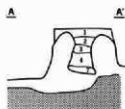
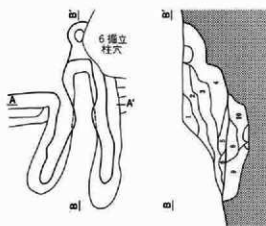


- 1 黒褐色土。ローム粒、軽石粒含む。
- 2 暗褐色土。
- 3 黒褐色土。
- 4 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒含む。
- 6 黒褐色土。軽石粒、ローム粒含む。
- 7 褐色土。ローム粒含む。
- 8 黄褐色土。ロームブロック主体。
- 9 黒褐色土。黒色土とロームブロックの混土層。
- 10 暗褐色土。ローム粒含む。
- 11 明褐色土。多量のローム粒含む。
- 12 明褐色土。多量のローム粒含む、11より黄色味が強い。



**形状** 短軸6.5m、長軸6.7mの整った超大形正方形住居。27号住居に形状、規模が近似する。床面基礎盤層を70cm掘り込んで構築面とする。構築面は西壁際の中央部に直径1.6m、深さ25cmの円形ピットが掘り込まれる他は、比較的平坦である。この面に厚さ20cmの貼床を施して生活面とする。生活面は全体に平坦で良く整っている。**柱穴** 住居のほぼ対角線上に3個を確認した。南西に位置する柱穴は6号掘立柱建物と重複して確認できない。心々を結ぶと北辺、西辺ともに3.8mで、住居の外形と相似形の整った配置を示す。直径60cm、深さ50~70cmの円形掘り方を呈す。**竈跡** 北壁の中央よりやや東側に設置する。壁内に造り付けた長さ1.0mの袖部を検出した。燃焼部は幅40cm、奥行き1.0mで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は火床の底面からほぼ水平に40cm伸びた後、弧を描いて壁外40cmまで立ち上がる。**貯蔵穴** 住居の北東隅に短軸70cm、長軸90cm、深さ20cmの不整形の掘り込みの内部に、直径40cm、深さ30cmの円形の掘り込みをもつ。**壁溝** 幅15cm、深さ10cmで、住居北東部の壁下に巡る。**遺物** 住居南西部と北西部の床面に密着して土師器環、東壁際北側の床面に密着して土師器壺、北壁際と住居南西部の床面直上より土師器環・壺・須恵器環が出土し、これらが住居の年代を示す。**重複** 住居の東半部で6号掘立柱建物と重複する。新旧関係を判定する実証的資料を欠き、6号掘立柱建物に伴出土器がないため、土器型式による判定もできない。**方位** -16° **面積** 43.55㎡

### 33号住居竈



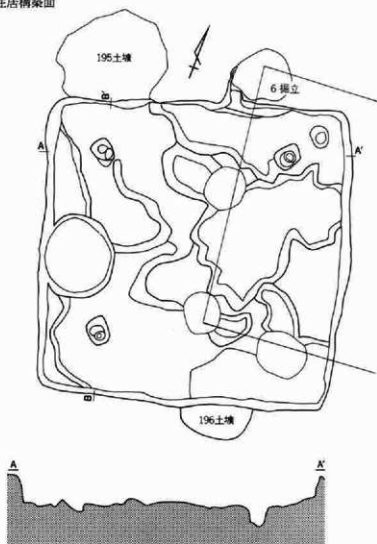
- 1 明褐色土。ローム含む。
- 2 暗褐色土。軽石粒含む。
- 3 暗褐色土。焼土粒、粘土含む。
- 4 赤褐色土。多量の焼土粒、粘土ブロック含む。
- 5 茶褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 6 茶褐色土。粘土質。
- 7 褐色土。焼土粒含む。
- 8 赤褐色土。
- 9 明褐色土。ローム主体。
- 10 黒色土。黒色土とロームブロックの混土層。



L = 87.60m  
0 1 : 40 1m



33号住居構築面



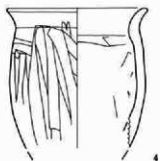
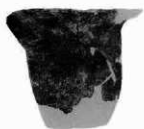
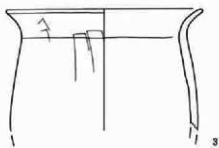
L = 87.60m  
0 1 : 80 2m



0 1 : 4 10cm

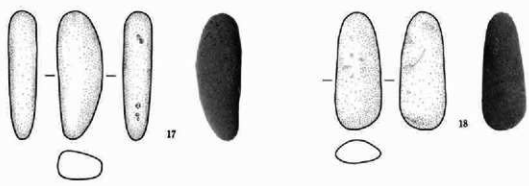
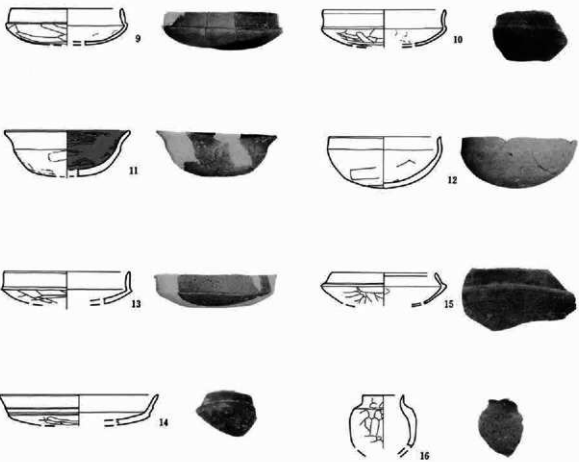


33号住居出土遺物

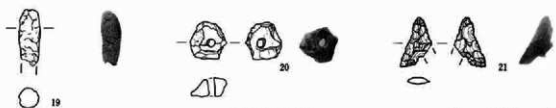


33号住居出土遺物

0 1 : 4 10cm

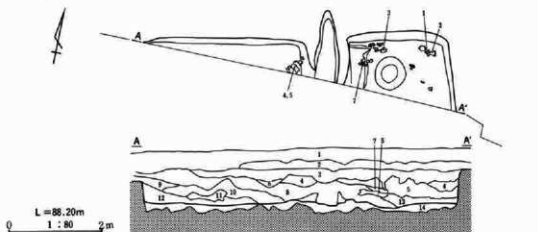


0 1 : 4 10cm



33号住居出土遺物

0 1 : 2 5cm

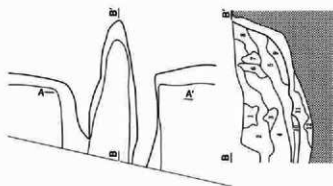


- |                    |                            |
|--------------------|----------------------------|
| 1 赤褐色土。            | 8 暗褐色土。ローム粒、軽石粒、炭化物、焼土粒含む。 |
| 2 灰黒色土。As-B主体。     | 9 赤褐色土。ローム粒、軽石粒含む。         |
| 3 黒褐色土。ローム粒、軽石粒含む。 | 10 灰褐色土。ロームブロック、焼土粒、炭化物含む。 |
| 4 暗褐色土。多量のローム粒含む。  | 11 黒色土。ローム粒、軽石粒含む。         |
| 5 黄褐色土。ロームブロック含む。  | 12 黒褐色土。炭化物、ローム粒含む。        |
| 6 黒色土。             | 13 明褐色土。多量のローム粒含む。         |
| 7 暗褐色土。粘土含む。       | 14 明褐色土。黒色土とロームブロックの混土层。   |

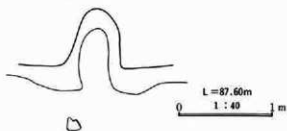
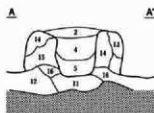


**形状** 住居の大半が調査区域外で、外形を確定することができない。床面 基盤層を20cm掘り込んで構築面とする。この面に厚さ20cmの貼床を施して、平坦な生活面を造る。柱穴 確認した床面の範囲に支柱穴はない。竈跡 北壁の東側に設置し、壁内に造り付けた袖部を検出した。焚口部が調査区域外のため主体部の全形は確認できないが、燃焼部壁内型を呈す。煙道は火床の底面から緩やかに30cm伸びた後、60°の傾きで立ち上がる。貯蔵穴 住居の北東部に直径60cm、深さ55cmの円形プランで設置する。遺物 住居北東隅の床面に密着して土師器高坏、竈西側の床面に密着して土師器壺、竈内より土師器坏が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 他の住居と重複することなく、単独で占地する。方位 -9° 面積 測定不可能。

34号住居電

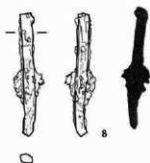
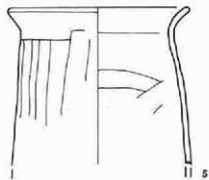
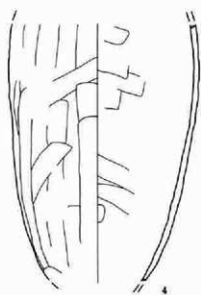


- 1 暗褐色土。軽石粒、ローム粒含む。
- 2 黒褐色土。多量の軽石粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。ローム粒含む。
- 4 暗褐色土。焼土粒含む、粘質。
- 5 暗褐色土。焼土粒含む、粘質。
- 6 灰褐色土。多量の焼土粒含む。
- 7 暗褐色土。焼土粒、軽石粒含む。
- 8 灰褐色土。多量の焼土粒含む。
- 9 黒褐色土。灰、焼土粒含む。
- 10 赤褐色土。多量の焼土粒含む。
- 11 灰褐色土。炭化物、焼土粒、ロームブロック含む。
- 12 淡褐色土。ローム粒含む。
- 13 淡褐色土。ローム粒、軽石粒含む。
- 14 淡褐色土。13より黄色味が強い。
- 15 褐色土。焼土粒含む。
- 16 淡褐色粘質土。



34号住居構築面

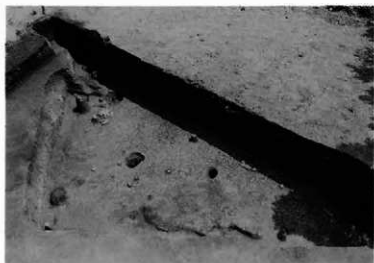
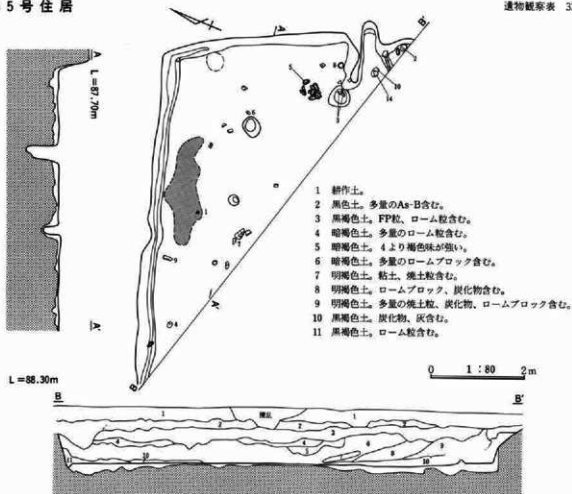




0 1 : 4 10cm

34号住層出土遺物

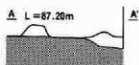
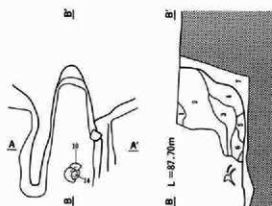
0 1 : 2 5cm



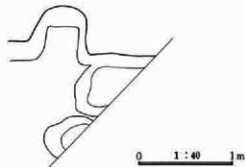
**形状** 住居の南半部が調査区域外のため、外形を確定することはできない。床面 基盤層を1.0m掘り込んで構築面とする。構築面は壁に沿った部分が住居の中央部より10cm程深く掘り込まれている他は、比較的平坦である。この面に厚さ10cmの貼床を施して生活面とする。生活面は平坦で良く整っている。柱穴 住居の北西部に直径30cm、深さ70cmのピットを検出した。他の3個は調査区域外のため不明だが、住居外形と

の位置的な関係からみて、このピットは主柱穴と考えられる。竈跡 東壁に設置する。壁内に造り付けた長さ80cmの袖部を検出した。向かって右側の袖端部は調査区域外であるが、燃焼部は幅50cm、奥行き80cmで、全てを壁内に造り付ける燃焼部壁内型を呈す。煙道は火床の底面から水平に30cm壁外に伸び、70°の傾きで立ち上がる。壁溝 幅10cm、深さ5cmで、確認した北壁下に巡る。遺物 北壁際中央の床面に密着して土師器高坏、住居中央北側の床面に密着して土師器甕、竈南側の床面に密着して土師器甕、住居北西部の床面直上より土師器坏、北壁際西側の床面直上より土師器高坏、竈北側の床面直上より須恵器高坏が出土し、これらが住居の年代を示す。重複 確認した範囲内では他の住居と重複することなく単独で占地するが、位置的な関係から近接する34号住居との同時存在はあり得ない。方位 +70° 面積 測定不可能。

### 35号住居竈

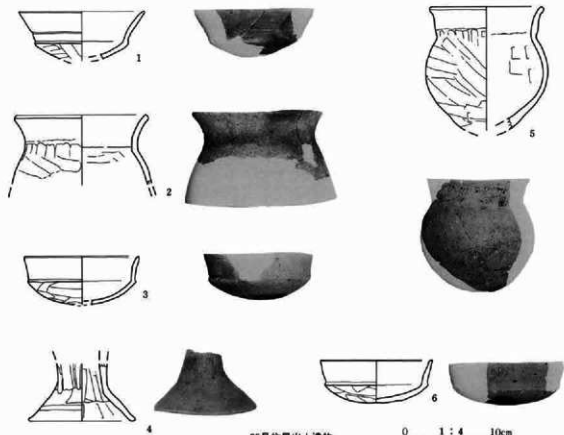
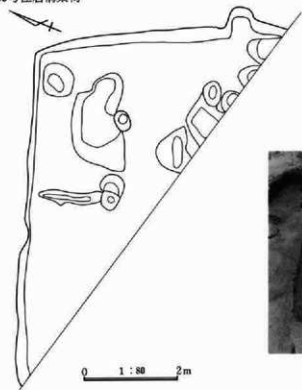


- 1 黒褐色土。軽石粒含む。
- 2 淡褐色土。ローム粒含む。
- 3 赤褐色土。焼土。
- 4 褐色土。焼土粒、炭化物含む。
- 5 赤褐色土。焼土粒、炭化物、灰含む。
- 6 黒褐色土。焼土ブロック含む。
- 7 茶褐色土。ロームブロックと灰白色粘土の混土層。

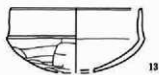
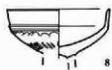
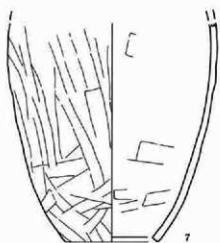




35号住居構築物



35号住居出土遺物

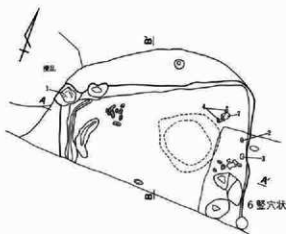


35号住居出土遺物

0 1 : 4 10cm

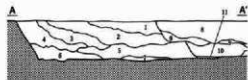
### 37号住居

遺物観察表 34

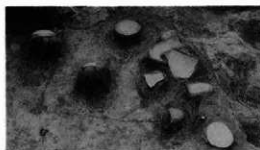


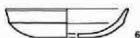
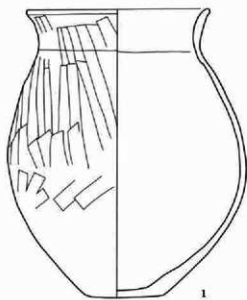
- 1 黒褐色土。多量の白色軽石粒含む。
- 2 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 3 暗褐色土。ローム粒含む。
- 4 黒褐色土。ローム粒含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒含む。
- 6 暗褐色土。ローム粒含む。
- 7 黒褐色土。ローム塊含む。
- 8 黒褐色砂質土。白色軽石粒含む。
- 9 黒褐色砂質土。ローム粒含む。
- 10 黒褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 11 褐色土。ローム塊含む。

L=88.60m  
0 1:80 2m

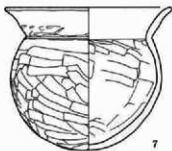


**形状** 住居の南半部が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は4.0mである。床面 基盤層を90cm掘り込んで生活面とする。住居の北東部は直径1.2m、深さ10cmの円形に掘り込まれ、この部分は基盤と黒色土の混土で埋めて、全体に平坦な生活面とする。柱 穴 壁内に主柱穴はなく、壁外にもこの住居に伴う柱穴の痕跡がない。竈 跡 東壁に設置するが、重複する6号竪穴状遺構に切られて、床面に焼土を検出するにすぎない。遺物 東壁際北側の床面直上より土師器環が出土し、これらが住居の年代を示す。その他、覆土内より土師器環・甕が出土する他、住居の北西隅が床面上30cmの位置から幅50cm、奥行き50cmのテラス状に掘り込まれ、ここに土師器甕が口縁部を外側にして横位で出土する。重複 住居の東側で6号竪穴状遺構と重複する。6号竪穴状遺構が37号住居を切って構築する土層断面の所見を得た。方位 +71° 面積 測定不可能。





0 1:4 10cm

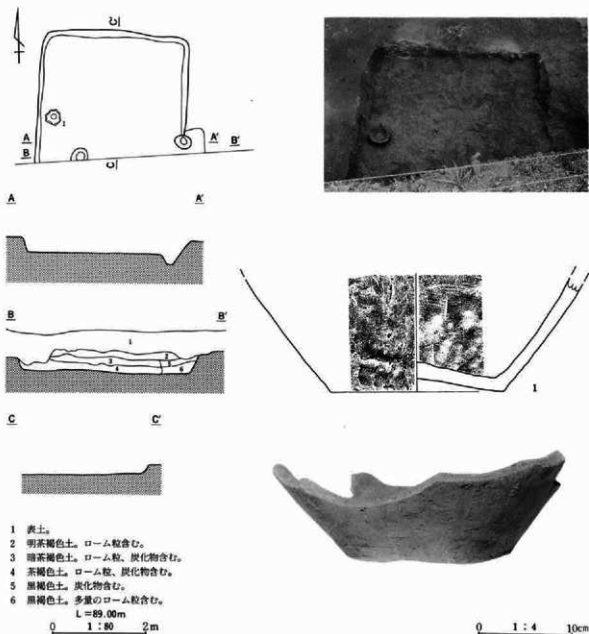


37号住居出土遺物

### III 竪穴状遺構

#### 1号竪穴状遺構

遺物観察表 35



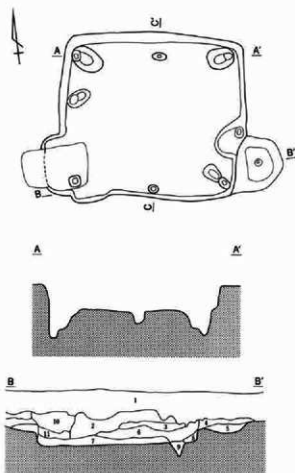
- 1 表土。
- 2 明茶褐色土。ローム粒含む。
- 3 暗茶褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 4 茶褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 5 黒褐色土。炭化物含む。
- 6 黒褐色土。多量のローム粒含む。

L=89.00m  
1:80 2m

0 1:4 10cm

**形状** 遺構の南半が調査区域外のため、外形を確定できない。確認した東西軸は3.1mである。床面基盤層を50cm掘り込んで、そのまま床面とする。床面は全体に平坦で整っている。柱穴 西壁際中央部に直径25cm、深さ20cmの柱穴様ピットを検出した。炉・竈 確認した床面及び壁に、炉及び竈の痕跡はない。  
**遺物** 西壁際中央部の床面に密着して中世の陶器座の底部が出土し、これが遺構の年代を示すものと判断した。この遺跡で年代を判定できる竪穴状遺構は、これのみである。重複 他の住居、竪穴状遺構と重複することなく、単独で占地する。方位 +3° 面積 測定不可能。

## 2号竖穴状遺構

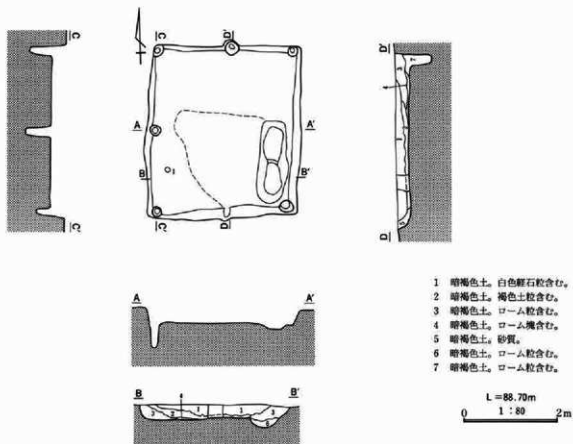


- 1 表土。
- 2 黒褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 3 暗茶褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 4 黄褐色土。ローム粒含む。
- 5 明黄褐色土。ローム粒含む。
- 6 茶褐色土。φ2~3cmのロームブロック、炭化物含む。
- 7 茶褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 8 黄褐色土。ロームの崩壊土。
- 9 暗茶褐色土。ローム粒含む。
- 10 茶褐色土。ローム粒、炭化物含む。
- 11 明茶褐色土。多量のローム粒、炭化物含む。

L = 89.00m  
0 1 : 80 2m

**形状** 短軸3.5m、長軸4.0mで、東西に長軸をもつ整った長方形を示す。床面 基盤層を70cm掘り込んで、そのまま床面とする。床面は全体に平坦で良く整っている。柱 穴 遺構の四隅と北壁、南壁際の中央部に合計6個の柱穴様ピットを検出した。深さは30~70cmである。炉・竈 炉及び竈の痕跡を示す焼土は一切ない。遺 物 年代を推定し得る伴出遺物はない。重複 他の住居、竖穴状遺構と重複することなく、単独で占地する。方位 +95° 面積 13.46㎡

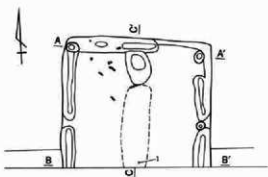




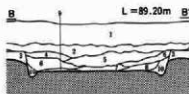
形状 短軸3.3m、長軸3.7mで、南北に長軸をもつ整った長方形を示す。床面 基盤層を30cm掘り込んで、そのまま床面とする。床面は東壁に沿って幅60cm、長さ1.7m、深さ20cm程の掘り込みがある他は平坦で、遺構の南半は踏み固められて堅固である。柱 穴 遺構の四隅と北壁、西壁に合計6個の柱穴様ピットを検出した。いずれも直径20cm、深さ30~50cmの単純円形掘り方を呈す。炉・竈 床面及び壁に炉及び竈の痕跡を示す焼土は一切ない。遺物 床面と密着した遺物はない。覆土内より土師器坏の破片が出土するが、この遺物が遺構の年代を示すと判断できない。重複 他の住居、竪穴状遺構と重複することなく、単独で占地する。方位 +4° 面積 11.81㎡



0 1 : 4 10cm



- 1 耕作土。
- 2 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 3 黒褐色土。多量の白色軽石粒含む。
- 4 暗褐色土。褐色土粒含む。
- 5 黒褐色土。黒褐色土粒含む。
- 6 黒褐色土。多量の黒褐色土粒含む。
- 7 黒褐色土。ローム塊含む。
- 8 暗褐色土。褐色土粒含む。
- 9 暗褐色土。ローム粒含む。
- 10 暗褐色土。ローム粒含む。



L=88.70m  
0 1:80 2m



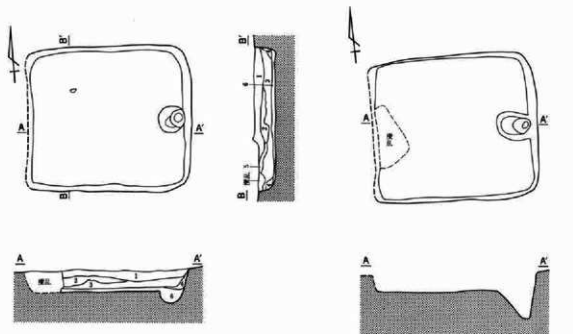
**形状** 遺構の南半が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.1mである。床面 基盤層を50cm掘り込んで、そのまま床面とする。床面は北壁際の中央部に短軸50cm、長軸70cm、深さ20cmの方形ピットがある他は平坦で、遺構の中央部が幅60cmにわたって南北に踏み固められている。  
**柱穴** 遺構の北西隅、北東隅と東壁の中央部に合計3個の柱穴様ピットを検出した。炉・竈 確認した床面及び壁の範囲に、炉及び竈の痕跡を示す焼土は一切ない。壁溝 幅20cm、深さ5cmで、遺構の北東隅を除く壁下を巡る。  
**遺物** 遺構南端の床面に密着して黒曜石製の石鏃が出土するが、これが遺構の年代を示すと判断できない。重複 他の住居、竪穴状遺構と重複することなく、単独で占地する。方位 +3° 面積 測定不可能。



0 1:2 5cm



## 5号 竪穴状遺構



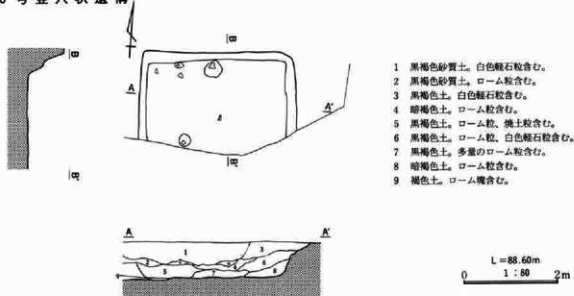
- 1 暗褐色土。白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 2 黒褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 3 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 4 暗黄褐色土。ロームの崩壊土。
- 5 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 6 暗黄褐色土。ローム主体で黒色土含む。

L = 88.60m  
0 1 : 80 2m

**形状** 短軸3.1m、長軸3.5mで、東西に長軸をもつ整った長方形を示す。床面 基盤層を50cm掘り込んで、そのまま床面とする。床面は東壁際の中央部に直径50cm、深さ60cmの円形ピットが掘り込まれる他は、平坦で良く整っている。柱 穴 壁内に柱穴と認定できるピットはなく、壁外にもこの遺構に伴う柱穴の痕跡がない。炉・竈 炉及び竈の痕跡を示す焼土は一切ない。遺物 この遺構の年代を示す伴出遺物はない。重複 他の住居、竪穴状遺構と重複することなく、単独で占地する。方位 +87° 面積 10.56㎡



## 6号竪穴状遺構



- 1 黒褐色砂質土。白色軽石粒含む。
- 2 黒褐色砂質土。ローム粒含む。
- 3 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 4 暗褐色土。ローム粒含む。
- 5 黒褐色土。ローム粒、焼土粒含む。
- 6 黒褐色土。ローム粒、白色軽石粒含む。
- 7 黒褐色土。多量のローム粒含む。
- 8 暗褐色土。ローム粒含む。
- 9 褐色土。ローム粒含む。

**形状** 遺構の南半が調査区域外のため、外形を確定することができない。確認した東西軸は3.7mである。

**床面** ローム層を70cm掘り込んで、そのまま床面とする。床面は北壁際の中央部に直径30cm、深さ30cmの不整円形ピットがある他は、平坦で良く整っている。

**柱穴** 壁内に柱穴はなく、壁外にもこの遺構に伴う柱穴の痕跡はない。**炉・竈** 確認した床面及び壁の範囲に、炉及び竈の痕跡を示す焼土は一切ない。**遺物** 遺構の年代を示す伴出遺物はない。**重複** 西壁部で37号住居と重複する。6号竪穴状遺構が37号住居を切って構築する土層断面の所見を得た。**方位** -13°  
**面積** 測定不可能。



## IV 柵列・掘立柱建物

**1号柵列** 12区の南寄りに位置し、5号掘立柱建物と重複するが新旧関係は明らかではない。主軸方向は、N-99°-Eである。規模は全長9.40mを測り、柱穴は直径52～80cm、深度は確認面が西に傾斜しているため40～20cmと深度に差が見られる。各柱穴には、底部に1～3cm穴の円礫が敷き詰められている。本柵列は、調査区域内では柱穴が直線に6本検出されただけであったため柵列としたが、全長が短く、柱穴内部に小礫が栗石状に敷き詰められており、調査区域の外側に展開する可能性も考えられることから、梁行5間の掘立柱建物の可能性も考えられる。

**1号掘立柱建物** 7区の北東寄りに位置し、45号溝と重複するが新旧関係は明らかではない。主軸方向はN-30°-Wである。形状は、やや歪んだ長方形を呈す。規模は、長軸4.50m、短軸3.20mを測る2間×2間の建物である。柱穴の規模は直径40～56cm、深度40～56cmで、柱痕は確認されなかった。

**2号掘立柱建物** 7区の北寄りで1号掘立柱建物の西側に位置し、197号土壇と重複するが新旧関係は本跡のほうが前出である。主軸方向は、N-70°-Eである。形状は、西辺がやや短いがほぼ長方形を呈す。規模は長軸4.40m、短軸3.80mを測る2間×2間の総柱の建物である。柱穴は、直径40～64cm、深度40～80cmで柱痕は確認されなかった。

**3号掘立柱建物** 9区の北東寄り2号掘立柱建物の西側に位置する。他の遺構との重複関係はない。主軸方向は、N-10°-Wである。形状は、東辺がやや短いがほぼ長方形を呈する。規模は長軸3.20m、短軸2.90mを測る2間×2間の建物である。柱穴の規模は直径40～64cm、深度30～65cmで、柱痕は確認されなかった。

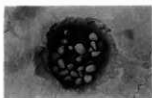
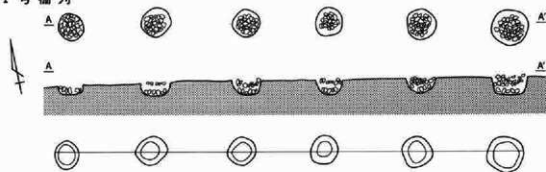
**4号掘立柱建物** 10区の東寄りに位置する。150・152・161～163・165・166号土壇と重複するが、新旧関係は明らかでない。主軸方向は方位N-92°-Eである。形状は、南辺が0.7m長い台形状を呈す。規模は長軸5.40m、短軸3.90mを測る3間×2間の建物である。柱穴の規模は直径50～90cm、深度40～90cmで、柱痕は確認されなかった。

**5号掘立柱建物** 12区に位置し、1号柵列・172・176・179号土壇と重複するが、新旧関係は本跡のほうが土壇より前出である。柵列との新旧関係は明らかでない。主軸方向はN-99°-Eである。形状は長方形を呈す。規模は長軸5.60m、短軸3.70mを測る2間×2間の建物である。柱穴は直径30～40cm、深度40～50cmで、柱痕は確認されなかった。

**6号掘立柱建物** 11区の北寄りに位置し、33号住居と重複するが新旧関係は本跡のほうが後出である。主軸方向は、N-82°-Eである。形状は長方形を呈す。規模は長軸9.30m、短軸5.40mを測る5間×2間の大型の建物である。柱穴の規模は、P3～P6が調査区外に延びるため不明であるが、直径70～110cmで深度は110～150cmである。P13・14が多少小型ではあるが、他は直径100cmを越す大型のものである。柱痕は平面では確認されなかったが、断面において径25～30cmのものが確認された。なお、本跡は主軸方向などから二重の区画溝に伴う奈良・平安時代のものであると判断した(169頁参照)。

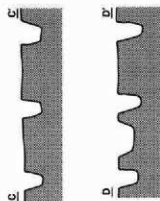
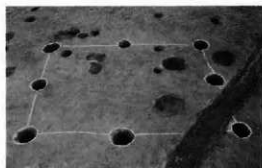
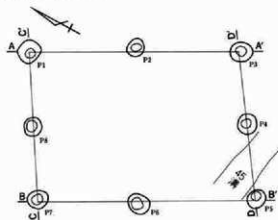
**7号掘立柱建物** 7区の南寄りに位置し、単独で存在する。主軸方向は、N-8°-Wである。形状は長方形を呈す。規模は長軸2.40m、短軸2.00mを測る2間×1間の小型の建物である。柱穴は西側が一般的な柱穴列であるが、東側は溝状に掘られた内部に柱穴が存在する。柱穴の規模は西側のものが直径50～70cm、深度40～60cm、東側は幅50cm、深度35cmの溝に、柱穴部分がさらに10～20cmほど掘り込まれている。柱痕は確認されなかった。

1号柵列



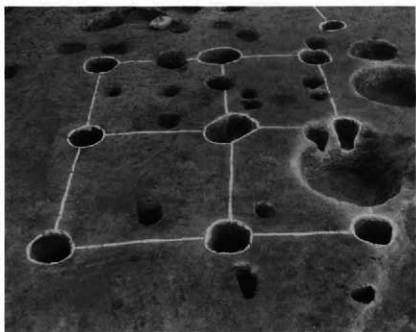
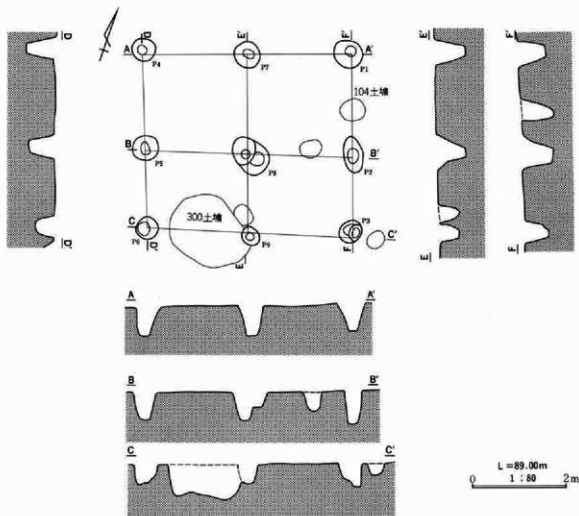
L = 85.70m  
1 : 80  
0 2m

1号掘立柱建物

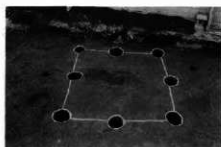
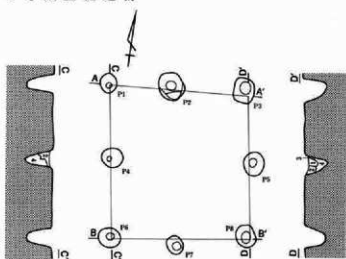


L = 85.00m  
1 : 80  
0 2m

2号掘立柱建物



### 3号掘立柱建物

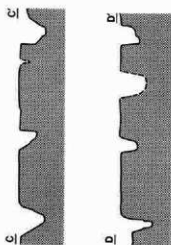
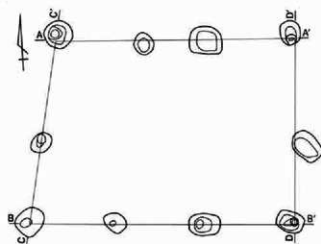


- 1 暗褐色土。やや粘性有り。
- 2 暗褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 4 褐色土。φ5mm次のロームブロック含む。



L=89.00m  
0 1:80 2m

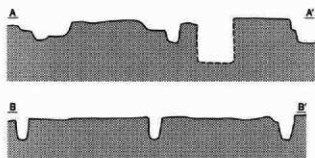
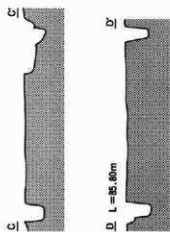
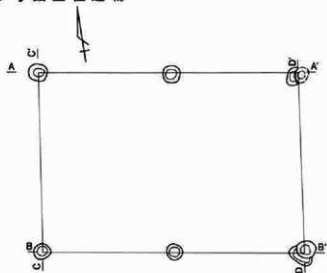
### 4号掘立柱建物



L=87.70m  
0 1:80 2m



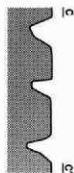
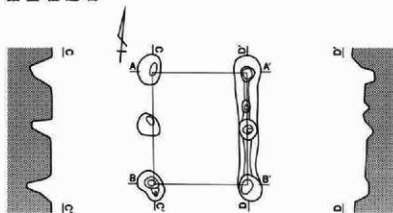
5号掘立柱建物



L = 85.60m  
1 : 80  
0 2m

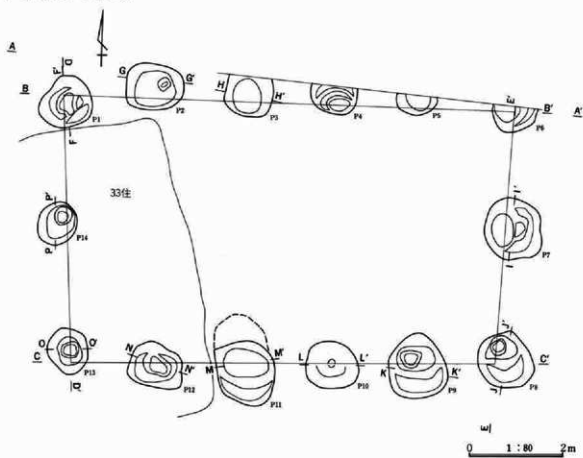


7号掘立柱建物

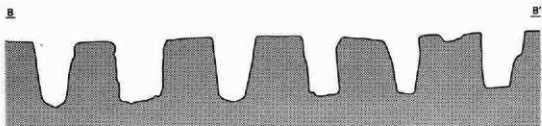


L = 88.90m  
1 : 80  
0 2m

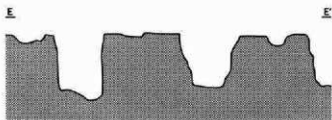
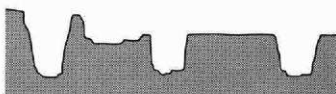
6号掘立柱建物





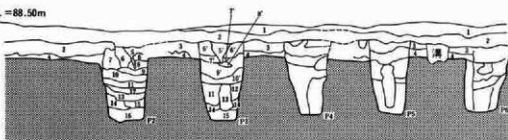


D L = 87.60m



- 1 灰褐色土、ロームブロック含む。
- 2 灰褐色土、As-Bを主体とする。
- 3 黒褐色土、ローム粒、軽石粒含む。
- 4 ローム漸移層。
- 5 黒褐色土。
- 6 明褐色土、ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土、ローム粒含む。
- 8 明褐色土、ロームブロック含む。
- 9 暗褐色土。
- 10 黒褐色土、黒色土とロームブロックの混土。
- 11 黄褐色土、ロームブロック主体。
- 12 黒色土、ロームブロック含む。
- 13 暗褐色土、ローム含む。
- 14 黄褐色土、ローム主体。
- 15 暗褐色土、ロームブロック含む。
- 16 黄褐色土、ローム主体。

A L = 88.50m

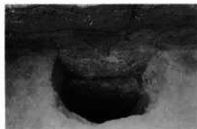


- 5' 黒褐色土、軽石粒、ローム粒含む。
- 6' 暗褐色土、多量のローム粒含む。
- 7' 淡褐色土、ロームブロック含む。

- 8' 黄褐色土、ロームブロック含む。
- 9' 淡褐色土、多量のロームブロック含む。
- 10' 黒色土。

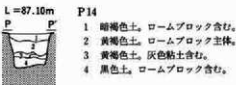
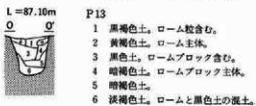
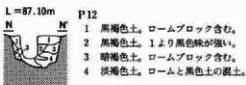
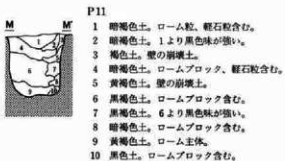
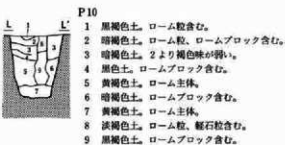
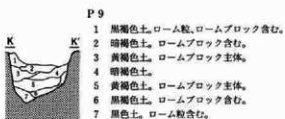
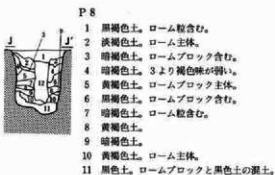
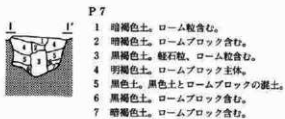
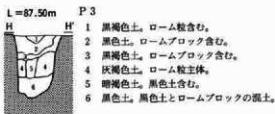
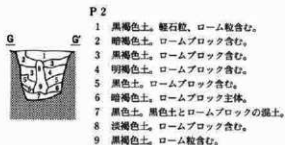
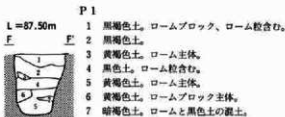


柱穴No 9



柱穴No 3

L = 87.80m  
0 1 : 80 2m



L=87.70m  
0 1:80 2m



## V 溝・土壌・井戸・風倒木

### 溝

方形区画溝(1号・2号・37号・39号溝)

**構成** この遺構は2条の溝からなり、2条の溝が相互に関連してひとつの遺構を構成する複合遺構である。内帯を区画する溝を2号溝・37号溝、外帯を区画する溝を1号溝・39号溝と呼称している。

**2号溝** 内帯の2号溝は、DC-02グリッドからDC-23グリッドまで南北方向に伸び、DC-23グリッドで82°の角度で西側に折れて、東西方向にCO-01グリッドまで伸びる。確認面での上幅は、1.25～1.50m、底部幅0.70～1.15mで、深度は確認面から0.32～0.70mを測る。断面の形態は逆台形を呈す。底面は若干の凹凸が見られるが、ほぼ平坦である。重複関係は、いずれも古墳時代に属す16号・26号住居と重複するが、2号溝の方が後出である。

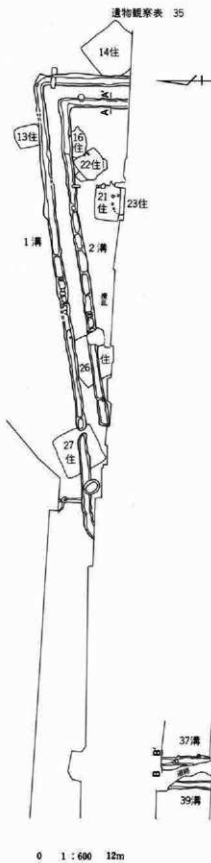
**37号溝** CB-02グリッドからCB-04グリッドまでの南北方向に全長7.40m検出され、上幅1.20m、底部幅0.90m、深度は確認面より0.40mを測る。断面の形態は2号溝と同様に逆台形を呈す。底面は若干の凹凸はあるもののほぼ平坦である。

**1号溝** 外帯の1号溝は、2号溝の外側2.00～2.50mに平行して位置し、2号溝と同様にDD-23グリッドで82°の角度で西側に折れる。全長は南北方向が15m、東西方向が73mであるが、東西方向の東から56mの地点で土橋に掘り残された部分が見られる。確認面での上幅は、1.10～1.90m、底部幅0.60～0.90mで、深度は確認面から0.22～0.65mを測る。断面の形態は、逆台形を呈す。底面は若干の凹凸が見られるがほぼ平坦である。重複関係は、いずれも古墳時代に属す13号・14号・26号・27号住居・46号溝と重複するが、1号溝の方が後出である。

**39号溝** 39号溝も37号溝の外側2.50mに平行して位置し、上幅1.05m、底部幅0.80m、深度は確認面より0.35mを測る。断面の形態は2号溝と同様に逆台形を呈す。底面はほぼ平坦である。

**埋没状況** これらの溝の埋没状況は、ある程度底部が埋没した後、短期間に埋没しており、13号・26号・27号住居の付近では内側からの土砂で埋没している。

**出土遺物** 古墳時代～平安時代初頭の土師器・甕・高坏・須恵器・埴輪が出土している。このうち、古墳時代の土器は重複する堅穴住居のものと想定され、この遺構に伴うものは奈良時代後半から平安時代初頭のものである。





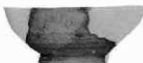
3



4



5

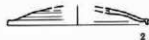


0 1 : 4 10cm

2号出土遺物



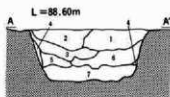
1



2

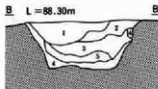


1号出土遺物



2号溝

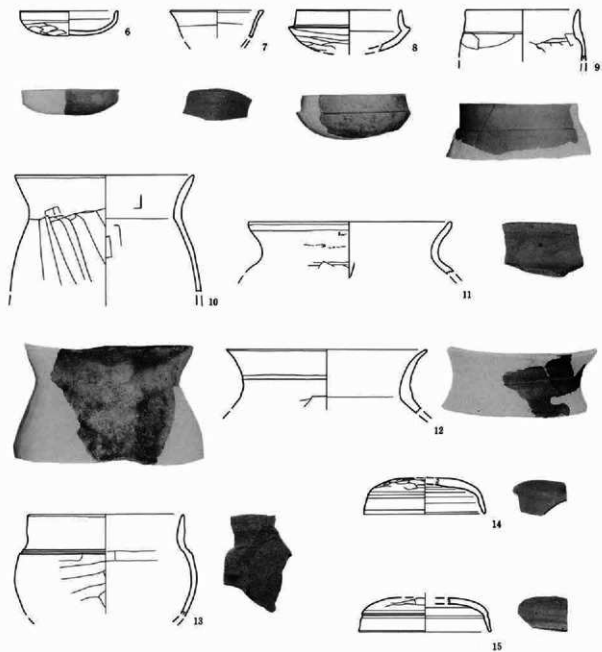
- 1 暗黄褐色土。白色輝石粒、ローム含む。
- 2 暗褐色土。白色輝石粒、ローム粒、焼土粒含む。
- 3 暗褐色土。ローム粒含む。
- 4 暗黄色土。ロームを主体とする壁体の崩落土。
- 5 黒褐色土。ローム粒含む。
- 6 暗褐色土。ローム粒、ロームブロック含む。
- 7 黄褐色土。ロームブロック主体。



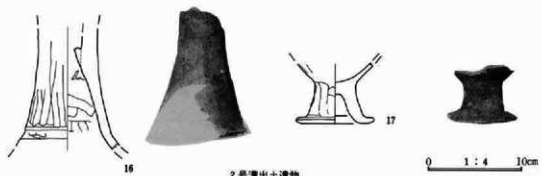
37号溝

- 1 暗褐色土。ローム粒含む。
- 2 暗褐色土。白色輝石粒含む。
- 3 黒褐色土。ローム粒、ロームブロック含む。
- 4 暗褐色土。ロームブロック、ローム粒含む。
- 5 黒色土。ローム粒含む。

0 1 : 40 1m



1号溝出土遺物

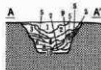
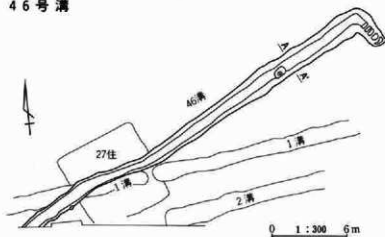


2号溝出土遺物

溝

46号溝

遺物観察表 36



L=88.60m  
0 1:100 2m

- 1 黒色土。白色軽石粒含む。
- 2 黒褐色土。白色軽石粒、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土。ローム、白色軽石粒含む。
- 4 黒褐色土。白色軽石粒、ローム含む。
- 5 暗褐色土。ローム粒含む。
- 6 暗褐色土。ローム含む。
- 7 暗褐色土。指頭大のロームブロック含む。
- 8 暗褐色土。ローム粒含む。
- 9 暗褐色土。多量のローム粒含む。
- 10 暗褐色土。ローム粒、ロームブロック含む。



1



2

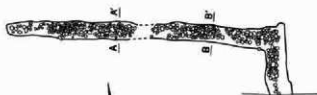


46号溝出土遺物

0 1:4 10cm



溝遺構 (障敷きの溝)



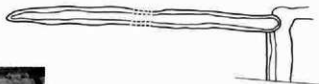
L=85.30m



L=85.40m



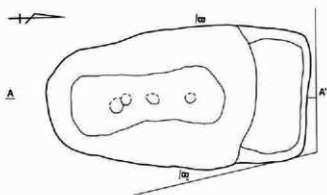
- 1 黄褐色土。褐色土ブロック含む。



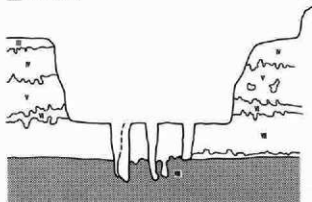
0 1:100 2m

# 土墳

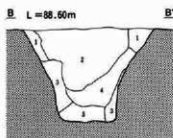
## 21号土墳



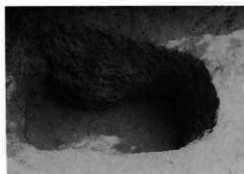
A L=88.60m



- |                  |                      |
|------------------|----------------------|
| III ソフトローム。      | VI 暗褐色土。下部にAT含む。     |
| IV ハードローム。S.P含む。 | VII 暗色帯。上部にAT含む。     |
| V ハードローム。B.P含む。  | VIII 暗色帯。VIIより黒味が強い。 |



- 1 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 2 黒褐色土。ロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。多量のロームブロック含む。
- 4 暗褐色土。ロームブロック含む。
- 5 反褐色土。ローム含む。



## 126号土墳

遺物観察表 37



A L=88.50m



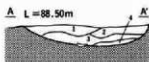
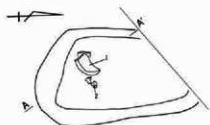
0 1:40 1m



0 1:4 10cm

144号土埧

遺物観察表 37



0 1:40 1m



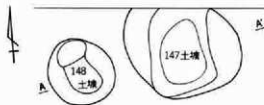
- 1 暗褐色土。As-B含む。
- 2 暗褐色土。ローム粒含む。
- 3 黒褐色土。As-B、ローム粒含む。
- 4 褐色土。ロームブロック含む。



0 1:4 10cm

147・148号土埧

遺物観察表 37



0 L=88.00m  
1:40 1m



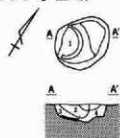
147号土埧出土遺物

0 1:4 10cm

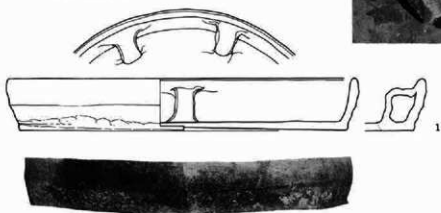


150号土坑

遺物観察表 37



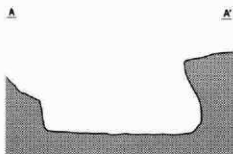
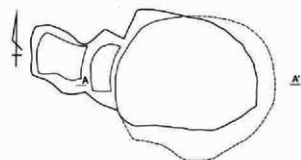
- 1 茶褐色土。
- 2 褐色土。ローム粒含む。
- 3 褐色土。ロームアブロック含む。
- 4 黄褐色土。ローム主体。



0 1:4 10cm

157号土坑

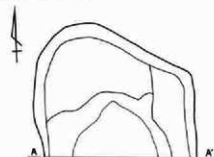
遺物観察表 37



0 1:4 10cm

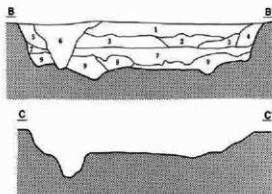
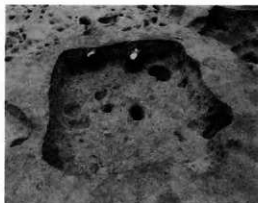
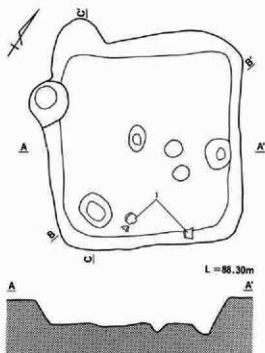
158号土坑

遺物観察表 37

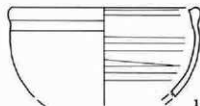
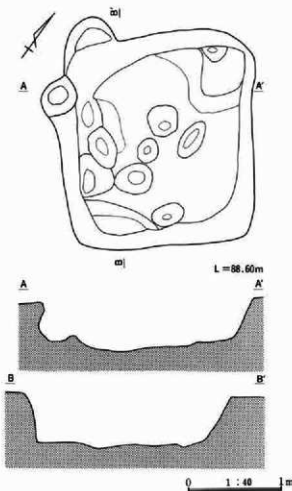


L=87.70m  
1:40 1m

0 1:4 10cm



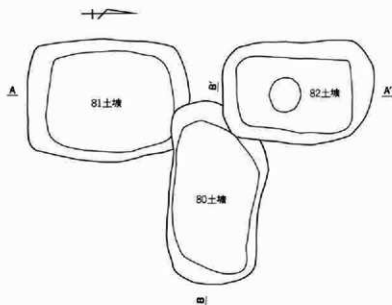
- 1 黒褐色土、ローム粒含む。
- 2 黒色土、ローム粒含む。
- 3 暗褐色土、ロームブロック含む。
- 4 褐色土、ローム含む。
- 5 暗褐色土、ローム含む。
- 6 暗褐色土、ロームブロック含む。
- 7 暗褐色土、黒色土、ロームブロック含む。
- 8 暗褐色土、ロームブロック含む。
- 9 黄褐色土、ロームブロック主体。



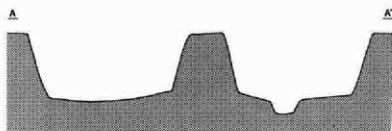
0 1 : 4 10cm

80~82号土坑

遺物観察表 37



L=88.50m  
1:40 1m



80号土坑



80号土坑出土遺物

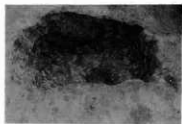


81号土坑



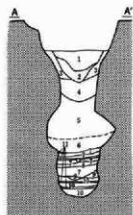
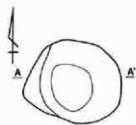
81号土坑出土遺物

0 1:4 10cm



82号土坑

1号井戸



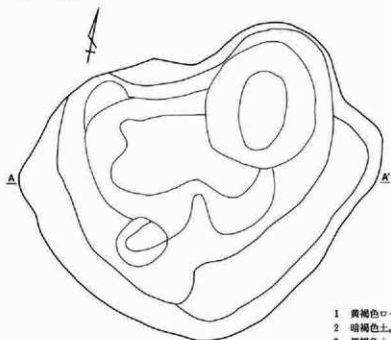
- 1 暗褐色土。ロームブロック、黒褐色土ブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のロームブロック含む。
- 3 暗褐色土。ロームブロック、白色粘土ブロック含む。
- 4 黒褐色土。
- 5 暗灰褐色土。ローム粒含む。

- 6 黒褐色粘質土。Hr-HP含む。
- 7 黄褐色砂質土。
- 8 黄褐色砂質土。炭化物を層状に含む。
- 9 青灰白色粘土。
- 10 黄褐色砂と青灰白色粘質土混土。
- 11 黒色土。炭化物含む。

L=88.50m  
1:40 1m

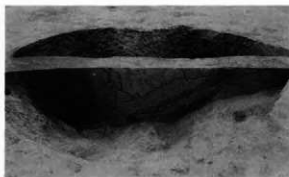
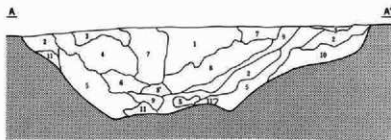


1号風倒木



L=88.76m  
1:40

- 1 黄褐色ローム。白色軽石粒、ロームブロック含む。
- 2 暗褐色土。多量のローム含む。
- 3 黒褐色土。白色軽石粒含む。
- 4 黒色土。ローム粒含む。
- 5 黒色土。指頭大のロームブロック含む。
- 6 黒色土。少量のロームブロック含む。
- 7 褐色土。φ2~3cmのロームブロック含む。
- 8 黄褐色ローム。
- 8' 黄褐色ローム。暗褐色土含む。
- 9 暗褐色土。指頭大のロームブロック含む。
- 10 褐色土。ローム主体。
- 11 ローム。



## VI 考 察

### 今井道上遺跡の集落構成と変遷

坂口 一

#### 1 はじめに

今井道上遺跡では、古墳時代中・後期と平安時代の竪穴住居35軒を検出した。このうち、平安時代の住居は、9世紀中葉の居館と推定される方形区画遺構に付随する可能性が高い<sup>(1)</sup>ので、この遺跡における竪穴住居を主体とした一般的な集落は、古墳時代の中期と後期に限定される。

ところで、この遺跡の北側に沖積低地を挟んで立地する荒砥北三木堂遺跡<sup>(2)</sup>では、弥生時代から平安時代にかけての竪穴住居78軒が検出されている。これらの住居の大半は古墳時代中期に属し、集落の消長は隣接しているにもかかわらず、この遺跡とは大きく異なっている。また、荒砥川を挟んでこの遺跡の西側に立地する今井白山遺跡では、古墳時代前期から平安時代にかけて、ほぼ時間的に連続した51軒の竪穴住居が検出され<sup>(3)</sup>、この遺跡の消長もまた、今井道上遺跡とは様相を異にしている。

このように、今井道上遺跡の周辺における各遺跡の動向は必ずしも一樣ではなく、その動向を正確に把握することは、この地域における集落の分析をする上での前提となる。

したがって、ここでは今井道上遺跡の集落の動向を把握すべく、住居に伴出する土器の分類を試みた上で、集落の構成とその変遷について検討してみたい。

#### 2 土器の分類と編年

##### (1) 土器の分類

土器の分類に際しては、竪穴住居に伴出する一括遺物とみなすことのできる土器群を扱い、住居から出土する頻度の高い主として坏と甕を基準にした。

##### I 期

土師器坏は①体部が彎曲するもの、②彎曲した体部から口縁部が短く外反するもの、③体部と口縁部を面す段差から外反する口縁部に至るものの3種類に分けられる。①と②は大形と小形の2種類があり、大形のものは小さな平底を呈す。いずれも体部外面に寛削り、内面に放射状の寛研磨を施す。

土師器甕は中位に最大径をもつ膨らんだ胴部を呈し、外面に寛削り、内面に寛撫でを施す。土師器甕は、膨らみの少ない胴部から短く外反する口縁部に至り、筒抜け状の底部を呈す(図1)。

##### II 期

土師器坏は①体部と口縁部を面す段差から、直立する口縁部に至るもの、②体部と口縁部を面す受部から、彎曲気味に内傾する口縁部に至るものの2種類に分けられる。いずれも体部外面に寛削りを施す。土師器甕は下位に最大径をもつ長胴で、外面に寛削り、内面には寛撫でを施す。土師器甕は外反する胴部下半から直立気味の同上半を経て、緩やかに外反する短い口縁部に至る。底部は筒抜け状を呈す。

須恵器坏蓋は、浅い天井部から天井部と口縁部を面す弱い稜線を経て、彎曲気味の口縁部に至る。天井部には左回転寛削りを施す。須恵器高坏は、端部が段をもつ短脚を呈す。坏蓋は、やや低くなった天井部及び、

鋭さを欠いた天井部と口縁部を画す稜線の特徴が、陶邑古窯址群における田辺昭三氏による編年(以下、田辺編年)のMT-15型式に比定することができる<sup>(4)</sup>。高坏はその形状こそTK-47型式に近似しているが、鋭い稜線を欠いた胴部部の造りには後出的な要素が認められ、MT-15型式における前型式の残存形態とみるのが妥当である。

### III 期

土師器は①体部と口縁部を画す稜線から、外反する口縁部に至るもの、②体部と口縁部を画す稜線から、外反する高い口縁部に至り、口縁部の中位に弱い段差をもつもの、③体部と口縁部を画す短い受部から、内傾する口縁部に至るもの、④体部と口縁部を画す稜線から、外彎する口縁部に至るものの4種類に分けられる。いずれも体部外面には寛削りを施し、④のみは内面に横位の篔研磨、及び黒色処理を施す。

須恵器坏身は、浅い体部から水平に伸びた受部を経て内傾する口縁部に至り、底部には右回転寛削りを施す。浅い体部と内傾する口縁部の形状から、田辺編年のMT-85に比定される。

### IV 期

土師器坏は①体部と口縁部を画す稜線から、短く外反する口縁部に至るもの、②体部と口縁部を画す稜線から大きく外反する口縁部に至り、口縁部の中位に弱い沈線状の窪みをもつものの2種類に分けられる。いずれも体部外面には寛削りを施す。

須恵器坏蓋は高い天井部で、天井部と口縁部を画す弱い稜線からやや外反する口縁部に至り、天井部には手持ち寛削りを施す。須恵器坏身は、短い受部から内傾する口縁部に至り、底部には右回転の寛削りを施す。坏身は短い受部、及び内傾する口縁部の形状が、田辺編年のTK-209~TK-217型式の様相を備えている。なお、坏蓋には地域的な形状の差が認められ、陶邑編年に同定することができない。

### V 期

土師器坏は、体部と口縁部を画す稜線から短く外反する口縁部に至り、体部外面には寛削りを施す。土師器壺は、膨らみのない胴部から外彎する口縁部に至り、外面に寛削り、内面に篔撫を施す。

須恵器坏蓋は①天井部と口縁部を画す段差から、中位に弱い段差をもつ外反した口縁部に至り、内傾する短い反りをもつもの、②天井部から緩やかに口縁部に至るものの2種類に分けられ、いずれも天井部には手持ち寛削りを施す。須恵器坏身は平底から僅かに出た受部を経て、短く内傾する口縁部に至る。立ち上がりの部分には、右回転寛削りを施す。坏蓋は飛鳥・藤原宮における土器の編年の、飛鳥Ⅲ期に位置付けられた須恵器坏G類に近似している<sup>(5)</sup>。なお、坏身には地域的な著しい形状の差が認められ、この編年に同定することができない。

### (2) 土器の編年

前節で分類した土器群をかつて筆者が提示した編年に同定することで、分類した各時期の編年的な位置付けを試みたい。なお、実年代については、土師器と須恵器が初期須恵器の時期から平行関係にあるという前提で、須恵器の実年代を援用する。

I 期は、体部が彎曲した坏、彎曲した体部から短く外反する土師器坏、体部と口縁部を画す稜線から短く外反する土師器坏と、膨らんだ胴部をもつ土師器壺の特徴が、筆者による古墳時代中期の土器編年のⅢ~Ⅳ段階に比定することができる<sup>(6)</sup>。この段階はTK-208~TK-47型式に平行している。したがって、I 期は5世紀後半に位置付けられる。

II 期は、体部と口縁部を画す段差から直立する口縁部の土師器坏と、下位に最大径をもつ土師器壺の特徴が、筆者による古墳時代後期の土器編年(以下筆者の編年)のⅢ~Ⅳ段階に比定することができる<sup>(7)</sup>。伴出する須

	土 器					須 惠 器
I 期						
II 期						
III 期						
IV 期						
V 期						

图1 今井遺上遺跡出土土器編年表



恵器もMT-15型式で、Ⅲ段階で想定している須恵器型式と一致している。したがって、Ⅱ期は6世紀前半に位置付けられる。

Ⅲ期は、体部と口縁部を画す稜線から外反する土師器坏と、口縁部の中位に弱い段差をもつ土師器坏の特徴が、筆者の編年のV～VI段階に比定することができ、伴出する須恵器もMT-85に近似している。したがって、Ⅲ期は6世紀後半に位置付けられる。

Ⅳ期は、体部と口縁部を画す稜線から短く外反する土師器坏の特徴が、筆者の編年のⅦ～Ⅷ段階に比定することができ、伴出する須恵器はTK-209～TK-217型式に近似している。したがって、Ⅳ期は7世紀前半に位置付けられる。

Ⅴ期は、体部と口縁部を画す稜線から短く外反する土師器坏と、膨らみのない胴から緩やかに外反する口縁部に至る土師器坏の特徴が、筆者の編年のⅨ～Ⅹ段階に比定することができ、伴出する須恵器も飛鳥Ⅲ期に近似している。したがって、Ⅴ期は7世紀後半に位置付けられる(表1参照)。

今井道上遺跡	坂口編年	須恵器型式	実年代
I 期	古墳時代中期 III～IV段階	TK-208～TK-47	5世紀後半
II 期	古墳時代後期 III～IV段階	MT-15 ～TK-10	6世紀前半
III 期	// V～VI段階	MT-85 ～TK-43	6世紀後半
IV 期	// Ⅶ～Ⅷ段階	TK-209～TK-217	7世紀前半
V 期	// Ⅸ～Ⅹ段階	飛鳥Ⅲ期	7世紀後半

表1

### 3 竪穴住居の構成

今井道上遺跡で検出した35軒の竪穴住居のうち、全形の推定が可能で、なおかつ伴出遺物を前節の土師の分類に同定できる住居が18軒である。これらを編年したものが年代別住居外形分類表(図2)であるが、これに従って各時期別の住居の構成を概観したい(住居の分類基準については、p.Ⅷ竪穴住居外形分類基準を参照)。

#### I 期(5世紀後半)

この時期に比定できる8軒の住居のうち、分類が可能な条件を備えたものが7軒である。これらは、中形正方形2軒、中形縦長正方形2軒、小形正方形2軒、小形縦長正方形1軒に分類できる。25号住居は外形が確定できないが、超大型正方形の可能性が高い。この住居を除く7軒は住居の規模が比較的近似し、軸線の傾きも近い(図2)。

#### II 期(6世紀前半)



















この時期に比定できる5軒の住居のうち、分類が可能なものは4軒である。これらは、超大型正方形2軒、小形正方形2軒に分類できる。35号住居は外形が確定できないが、超大型正方形の可能性が高い。超大型と小形で規模の差は大きいのが、分類されたなかでの個体差は小さく、軸線の傾きは全体に近似している。

#### III 期(6世紀後半)

この時期に比定できる6軒の住居のうち、分類が可能なものは2軒である。これらは、超大型正方形1軒、大形正方形1軒に分類できる。分類が不可能な4号住居、11号住居、20号住居は、軸線の傾きが極めて近似している。

#### IV 期(7世紀前半)

この時期に比定できる8軒の住居のうち、分類が可能なものは5軒である。これらは、大形正方形1軒、

		超 大 形	大 形	中 形	小 形
5 世 紀	後 正 方 形			 	 
	縱 長 方 形			 	
6 世 紀	前 正 方 形	 			 
	後 正 方 形				
7 世 紀	前 正 方 形				 
	橫 長 方 形				

0 1 : 300 5 m

圖2 年代別住居外形分類表

中形正方形1軒、小形正方形2軒、小形横長長方形1軒に分類できる。西壁に張り出し部をもつ28号住居は、張り出し部を除く外形が近接する13号住居に近似し、軸線の傾きも近い。

#### V 期(7世紀後半)

この時期に比定できる住居は2軒であるが、いずれも外形が確定できないために分類できない。

### 4 竪穴住居の変遷

今井道上遺跡の竪穴住居は5世紀後半から出現し、この時期は遺跡西半の沖積低地に近い部分に分布する。近似した間隔で近接して分布する中形・小形住居と対照的に、超大形と推定される住居がこれらのまとまりからやや離れて分布する(図3)。

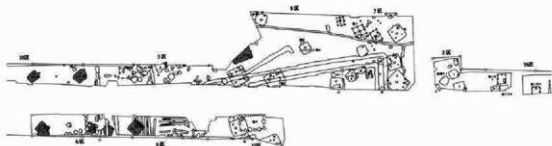


図3 5世紀後半の竪穴住居分布図

6世紀前半になると、住居の分布は遺跡東半の沖積低地から離れた台地側への移動がみられる。また、小形・中形と超大形とが離れた分布を示した5世紀後半と対照的に、小形と超大形とが混在するような分布へと変化し、分布する範囲をやや広げた6世紀後半へと続いている(図4・5)。

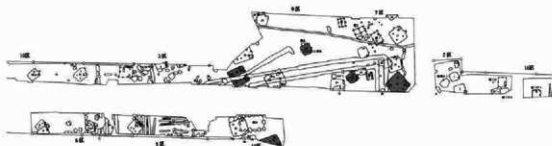


図4 6世紀前半の竪穴住居分布図

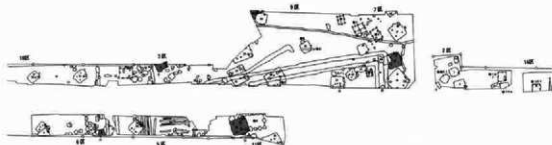


図5 6世紀後半の竪穴住居分布図

7世紀になると、分布する範囲はさらに東側の台地側へと広がる。また、少なくとも調査区域内においては超大型住居がみられなくなり、7世紀後半で遺跡の東側に分布する2軒を最後に、調査区域内には竪穴住居がなくなる(図6・7)。

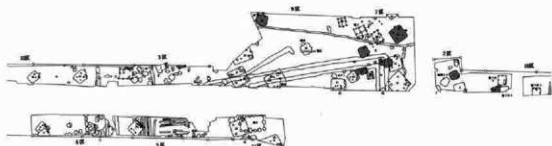


図6 7世紀前半の竪穴住居分布図

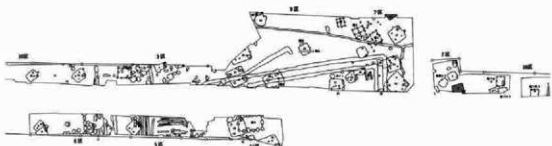


図7 7世紀後半の竪穴住居分布図

さて、今井道上遺跡における竪穴住居の年代別軒数は、図8のような推移をしていることが確認できる。したがって、この遺跡の調査範囲にみる限り、5世紀後半に出現した竪穴住居が7世紀後半まで継続し、その後は途絶えたことになる。

ところで、今井道上遺跡の北側には沖積低地を挟んで北三木堂遺跡が立地しており、ここでは弥生時代から平安時代にかけての竪穴住居78軒が検出されている。この遺跡の古墳時代以降における住居軒数の推移は、図9のようになる。これを見ると、北三木堂遺跡では5世紀前半から9世紀にかけての住居が検出されているが、6世紀後半から8世紀前半にかけての時期は、7世紀後半の1軒を除いて住居が断絶していることになる。

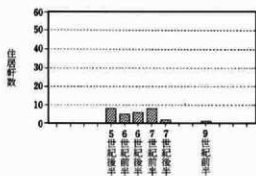


図8 今井道上遺跡の竪穴住居数

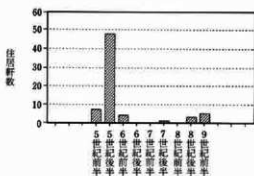


図9 北三木堂遺跡の竪穴住居数

ここで、これらの二つの遺跡を通じた竪穴住居の推移をみると、これでは5世紀前半から9世紀前半まで、時間的にほぼ連続した推移をたどることができることになる(図10)。すなわち、これらの遺跡を個々にみた場合は、その出現の時期と消長に差をもつ隣接した遺跡とみられるが、水田耕作を基本とする農耕集落という視点でみた場合、両遺跡の間に存在する沖積低地を介して、時間的に連続したひとつの遺跡であるとの解釈が成り立つ。つまり、個々の遺跡で断絶としていた空白期は、ひとつの農耕地を前提とした占地の変化と考えられるのである。

ちなみに、両遺跡の間に存在する沖積低地では、プラント・オパール分析結果から、6世紀初頭に降下した標名山ニツ岳降下火山灰層(Hr-FA)の直上で、稲作が行われた可能性を指摘している(別冊5頁参照)。

## 5 おわりに

今井道上遺跡の集落の動向を把握するため、竪穴住居に伴出土器の編年を試みた上で、その構成と変遷についての検討を行った。結果として、この遺跡は5世紀後半に出現して7世紀後半で消滅するが、これを北側に位置する北三木堂遺跡も含めてみた場合、両遺跡の間に存在する沖積低地での稲作農耕を前提とすれば、5世紀前半から9世紀前半にかけて継続した集落の形成をたどることができた。

このように、地域における集落の動向を分析するためには、各遺跡の動向を正確に把握する必要があると同時に、各遺跡を総合した動向の分析が重要であることは言を俟たない。そうした意味で、隣接する今井道上道下遺跡、今井白山遺跡をも含めた集落の分析が今後の課題となる。

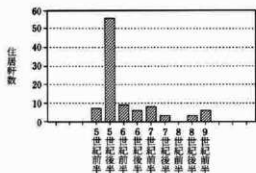


図10 今井道上・北三木堂遺跡の竪穴住居数

注

- (1) 平安時代の方形区画遺構については、当事業団の神谷佳明氏が本編第VI章において論述しているので参照されたい(神谷佳明「今井道上遺跡の方形区画遺構について」)。
- (2) 石坂 茂「荒砥北三木堂遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1991
- (3) 飯島義雄「今井白山遺跡」 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1993
- (4) 田辺昭三「須磨器大成」 1981
- (5) 西 弘海「土器の時期区分と型式変化」【飛鳥・藤原京発掘調査報告】II 奈良国立文化財研究所 1978
- (6) 坂口 一「群馬県における古墳時代中期の土器の編年」-共存関係による土器型式組列の検討-【研究紀要】4 群馬県埋蔵文化財調査事業団 1987
- (7) 坂口 一「古墳時代後期の土器の編年」-三ツ寺田遺跡を中心とした土器器と須磨器の平行関係-【群馬文化】第208号 群馬県地域文化研究協議会 1986

## 今井道上遺跡の方形区画遺構について

神谷佳明

### 1 調査の概要

今井道上遺跡で検出された区画溝は、区画溝で囲まれた施設の北側部分だけであるが、北辺は外帯の溝の外側で113m、内帯の溝の内側で103mとほぼ1町(109m強)の規模を測る大型の施設である。

この区画溝は、国道50号を挟んですぐ南側を発掘調査している今井道上道下遺跡でも検出され、さらにその南側を前橋市教育委員会の発掘調査でも検出されている<sup>(1)</sup>。

その調査成果は、今井道上道下遺跡の整理作業が平成5年度に予定されているため詳細については整理作業を待たねばならないが、概略については第1回の概略図と発掘担当者によると次のとおりである。発掘調査区の西側を今井道上遺跡の1号・2号溝とほぼ同様な規模をもつ2条の溝が南北方向にほぼ平行して検出され、1号・2号溝の北東の角から外帯の溝は63m、内帯の溝は59mとほぼ同じ位置に土橋状に3.5~4mほど掘り残した部分が見られたとのことである。

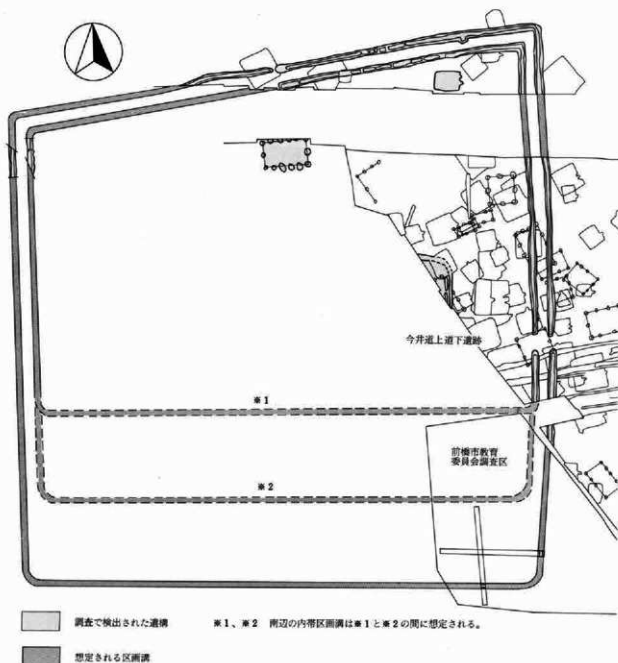
前橋市教育委員会の発掘調査では、2本の試掘坑による発掘調査ではあるが外帯の溝が検出されている。外帯の溝は北東の角より106mほどでその方向を東西方向に変えることが確認されている。内帯の溝は試掘坑では確認されておらず、北東の角から71~95mの間で途切れるか、方向を東西方向に変えると想定される。

この区画溝からは、古墳時代から平安時代にかけての遺物が出土しているが(151・152頁参照)、古墳時代の遺物の多くは、重複する古墳時代の住居跡付近からの出土でこれらの住居跡のものと考えられ、区画溝に伴う遺物は、古墳時代のもを除き区画溝が単独で存在する地点より出土している遺物を見ると、8世紀後半から9世紀中葉のものである。1号溝と2号溝の出土遺物を比較すると1号溝のほうが多少古い時期のものが多く1号溝と2号溝が同時に存在したか否か疑問視される部分もあるが、後述のように溝の覆土を観察すると1号溝では外側の土壁の崩落による埋没が認められることから本施設が構築された当時から2条の溝が存在していたか否かは解らないが、本施設の終焉時には外帯と内帯の溝が存在していたと想定される。

### 2 区画の規模

上記の発掘調査からこの施設の規模を想定すると外帯の区画溝は、外側で北辺が114m、東辺が118m、南辺が113m、西辺91mである。内帯の区画溝は、内側で北辺103m、東辺71~95m、南辺103m、西辺60~84mである。各溝の位置関係から南北方向の溝の方位は、真北を指し、ほぼ平行であるのに対して東西方向の南辺の溝は、南北方向の溝にほぼ直交するが、北辺の溝は北東角が82°、北西角が約98°の角度をもち、西辺の短い台形状の形態を呈する。このように外帯の溝は、西辺が多少短いもののほぼ方1町の規模をもつ。また、この施設全体の面積は11,808㎡、内帯の区画溝内側は最小で7,261~最大で9,733㎡であると推定される。

本施設では、北辺、東辺、西辺の外帯と内帯区画溝の間隔が2~2.5mと狭いのに対して、南辺の区画溝は外帯と内帯の間隔が広い。このような例として遺跡の北方2.5kmに位置する上西原遺跡でも西辺の外溝と内溝の間隔が20mと広い例が見られる<sup>(2)</sup>。



第1図 区画溝全体想定図(1:800)

### 3 区画に伴う施設

本施設を区画する遺構としては、外帯と内帯の溝が検出されているがこのような多くの施設では外部と内部を区画する施設として溝のほか立体的な遮蔽物として築地なり土塁や櫓が設けられるのが一般的である。本施設でも区画溝の覆土を観察すると外帯の溝は、底部付近が若干埋没した後、施設内側からごく短期間に埋没していることが解る。また、内帯の溝は、大部分の地点では底部付近が若干埋没した後、内側からと外側から埋没している。前記のことから外帯の溝の内側には、土塁の存在が想定され、内帯の溝の内側にも部分的に土塁が存在していた可能性が想定される。

区画内への入口は、調査された範囲のなかでは今井道上下道下遺跡調査区内の東辺の中央よりやや南よりに土橋状の掘り残しが外帯の溝で3.5m、内帯の溝で4m見られ、これが東からの入口と想定される。また、今井道上遺跡でも北辺の中央で外帯の溝が掘り残されており、内帯も同位置で途切れているが、外帯の溝の掘り残されている幅が0.5mと狭いため入口の施設とは断定するには根拠が希薄である。このほか調査区外の南辺や西辺にも入口が設けられた可能性は考えられる。

施設内部の建物としては、今井道上遺跡6号掘立柱建物跡、21号住居跡、今井道上下道下遺跡調査区の西端で検出された建物跡に伴うと想定される方形の小溝が見られる。

6号掘立柱建物跡は、遺物がまったく出土しておらず、重複する33号住居跡が6世紀後半に位置付けられており、それより後出であることは判明しているが詳細な時期については明確ではない。この建物跡は、梁行5間(9.3m)×桁行2間(5.4m)で柱穴も径1m程で深度1.6m前後と大型で土層断面では柱穴も40cm前後と太く大規模な掘立柱建物であったと想定される。また、区画の中での位置も北辺の区画溝がN-82°Eの方位で走行するのに平行しており、区画溝の北東角と北西角のほぼ中央に存在していることから本施設の一部であったと想定される。

21号住居跡は本施設の北東隅に位置しており、出土遺物から9世紀中葉に比定され区画溝から出土している遺物の内でも新しい時期のものと同じ時期のものであることから本施設に当初から存在はしていないものの本施設の内部に構築された住居跡である。

今井道上下道下遺跡の建物跡と想定される遺構は、詳細は整理作業前のため不明であるが概略はL字型に溝が検出されており、北側の東西方向は1条、東側の南北方向は2条が平行しており内側の溝が途中で切られる部分が見られる。区画溝との位置関係は南辺の内側から16mに位置し、南北方向の溝と平行しており本施設に伴う建物の一部であると想定される。

このほか、今井道上下道下遺跡での区画内部は、区画溝と同じ方位をもつ掘立柱建物跡や竪穴住居跡が見られるが現段階では出土遺物についての検討ができないので今後の課題としておきたい。

#### 4 遺構の性格

区画溝に囲まれた本施設は、発掘調査が行われた範囲も北東部分と一部でしかない。また、そのうちの今井道上下道下遺跡については今後本格的な整理作業が行われるため現段階では詳細な点や出土遺物については不明であるため、今井道上下道下遺跡の整理作業の結果によっては変更される点もありえる。しかし、現段階では、ほぼ方1町の二重の溝と土塁に囲まれ、大型の2間×5間の掘立柱建物、周りに雨落ち溝的な溝をもつ建物など都衙などの政庁に相当する施設が区画内部の周辺部に建物を配置する様相と類似しており、官的な要素が見られると共に、ごく一般的な竪穴住居跡が併存しており、館のような私的な要素の両面が見られる。

今井道上遺跡では、これらの遺構からの出土遺物は土師器杯、甕、須恵器杯碗などごく一般的なもので本施設の性格について推定されるような器種や墨書土器はみられず、遺物からの究明は困難である。

本施設のような区画内部に掘立柱建物と竪穴住居が併存する施設としては、県内では前橋市の下東西遺跡<sup>(4)</sup>が知られている。

下東西遺跡は、区画の東側部分の調査であるが東辺が約130mの溝と土塁・柵によって区画され、さらにこの区画は内部を北と南に溝と柵によって区画されており、北部の区画には孫庇をもつ掘立柱建物群を初めとする掘立柱建物が位置し、南部の区画には竪穴で結ばれた2軒の竪穴住居が存在し、区画溝からは多量の供



膳具を中心とする土器群や円面硯等が出土している。これらの遺構や遺物から下東西遺跡は、7世紀末から8世紀初頭にかけての「官衙」と「館」の両方の可能性が指摘されている。

県内では、現在のところ下東西遺跡だけであるが、近県では神奈川県横浜市港北区神懸丸山遺跡<sup>(8)</sup>、長野県松本市下神遺跡<sup>(9)</sup>、塩尻市吉田川西遺跡<sup>(10)</sup>が知られている。

神懸丸山遺跡は、高位台地に立地し、一辺52m四方の区画溝の内部に計画的に1間×23間の「コ」の字状の掘立柱建物と2間×2間と2間×4間の掘立柱建物が配置され、北東隅に竪穴住居跡が1軒併存している。この施設は、武蔵国都筑郡における一拠点として10世紀代に成立・廃絶した「館」と想定されていたが、1間×23間の長大な「コ」の字状掘立柱建物が存在することから「神社」ではないかとの見方もされている。

下神遺跡は、扇状地の扇端部に立地し、約70m程の鉤の手状の二重の溝と溝の間の欄によって区画された内部に9×7.5mの大型の竪穴住居を初めとする竪穴住居群と掘立柱建物跡群が配置されている。この施設は、9世紀代の大型の竪穴住居や「草茂」の墨書土器の出土から、古代「草茂庄」に関係する有力家族の「館」と想定されている<sup>(9)</sup>。

吉田川西遺跡は、扇状地に立地し、一辺45m以上の区画溝をもち、さらに内部を溝によって2分され、片方に竪穴住居群、もう片方が掘立柱建物群に分かれる。本施設は、11世紀中葉の公的な行事を行う空間と私的な「館」を兼ね備えた施設と想定されている。

以上のような区画された内部に掘立柱建物と竪穴住居を併存する施設の類例を見ても今井道上遺跡の施設と同様な面と相違する面が見られ、なかなか本施設の性格を断定するには至らないが、現段階では出土遺物もごく少量で一般の集落から出土するものと同様で官的要素を示すものもなく、同じ区画の内部に竪穴住居が本施設の後半段階で構築されている点から「館」と考えたい。

おわりに今井道上遺跡は、古代上野国勢多郡に位置するが当遺跡の周辺を外観すると第2章「周辺遺跡」に見られるようにすぐ北側を東山道が東西に位置していたと推定され、本遺跡の東側に位置する二之宮谷地遺跡<sup>(8)</sup>では遺構こそ検出されていないが瓦塔片や瓦が出土しており近隣に寺院跡が存在した可能性が窺える。

二之宮谷地遺跡の東側に位置する二之宮洗橋遺跡<sup>(11)</sup>の旧河道跡からは、芳賀郷を略したと思われる「芳郷」が墨書された8世紀中葉から後半の須恵器が数個体出土している。また、荒砥洗橋遺跡<sup>(12)</sup>では「大郷長」が墨書された8世紀末の土師器が出土している。このような「芳郷」、「大郷長」等の墨書土器から二之宮洗橋遺跡と荒砥洗橋遺跡の付近には、芳賀郷の郷家等の施設の存在が窺える。

二之宮谷地遺跡や荒砥洗橋遺跡、二之宮洗橋遺跡からの前記の出土遺物は、8世紀から9世紀にかけてのもので本施設の存在していた時期とほぼ同時期であり、本施設をふくめたこの近辺は8世紀から9世紀にかけては勢多郡なり芳賀郷の中心的地域であったことが窺える。

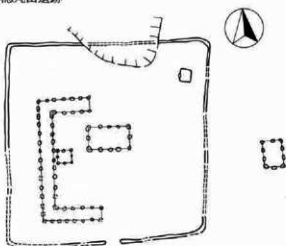
現在、荒砥洗橋遺跡のほかの遺跡については、整理作業が進行中でありこれらの成果が待たれる。

なお、本稿を草するにあたっては、前橋市教育委員会より資料の提供をいただいた。また、当事業団今井道上道下遺跡、二之宮谷地遺跡、二之宮洗橋遺跡の整理担当者よりご教示をいただいた。文末ながら記して感謝の意を表します。

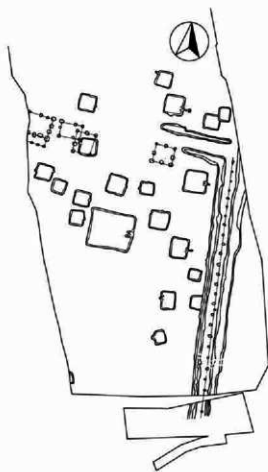
下東西遺跡



神隠丸山遺跡

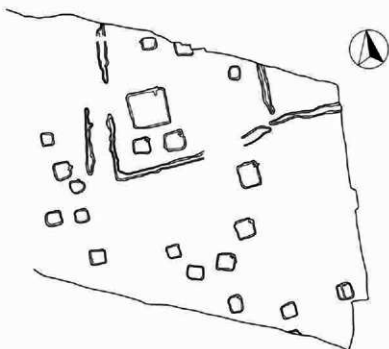


下神遺跡



(スケール 1:1000)

吉田川西遺跡



注

- (1) 調査担当者より、概略図の提供と遺跡の概略についてご教示をいただいた。
- (2) 前橋市教育委員会より図面の提供と調査の概略についてご教示をいただいた。
- (3) 群馬県教育委員会「上西原・向原・谷津」一昭和60年度荒砥北部遺跡群発掘調査報告一1988
- (4) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「下東西遺跡」一関越自動車道（新路線）地域埋蔵文化財発掘調査報告書第16集-1987
- (5) 横浜埋蔵文化財センター「全道跡調査概要一港北ニュータウン地域内埋蔵文化財調査報告一」1990
- (6) 群馬県埋蔵文化財センター「下神遺跡」中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書6一松本市内 その3-1990
- (7) 群馬県埋蔵文化財センター「吉田川西遺跡」中央自動車道長野線埋蔵文化財発掘調査報告書3一塩尻市内 その2-1989
- (8) 國平健三「奈良・平安時代の集落」一集落内にみられる掘立柱建物位置づけ一『神奈川県下における集落変遷の分析』かながわの考古学第2集 1992
- (9) 二之宮谷地遺跡は現在群馬県埋蔵文化財調査事業団で整理中であるが、整理担当者からご教示をいただいた。
- (10) 二之宮洗橋遺跡は現在群馬県埋蔵文化財調査事業団で整理中であるが、整理担当者からご教示をいただいた。
- (11) 群馬県埋蔵文化財調査事業団「荒砥洗橋遺跡・荒砥宮西遺跡」一昭和55年度県営園場整備事業荒砥宮南部地区に係る埋蔵文化財発掘調査報告書一 1989

竪穴住居索引表

住居 番号	掲載頁	遺物 観察表	グリッド	規模・形状	柱 穴	電	面積(m <sup>2</sup> )	方位	年 代
1	6	11	D1-01	小形正方形	無主柱	東壁南	10.74	+69°	7世紀前半
2	9	11	D1-02	不明	無主柱	東壁	測定不可能	+78°	7世紀後半
3	12	11	C1-24	不明	不明	不明	測定不可能	+69°	7世紀前半
4	13	11	C8-23	不明	不明	東壁	測定不可能	+69°	6世紀後半
5	17	12	D1-02	不明	不明	不明	測定不可能	+80°	不明
6	穴 番								
7	18	12	Cd-04	中形正方形	4個	北壁中	25.10	+37°	5世紀後半
8	22	13	B1-04	中形正方形	無主柱	北壁中	18.45	+42°	5世紀後半
9	30	14	B1-04	小形縦長長方形	無主柱	東壁中	13.86	+54°	5世紀後半
10	32	15	B7-04	小形正方形	4個	北壁中	14.03	+26°	5世紀後半
11	36	15	Ca-05	不明	4個	不明	測定不可能	+69°	6世紀後半
12	38	16	Cb-05	小形正方形	4個	北壁西	測定不可能	+31°	5世紀後半
13	42	17	Dc-23	小形縦長長方形	無主柱	東壁南	14.14	+70°	7世紀前半
14	45	17	Df-01	超大形正方形	4個	東壁南	54.99	+50°	6世紀前半
15	53	19	Df-24	大形正方形	4個	北壁東	29.82	-10°	6世紀後半
16	58	20	Db-00	不明	不明	東壁	測定不可能	+85°	7世紀前半
17	61	21	Df-21	大形正方形	4個	北壁中	31.63	-31°	7世紀前半
18	68	23	De-19	不明	不明	不明	測定不可能	+59°	7世紀後半
19	74	24	Cq-19	中形正方形	無主柱	北壁中	17.54	+18°	7世紀前半
20	77	24	Cq-19	不明	不明	東壁	測定不可能	+68°	6世紀後半
21	80	25	Cy-01	中形縦長長方形	無主柱	東壁中	21.12	+95°	9世紀中葉
22	82	25	Da-00	小形正方形	4個	東壁中	16.22	+59°	6世紀前半
23	86	26	Cy-02	不明	不明	東壁	測定不可能	+70°	不明
24	88	26	Cv-22	小形正方形	無主柱	東壁中	15.31	+65°	6世紀前半
25	90	26	Co-23	不明	不明	東壁	測定不可能	+72°	5世紀後半
26	95		Ca-00	超大形正方形	4個	東壁南	54.75	+65°	不明
27	98	27	Co-00	超大形正方形	4個	東壁中	45.04	+69°	6世紀前半
28	105	29	De-24	小形正方形	無主柱	東壁中	17.33	+74°	7世紀前半
29	108		Dd-02	不明	不明	不明	測定不可能	+50°	不明
30	109	29	B1-24	中形縦長長方形	無主柱	東壁中	14.78	+55°	5世紀後半
31	114	30	Bx-24	中形縦長長方形	4個	東壁中	17.68	+57°	5世紀後半
32	120	31	Cf-23	中形縦長長方形	4個	東壁南	21.06	+47°	不明
33	122	31	Co-05	超大形正方形	4個	北壁中	43.55	-16°	6世紀後半
34	127	33	Cp-06	不明	不明	北壁東	測定不可能	-9°	6世紀後半
35	130	33	Cr-06	不明	4個	東壁	測定不可能	+70°	6世紀前半
36	穴 番								
37	134	34	Do-02	不明	無主柱	東壁	測定不可能	+71°	7世紀前半

### 竪穴状遺構索引表

遺構 番号	掲載頁	遺 物 観察表	グリッド	規 模・形 状	柱 穴	電	面 積(m <sup>2</sup> )	方 位	年 代
1	136	35	E i - 04	不明	不明	無	測定不可能	+3°	中世
2	137		E x - 03	長方形	6個	無	13.46	+95°	中世?
3	138	35	D P - 01	長方形	6個	無	11.81	+4°	中世?
4	139	35	D t - 03	不明	3個	無	測定不可能	+3°	中世?
5	140		E e - 07	長方形	無主柱	無	10.56	+87°	中世?
6	141		D P - 02	不明	無主柱	無	測定不可能	-13°	中世?

### 掘立柱建物索引表

掘立 番号	掲載頁	遺 物 観察表	グリッド	棟走向	柱 間	短軸(m)	長軸(m)	面積(m <sup>2</sup> )	方 位	重 複
1	143		D d - 21	N-S	2×2	3.2	4.5	14.40	-30°	1号棚列 33住
2	144		D b - 21	E-W	2×2	3.8	4.4	16.72	+70°	
3	145		D a - 20	N-S	2×2	2.9	3.2	9.28	-10°	
4	145		C d - 24	E-W	2×3	3.9	5.4	21.06	+92°	
5	146		A v - 02	E-W	1×2	3.7	5.6	20.72	+99°	
6	147		C P - 04	E-W	2×5	5.4	9.3	50.22	+82°	
7	146		D c - 00	N-S	1×2	2.0	2.4	4.80	-8°	



群馬県埋蔵文化財調査事業団  
発掘調査報告書第165集

## 今井道上遺跡

一般国道50号(東前橋拡幅)改築工事に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書第2集

平成6年3月23日 印刷

平成6年3月25日 発行

編集・発行／群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377 勢多郡北橋村大字下箱田784番地の2

電話(0279)52-2511(代表)

印刷／上毎印刷工業株式会社